

2019年度指定 文部科学省事業

地域との協働による

高等学校教育改革推進事業（グローバル型）

研究報告書

第1年次

「観光都市 with SDGs」

～伊勢志摩！未来創造プロジェクト～

三重県立宇治山田商業高等学校

2019年度指定
地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）

研究報告書・第1年次

令和2年3月 三重県立宇治山田商業高等学校

目次

巻頭言 校長 廣島 朗

1 研究開発実施状況報告書（別紙様式2）	1
2 実施報告書	
（1）SDGs基礎プログラム	11
（2）SDGs探求プログラム	21
（3）SDGs語学力向上プログラム	45
（4）伊勢志摩PRプログラム	48
（5）国際交流プログラム	61
（6）成果発表に係る活動	72
（7）効果の測定	87
（8）運営指導委員会報告	99
（9）グローバル人材育成コンソーシアムみえ報告	101

巻 頭 言

本校は、令和元年度から3年間、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の指定を受け、「観光都市 with SDGs ~伊勢志摩！未来創造プロジェクト~」を本校テーマとし、「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー育成」を目指した新しい教育活動に取り組み始めました。

研究を進めるにあたって、地元伊勢市をはじめ、運営指導委員の皆さま、コンソーシアム委員の皆さま、関係機関の方々からのご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

本研究では、持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダーを育成するために、「SDGs推進プログラム」と「観光都市を描くプログラム」の2つのプログラムについて研究開発を行うこととしました。2つのプログラムのうち「SDGs推進プログラム」では、SDGsの視点を持って自然・歴史・食文化等の魅力あふれる伊勢志摩地域を持続可能な社会として未来につなげるため、教科横断的な学習、探究的な学習、課題解決型学習、高度で実践的な英語教育をとおして、課題解決力、論理的思考力、地域への貢献力、語学力、すなわちこれらの力を「地球市民力」と定義して育成を図っています。もう一つのプログラム「観光都市を描くプログラム」では、観光資源豊かな伊勢志摩の魅力を広く国内外に発信するとともに、新しい観光ビジネスモデル等を実現するため、課題研究や国際交流活動をとおして、企画力、調整力、実践力、突破力、創造力、すなわちこれらの力を「未来創造力」と定義して育成を図っています。

また、持続可能な社会を構築する「地球市民力」と観光都市伊勢志摩の未来を描く「未来想像力」を育成するためのプログラム開発にあたっては、生徒個々の資質・能力を測定するツール「GROW」や、事業取組に関する生徒アンケート、コンソーシアム会議での評価等による成果・効果の検証を行い、持続可能なカリキュラムとなるよう研究開発を進めてまいります。

本報告書は、文部科学省より「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」に指定された3年間（平成31年4月から令和4年3月）のうち、初年度における研究成果をとりまとめたものです。この3年間で研究成果をさらに発展・進化させて、本校教育活動に新たに組み込み、引き続き、生徒たちが、高い志をもって、新しい時代を切り拓く地域社会のリーダーとして羽ばたいていってくれるよう、取り組んでまいります。

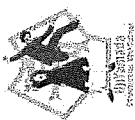
最後になりましたが、本年度の本校の研究に多大なるご支援、ご指導を賜りました関係者の皆様方に改めて感謝を申し上げます。

三重県立宇治山田商業高等学校

校長 廣島 朗

「観光都市 with SDGs」～伊勢志摩！未来創造プロジェクト～

- 1 目的:持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダーを育成
- 2 目標:「地球市民力」と「未来創造力」を育成するカリキュラム開発
- 3 取組概要



地球市民力の育成

グローバルな視野を持ち、持続可能な社会を構築する力
「課題解決力」、「論理的思考力」、「地域への貢献力」、「語学力」

1. SDGs 推進プログラム開発

- ① SDGs 基礎プログラム (教科横断的な視点)
 - ◆ 貧困の根絶 (経済・社会開発) と持続可能な社会 (環境) の両立や不平等 (格差) の是正等について、様々な教科・科目で系統的に学習
- ② SDGs 探究プログラム
 - ◆ 科目「課題研究」において、グローバルカンパニーでのインターンシップ、廃材を活用した商品開発等を実践
- ③ SDGs 語学力向上プログラム
 - ◆ 科目「グローバル・コミュニケーション」において、地球的課題について、ディスカッションやディベートを実施



家具などの廃棄ごみリデュースプランの開発



Franco

未来創造力の育成

「地域・世界」「人・もの・サービス」をつなぐ力
「企画力」「調整力」「実践力」「突破力」「創造力」

2. 観光都市を描くプログラム開発

- ① 伊勢志摩PRプログラム
 - ◆ 科目「課題研究」で、コンソーシアムと連携し、SDGsの視点を踏まえた課題解決型学習の実施
- ② 国際交流プログラム
 - ◆ オーストラリア姉妹校との連携を強化 (Web会議システム活用, 長期留学生受け入れ)
 - ◆ SDGs や観光についての海外研修プログラム作成



様々な国の人と交流し、世界から訪れる人を出迎える観光プログラムの開発



自然と暮らしを繋げるグリーンツーリズムモデルの開発



効果の測定とカリキュラム・マネジメント

- ◆ GROW
- ◆ パフォーマンス評価
- ◆ 生徒アンケート
- ◆ コンソーシアム会議等での評価 等

数値目標

- ◆ 地域の活性化プラン作成本数：3本/3年間
- ◆ 海外と交流を行った回数：3回/年
- ◆ ディベート・ディスカッション等の評価規準作成：5本/3年間
- ◆ 国際的なイベント等への参加回数：3回/年 等

連携協力

- ◆ 皇学館大学文学部コミュニケーション学科
- ◆ 地方自治体 (伊勢市等)
- ◆ J/A伊勢, 伊勢市商店街 等
- ◆ モンパルク・カレッジ (オーストラリア姉妹校)

1 研究開発実施状況報告書（別紙様式2）

1 事業の実施期間

令和元年5月16日（契約締結日）～ 令和2年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 三重県立宇治山田商業高等学校

校長名 廣島 朗

類型 グローカル型

3 研究開発名

「観光都市 with SDGs」 ～伊勢志摩！未来創造プロジェクト～

4 研究開発概要

(1) SDGs推進プログラムの開発

① SDGs基礎プログラム（教科横断的な視点）

各教科・科目でSDGsに関連する知識・技術を育成するとともに、SDGsについて造詣が深く生徒への講演や指導、教員研修等を行うことができる者や企業でSDGsを担当している専門家等から、貧困の根絶（経済や社会開発）と持続可能な社会（環境）の両立や不平等（格差）の是正について学ぶ機会を設ける。

② SDGs探究プログラム

科目「課題研究」において、1・2年次で学習したSDGsの知識・技術を活用し、伊勢市内のグローバルカンパニーへのインターンシップや廃棄食材を使用した商品開発等を実践し、思考力・判断力・表現力等を高める探究的な学びを実施する。

③ SDGs語学力向上プログラム

語学力の向上や異文化理解を深めるため、皇學館大学等の留学生との交流会や校内外の英語スピーチコンテスト等への積極的な参加を推進する。また、学校設定科目「グローバル・コミュニケーション」を設置し、留学生等と福祉、医療、環境等の地球的規模の課題に関するディスカッション等をとおして、英語コミュニケーション力の向上を図る。

(2) 観光都市を描くプログラム開発

① 伊勢志摩PRプログラム

科目「課題研究」において、観光資源（自然・歴史・食等）が豊かな伊勢志摩地域を活性化するため、「勝手に伊勢志摩観光大使（仮称）」等の取組を行う。また、広く国内外に伊勢志摩の魅力を発信し、観光客の増加を図るため、伊勢市が進める「伊勢市・グローバル・オープン・イノベーション事業」に参画する。

② 国際交流プログラム

海外交流アドバイザーの支援を得ながら、生徒が国内外で国際交流活動（観光先進国への海外研修、三重県が観光協定を結んでいる台湾との交流等）を推進し、主体性・積極性等を育成するとともに、観光先進国から、伊勢志摩地域を観光都市として確立する手法等を学ぶ機会を創出する。

(3) 効果測定の開発・検証

① パフォーマンス・ポートフォリオに関する評価規準の策定

・ 英語によるディベートやディスカッション等のパフォーマンス、課題研究及び校外に

おける活動等に係るポートフォリオを評価するための評価規準を策定する。

② 資質・能力測定ツール「AiGROW」を活用した各種プログラムの効果測定

- ・ IGS株式会社と連携し、資質・能力測定ツール「AiGROW」を活用して生徒の資質・能力の伸びを把握し、各種プログラムの効果を検証する。

③ 外部評価

地域・コンソーシアム等への提言等を含めた発表会において、課題研究の成果を地域社会に発信し、アンケート等により外部有識者の評価を受ける。

5 教育課程の特例の活用の有無

学校設定教科・科目を開設する

6 管理機関の取組・支援実績

(1) コンソーシアムについて

① コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名
宇治山田商業高等学校	校長 廣島 朗
伊勢市役所	産業観光部 部長 須崎 充博
皇學館大学	文学部コミュニケーション学科 教授 豊住 誠
伊勢農業協同組合	営農部 部長 河井 英利
ULジャパン	人事総務部 部長代理 福村 伝史
海女小屋 はちまんかまど	代表取締役社長 野村 一弘
三重県教育委員会事務局高校教育課	課長 諸岡 伸

② 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年7月1日	コンソーシアムを組織
令和元年10月2日(第1回)	<p>第1回会合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業概要と評価について説明 ・ SDGs推進プログラムを学校全体の取組として進める方策について検討 ⇒SDGsアドバイザーによる教員向け研修会開催を決定 ・ 観光都市を描くプログラムの充実を目指した課題研究の内容検討 ⇒課題研究は複数講座で実施しており、各講座の観光の取組(商品開発, 外国人向け観光HP作成等)を融合することで、学校としての観光教育を進める方向性を決定
令和元年10月31日(第2回)	<p>第2回会合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国サミット(10/24開催)の報告 ・ SDGs推進プログラムを学校全体の取組の進捗状況等について ⇒SDGsアドバイザーによる教員向け研修会に加え、学年の枠を超えた生徒向け学習会の実施を報告 ⇒全授業で、各科目の内容と関連するSDGsの視点を踏まえた授業実践を決定 ・ 観光都市を描くプログラムの充実を目指した内容検討 ⇒コンソーシアム参加企業(ULジャパン)へのインターンシップを決定 ⇒コンソーシアム参加大学(皇學館大学)と連携したディスカッションプログラム等を検討

令和2年1月31日(第3回)	<p>第3回会合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果発表会を見学 ・発表会から本年度取組の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ⇒校内英語スピーチコンテストの優秀者2名の発表により、商業高校生でも、しっかりと語学力が向上していることが分かり、プログラムの有効性の高さを共有 ⇒SDGsの視点を踏まえ、課題解決型学習により、環境問題に関するアプリ開発など、SDGsの取組が浸透していることを共有 ・次年度に向けて <ul style="list-style-type: none"> ⇒海外研修(スウェーデンとマレーシア)の実施内容を提案し、SDGsの理念を持った企業訪問や、伊勢志摩のエコツアーなどを作成等について、研修プログラムを検討
----------------	--

(2) カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

① 指定した人材・高等学校における位置付けについて

<カリキュラム開発専門家(SDGsアドバイザー)>

東北大学助手 三橋 正枝

<海外交流アドバイザー>

愛知労働局外国人雇用管理アドバイザー 神田 すみれ

② 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年6月17日	校内地域課題研究委員会に出席 各プログラムの本年度スケジュールについて協議
令和元年7月1日	校内地域課題研究委員会に出席 SDGs基礎プログラムについて協議
令和元年8月30日	SDGsをテーマに教員校内研修会を実施
令和元年9月13日	校内地域課題研究委員会に出席 SDGs基礎プログラムについて、各教科・科目から出されたアイデアをもとに協議
令和元年10月9日	海外交流アドバイザーと海外研修(スウェーデン、マレーシア)について協議
令和元年10月25日	校内地域課題研究委員会に出席 生徒向けSDGs講演会の内容について協議
令和元年11月8日	校内地域課題研究委員会に出席 次年度の課題研究テーマ「観光」について協議
令和元年11月20日	次年度課題研究について、事業担当と打ち合わせ
令和元年11月21日	校内地域課題研究委員会に出席 観光・環境・ダイバーシティ・イノベーション・SDGsの観点で、次年度の課題研究テーマ9つについて協議
令和元年11月28日	3年生「課題研究」全9講座を視察、担当教員と協議
令和元年11月29日	校内地域課題研究委員会に出席 12月のマレーシア研修視察に向けて協議
令和元年12月11日・12日	SDGsをテーマに生徒向け講演会を実施
令和元年12月19日	校内地域課題研究委員会に出席 沖永良部島見学について協議

(3) 地域協働学習実施支援員について

① 指定した人材・高等学校における位置付けについて

伊勢志摩ビデオサービス(株)役員 堀江 しおん

② 実施日程・実施内容

日程	内容
令和元年6月13日	2年情報処理科「ビジネス情報管理」の授業に参加 伊勢志摩PR動画作成について指導および助言
令和元年9月19日	2年情報処理科「ビジネス情報管理」の授業に参加 伊勢志摩PR動画作成について指導および助言
令和元年11月19日	2年情報処理科「ビジネス情報管理」の授業に参加 伊勢志摩PR動画作成について指導および助言

(4) 運営指導委員会について

① 運営指導委員会の構成員

氏名	所属・職	備考
高見 啓一	日本経済大学 准教授	学識経験者
矢部 一成	I G S株式会社 教育事業部マネージャー	グローバルに活躍する教育分野の企業
生川 哲也	三重県雇用経済部国際戦略課長	関係行政機関職員
三田 泰久	株式会社アーリー・バード 代表取締役	地域のグローバル企業
諸岡 伸	三重県教育委員会事務局高校教育課長	関係行政機関職員

② 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年8月28日(第1回)	第1回会合 ・事業概要について説明 ・「SDGs推進プログラム」と「観光都市を描くプログラム」について、各プログラムの方針を決定
令和元年3月2日(第2回) (学校の臨時休業によりメールでやり取り)	第2回会合 ・本年度の取組について説明 ・次年度のプログラムに対する意見と方向性を確認

(5) 管理機関における取組について

① 管理機関(コンソーシアム含む)における主体的な取組について

- ・県事業「未来を拓く職業人育成事業」のうち、地域活性化に貢献する取組の研究校に指定
- ・「みえ未来人(みらいびと)育成塾」(県内の高校生と県外の高校生が英語で世界や地域の課題についてディスカッションするなど、グローバル人材の育成)
- ・県事業「新学習指導要領に対応した英語教育改善事業」の研究校に指定
- ・県事業「三重県高校生海外研修旅行」(県内高校生10名のうち宇治山田商業高等学校の生徒1名分を支援。)
- ・グローバルインターンシップや商品開発への協力(コンソーシアム)
- ・事業成果報告会を開催(コンソーシアムと共催)

② 事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・新規の県事業を立ち上げ、継続して地域と協働した取組やグローバル人材の育成に向けた取組ができる支援体制を構築予定

③ 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

なし

7 研究開発の実績

本研究開発において、「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成するため、「地球市民力(課題解決力、論理的思考力、地域への貢献力、語学力)」と「未来創造力(企画力、調整力、実践力、突破力、創造力)」を身に付ける「SD

G s 推進プログラム」と「観光都市を描くプログラム」をコンソーシアム含む地元企業等と連携して実施している。

(1) 主な取組の実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
環境教育アドバイザーによるSDGsワークショップ等を実施					1回						1回	
各科目の内容に沿ったテーマでSDGsに関する授業を実施	全科目で1回以上実施											
科目「ビジネス情報管理」において、外国人向け伊勢神宮の正しい参拝方法等のウェブサイト作成	通年											
科目「ビジネス情報管理」において、外国人向け伊勢志摩PR動画を作成	通年											
科目「ビジネス情報管理」で実施した取組を伊勢市長へプレゼン提案							1回			1回		
科目「課題研究」において、地元企業と連携した商品開発	通年											
科目「課題研究」において、SDGsに取り組む地元企業訪問				4回			2回	1回				
科目「課題研究」において、SDGsを踏まえたビジネスプラン作成	通年											
商業の科目において、コンソーシアム等の地元企業人と交流				1回		2回	3回	3回	1回	1回	1回	
英語セミナー開催				1回					1回		1回	
校内英語スピーチコンテスト開催										2回		
みえグローバル学生大使として通訳ボランティア等を実施							1回		1回	1回		
海外の高校生等との交流						1回						1回(中止)
次年度のスウェーデン研修とマレーシア研修の説明会実施										1回		
全生徒・コンソーシアム等を対象とした成果発表会										1回		
効果測定の開発・検証 (AiGROW)				1回	1回	1回			1回	1回	1回	

(2) 実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容

(ア) SDG s 推進プログラム開発

- ・SDG s 基礎プログラムとして、教員研修を実施するとともに、すべての教科・科目でSDG sに関連する授業を1回以上実施した。
- ・SDG s 探究プログラムとして、科目「課題研究」において、SDG sに取り組む伊勢市内の企業の取材や、廃棄食材を使用した商品開発などを実施した。
- ・SDG s 語学力向上プログラムとして、英語コミュニケーション能力を高めるため、終日英語のみで会話する学年別英語セミナー（国際科）や、校内スピーチコンテストを実施した。

(イ) 観光都市を描くプログラム開発

- ・伊勢志摩PRプログラムとして、科目「ビジネス情報管理」において伊勢志摩PR動画を作成し、学校ホームページに掲載するとともに、観光甲子園にも応募した。また、みえグローバル学生大使（三重県雇用経済部国際戦略課事業）の委嘱を受けたESS部を中心に、外国クルーズ船が鳥羽港寄港時に、観光案内における通訳ボランティアなどの活動を実施した。
- ・国際交流プログラムとして、9月にオーストラリア姉妹校の生徒を受け入れ、校内外で生徒同士の交流を実施した。また、SDG sや観光についての海外研修プログラム作成のため、スウェーデン（10月）とマレーシア（12月）の視察を実施した。

② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

・SDG s 基礎プログラム

全教科・科目で、教科・科目の特性を生かした授業を実践（例えば、現代社会の諸課題である「地球環境問題」、「資源・エネルギー問題」、「国際経済の動向と貧困の解消」等についての考察を深めるため、グループ討議や発表）

・SDG s 探究プログラム

商業科目「課題研究」において、地域の廃材を活用した商品開発や持続可能な社会の実現に向けたビジネスアイデアの考案

・SDG s 語学力向上プログラム

外国語科目「コミュニケーション英語Ⅰ」において、SDG s 基礎プログラムで学んだことを校内スピーチコンテストの場で発表

・伊勢志摩PRプログラム

商業科目「ビジネス情報管理」において、伊勢志摩PR動画を作成し、本校ホームページに掲載

ESS部において、みえグローバル学生大使の委嘱を受けて、SNS（Instagram）を利用した三重県の紹介や、外国クルーズ船寄港時における通訳ボランティアの実施

・国際交流プログラム

オーストラリア姉妹校受入を行い、授業（国語、理科、体育、家庭、英語）で生徒同士の交流を実施

③ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- ・環境教育アドバイザーによる教員研修やワークショップを行い、生徒・教員ともにSDG sに関連する知識を習得する機会を設けるとともに、教科を横断した授業研究会を实

施した。

- ・各教科において、SDGsの視点を踏まえた学習内容は何かを検討し、それに基づいた授業を各教科・科目で1回以上実施した。また、それらを地域課題研究委員会で集約し、本事業の目的実現に向けたPDCAサイクルの構築につなげるための検討を行った。

④ 類型毎の趣旨に応じた取組について

(ア) 地域の特性を踏まえつつ、グローバルな社会課題・地域の社会問題の解決に向けた学びや生徒のキャリアデザインを促すための取組

- ・SDGs講演会を開催し、SDGs全般と環境についての説明、価値観の転換と暮らし方の見直し、それらに必要な想像力についての話を聞くとともに、ジェスチャーゲームで人との表現の違いから多様性を体感し、価値観を広げる活動をした。
- ・地域研究をとおして地元の理解を深め、地元JA等と連携して、廃棄食材や特産品を使用した商品開発を実施した。

(イ) 外国語教育において、地域との関連から英語のコミュニケーション能力を高める取組

- ・伊勢志摩を訪れる海外からの旅行者（インバウンド）に向けて、英語で伊勢志摩の魅力を発信するPR動画を作成した。

(ウ) 外国語教育におけるディスカッション等の主体的な学びを促す取組

- ・教科英語において、語学力の向上と異文化理解等を深めるため、英語のスピーチ原稿等を作成し、校内外のスピーチコンテスト（第36回全商英語スピーチコンテスト三重県大会等）で発表した。

(エ) 海外の学校との定常的な連携による海外研修等

- ・英語へのモチベーションが高い生徒がホストファミリーとしてオーストラリア姉妹校生徒を受け入れ、生徒同士の交流を実施した。なお、参加生徒による3月のオーストラリア姉妹校への海外研修については、新型コロナウイルス感染防止のため、中止することとなった。

・スウェーデン研修プログラムの開発

次年度実施計画として、SDGsの視点を踏まえた地域リーダーを育成するため、SDGsの理念に基づいた経営をしている企業への訪問や現地の高校生との交流を計画。また研修後は、伊勢市の高校生議会への参加や、地域向けSDGsPR等にてリーダー資質向上をめざす。

・マレーシア研修プログラムの開発

次年度実施計画として、伊勢志摩の基幹産業である観光業等で活躍する人材を育成するため、実際のエコツアー等を体験する研修を計画。研修後は、エコツアーの企画

- ・運営等、新しい地域活性化策等を提案することでリーダー資質向上をめざす。

(オ) 海外からの留学生等と一緒に学ぶ探究的な活動

- ・オーストラリア姉妹校の生徒と、お互いの国のSDGs取組に関する意見交流を行った。

(カ) 地域への理解を深めるための取組

- ・みえグローバル学生大使として、鳥羽市に寄港した外国クルーズ船の乗客を案内する通訳ボランティアや、伊勢市を訪れた中国の清華大学生を英語で会話しながら伊勢神宮内宮やおはらい町の案内を行った。3月に予定されていた通訳ボランティアは、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。

- ・教科商業の科目において、SDGsをテーマとした持続可能な社会の実現に向けたビジ

ネスアイデアを考え、日本経済大学で開催された「高校生ビジネスアイデアコンテスト」の本選に出場した。

⑤ 成果の普及方法・実績について

- ・保護者や地域の本事業に係る委員，地域の中学校教員，県立高校教員に案内し，1月31日に成果発表および報告会を開催して共有，普及を図った。

(3) 研究開発の実施体制について

① 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成するため，学校に地域課題研究委員会を設置し，生徒が「地球市民力」と「未来創造力」を身に付けられるプログラムの開発・実践を行うとともに，海外交流アドバイザーや，環境教育アドバイザーや地域協働学習実施支援員（外部人材）を活用し，プログラムの充実を図った。また，伊勢志摩地域を支える人材育成を考える「グローバル人材育成コンソーシアムみえ」を構築し，産学官のスムーズな連携による探究的な学びを実施した。

さらに，事業のPDCAサイクル構築に向けて，本事業の目的や取組の方向性を踏まえた学習活動等が実践できているかを運営指導委員会で効果等の検証を行い改善を図った。

② 学校全体の研究開発体制について（教師の役割，それを支援する体制について）

- ・地域課題研究委員会において，推進担当者を中心に，各プログラム内容について時点修正をしながら協議を進めるとともに，地域協働担当者や海外研修担当者を校内に設置し，地域と連携した取組や海外研修プログラムを作成した。
- ・次年度実施する海外研修プログラムに関しては，海外交流アドバイザーやSDGsアドバイザーの助言を受けながら開発した。

③ 校長の下で，研究開発の進捗管理を行い，定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ，計画・方法を改善していく仕組みについて

- ・校内の地域課題研究委員会で各プログラム作成の進捗報告や実践報告を行い，改善策などについて検討した。
- ・アンケートの作成・実施（2月）を行い，その成果を検証し，次年度への改善につなげた。

④ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

- ・コンソーシアム会議にて，今後の取組に関する現状と課題について協議し，意見交換を行った。また，次年度課題研究テーマについて協議した。
- ・環境教育アドバイザーによるSDGs講演会を開催し，創造力を高める，視野を広げる，価値の転換，豊かな心を持つことが大切であることを学んだ。
- ・地域研究をとにおいて，地元への理解を深め，地元愛を育むとともに，地元JA等と連携して，廃棄食材を使用した商品開発を実施した。

8 目標の進捗状況，成果，評価

本事業は，「SDGs推進プログラム」と「観光都市を描くプログラム」の実践により，学習内容の充実が図られ，「地球市民力（課題解決力・地域への貢献力等）」と「未来創造力（企画力・創造力・実践力等）」を生徒に身に付けることを目標としている。

(1) 「地球市民力（課題解決力・地域への貢献力等）」と「未来創造力（企画力・創造力・実践力等）」の育成

- ① 地域や企業等と連携した取組や外国人との国際交流活動等をとおして、「地球市民力」と「未来創造力」が身につけているかを生徒アンケート等により把握（本年度は2月に実施）した。

指標（アウトカム）	2018年度	2019年度	目標値
「地球市民力」と「未来創造力」が身についた生徒の割合	59%	61%	70%

- ② IGS株式会社のAiGROWを活用した測定

本事業で有意性が認められたのは、「創造性」と「協働性」、「地球市民」の3つ。特に「創造性」と「表現力」と「影響力の行使」については高い有意性が認められた。一方で、「課題設定」と「論理的思考」と「個人的実行力」について課題があることが分かったので、次年度以降のプログラムに反映する。

分野	コンピテンシー	事前	事後	変化	有意差	t検定 ※2
認知系	課題設定 ※1	0.567	0.568	0.000	なし	0.484
	論理的思考 ※1	0.563	0.571	0.008	なし	0.115
	疑う力	0.574	0.579	0.005	なし	0.205
	創造性 ※1	0.509	0.542	0.032	あり	0.000
自己系	個人的実行力 ※1	0.638	0.629	-0.008	なし	0.117
	自己効力 ※1	0.553	0.563	0.010	ややあり	0.055
	耐性	0.601	0.600	-0.001	なし	0.457
	決断力	0.590	0.586	-0.004	なし	0.251
他者系	表現力	0.537	0.553	0.016	あり	0.008
	共感・傾聴力	0.613	0.605	-0.008	なし	0.119
	柔軟性	0.576	0.580	0.004	なし	0.257
	影響力の行使 ※1	0.460	0.488	0.027	あり	0.000
コミュニティ系	地球市民 ※1	0.523	0.536	0.012	あり	0.024

※1 本事業で育成したい資質・能力。「協働性」は「自己効力」と「影響力の行使」の組み合わせで定量化

※2 t検定とは、事前と事後の変化がプログラムの効果によるものと仮説を立て、実行したプログラムの有意性を検証した結果

- (2) 地元に着して活躍する地域人材の育成

本事業は、「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成することを目的としており、地元で就職し、地元に着する人材を育成する必要があることから、企業アンケートにより職場定着の状況を継続して把握するとともに、各プログラムに地域の魅力や働くことの意義等について理解する学習内容を反映する。

指標（アウトカム）	2018年度	2019年度	目標値
地元就職者のうち、高校卒業後に入社した地元企業での職場定着率	73.3%	76.0%	80%

※ 職場定着率は、2016年度卒業生から当年度卒業生までの職場定着状況を企業アンケートから把握

- (3) 語学力の向上

SDGs 語学力向上プログラムにおいて、英語のみを使用する環境を創出するとともに国際交流活動の充実を図ることで、英語コミュニケーション能力の向上及び異文化理解の促進を図る。次年度からは、学校設定科目「グローバル・コミュニケーション」を新設して、英語コミュニケーション力等の一層の向上をめざす。

指標（アウトカム）	2018年度	2019年度	目標値
卒業時における生徒（200人）の4技能の総合的な英語力としてのCEFRのA2レベル以上の生徒の人数	84人	64人	120人

- (4) 地域人材を育成する高校としての活動について

グローバルな課題解決のために必要なIT関連の競技大会にて全国優勝するとともに、高校生ビジネスアイデアコンテストで入賞するなど多くの生徒が全国で活躍した。また、15名の生徒が本県の「みえグローバル学生大使」として任命され、地域における国際交流活動を3回行った。次年度以降のプログラムでは海外研修プログラム等、積極的にグローバルな視

野を身に付ける機会を実践する。

指標（アウトカム）	2018年度	2019年度	目標値
グローバルな社会又は地域のビジネス課題に関する公共性の高い全国大会等における入賞者数	2.5%	5.7%	10%
みえグローバル学生大使として、地域において国際交流活動に参加	－人	29人	120人

（5）地域人材を育成する地域としての活動について

本事業においては、コンソーシアムを構築し、伊勢志摩地域における未来のリーダーを育成する取組を進めた。商業科の科目「課題研究」をはじめ「ビジネス経済応用」「ビジネス情報管理」「財務会計Ⅱ」等において、地元企業、地方自治体、大学等の多分野から講師を招聘し、学習内容の充実を図ることができた。次年度からは、卒業までの3年間のうち1回はインターンシップ等の体験ができる体制を検討し、順次実施する。

指標（アウトカム）	2018年度	2019年度	目標値
SDGs推進プログラム」及び「観光都市を描くプログラム」への企業・地方自治体・企業等の協力者数	－人	40人	50人
地元企業でインターンシップ等を体験した生徒の割合	32.1%	42.0%	100%

9 次年度以降の課題及び改善点

（1）SDGs推進プログラムの開発

① SDGs基礎プログラム

本年度は、SDGsについて講演会の実施や、すべての教科・科目でSDGsに関する授業を実施したが、次年度以降は年間をとおして体系的に全教科・科目でSDGsに関連する知識・技術を育成する必要がある。

② SDGs探究プログラム

3年次の科目「課題研究」において、1・2年次で学習したSDGsの知識・技術を生かしてさらに思考力・判断力・表現力等を高めるための探究的な学びへと改善する必要がある。

③ SDGs語学力向上プログラム

海外からの留学生等との交流会やディスカッション及びディベート等をとおして、英語コミュニケーション力の向上を図るとともに、語学力の向上や異文化理解をさらに深める。

（2）観光都市を描くプログラム開発

① 伊勢志摩PRプログラム

科目「課題研究」では、観光に特化したテーマを新たに設置し、観光資源（自然・歴史・食等）が豊かな伊勢志摩地域を活性化するための取組を行う。

② 国際交流プログラム

観光先進国（マレーシア）への海外研修や、三重県が観光協定を結んでいる台湾の商業高校生との交流等を推進し、主体性・積極性等を育成する。

（3）効果測定の開発・検証

① パフォーマンス・ポートフォリオに関する評価規準の策定

・本年度、パフォーマンス課題等に対するルーブリック開発により評価規準が明確になったが、校外における活動等に関する評価規準を検討する必要がある。

② 資質・能力測定ツール「AiGROW」を活用した各種プログラムの効果測定

・IGS株式会社と連携し、資質・能力測定ツール「AiGROW」を活用して今後も継続して生徒の資質・能力の伸びを把握するとともに、効果的なプログラムの開発を行う。

2 実施報告書

(1) SDGs 基礎プログラム

研究開発1年目として、まずは職員研修を開催し、SDGsについて学んだ。その後、各教科・科目で、SDGsに関連する授業を展開するとしたらどのような取組ができそうか、アイデアを出し合った。そして、年度中に1回以上、SDGsに関する授業を実施することにした。

① 各教科・科目から出されたアイデア

教科	科目	単元	学科・学年	学習時期	取組内容
国語	国語総合	(現代文・評論)	商業科1年	9～10月	日本文化と他国の文化との違いを知る学習の中で、文化の発展の仕方や相互にどのような影響があったかということを知る。
国語	国語総合	(古典分野)	商業科1年	10～11月	古典の時代の作家に関する知識を学習する中で、かつての日本において教養の重要性や、男女の暮らし方の差を知り、現代の日本や世界の教育の現状、男女間の格差について学ぶきっかけとする。
公民	現代社会	①環境 ②青年期 ③日本の政治機構と政治参加	全学科1年	①4～5月 ②6月 ③1月	①各環境問題の学習時に、自分たちにできることをグループ討議する。 ②男女・社会参画の学習時に、どういう世の中にしていきたいか討議する。 ③地方自治の学習時に、「街を良くする政策を考えよう」というテーマで調べ学習、発表を行う。
地理歴史	地理A・B	①地誌	全学科3年	①10月以降	①各地域の農業の学習時(特に発展途上国)に、食糧問題と貧困の状況について触れる。
数学	数学B	数列(数学的帰納法)	情報処理科3年	11月	数学的帰納法の証明方法を学ぶ。その後、各自がいくつかの地球環境の課題を取り上げ、それを一般的な帰納法の考え方(起こった出来事から共通する部分を見つけ出し、パターンを理解すること)により、「貧困の根絶と持続可能な社会の両立や不平等の是正」には何に取り組む必要があるのかを考える機会を設ける。さらにその取り組みは17の目標のどれに当てはまるのか、さらに他の目標も配慮した形になっているのかを確かめさせる。
数学	数学I	データの分析	全学科1年	2月	過去10年間以上の世界の気温の推移や消費電力量等、数値をグラフ化することにより、環境問題を考えさせる機会を設ける。また、各データの中に相関関係を見つけることにより、環境を守るためには、どのような対策をする必要があるのかを考えさせる。
理科	生化学入門	生態系のバランスと保全	全学科3年選択	1月	生体家のバランスに、人間の活動はどのような影響を与えているのかを考える。アサリの水質浄化の実験も教科書に載っているためそこにも関連して考えさせたい。

教科	科目	単元	学科・学年	学習時期	取組内容
理科	生化学 入門	免疫	全学科 3年 選択	9～ 11月	人の生体防御機構である免疫について学習しているため、どのようなことに注意して生活をすれば健康な体でいられるのかを考えさせる。ヒトが本来持っている能力を周りに悪影響を及ぼさずにできることを提案させたい。
理科	生物 基礎	生物の多様性 と共通性	全学科 1年	4月	地球上には約 190 万種に及ぶ生物が存在する。また、それを取り巻く環境も多種多様であるため、多様性が生まれている。ヒトが生きている中でどのようなことが周りの生物、環境に影響を与えるか考え、どのように多様性を守っていくかを考えさせる。
理科	科学と 人間 生活	材料とその利 用	全学科 3年	9月	身近にある合成繊維であるナイロンや合成樹脂である尿素樹脂を実験で作ることにより科学技術の進歩により人間生活が便利になったことを感じさせるとともに、現在、プラスチックの大量生産により起こっている問題（ゴミ処理の問題や海洋汚染の問題など）についても考えさせる。
保健 体育	保健	大気汚染と健 康	商業科 2年	11月	大気汚染物質による地球環境問題、「地球温暖化」「酸性雨」「オゾン層の破壊」など大気汚染から気候変動にどのような影響を与えるのか、また、人間の健康にどう影響していくのかを考えさせ、私たちの住む環境をよりクリーンにするための取り組みを考えさせていく。
保健 体育	保健	社会生活と健 康	商業科 2年	10月	大気にかかわる地球規模の問題を学ぶほか、人々がこれからも地球で平和に暮らして行くにあたって、現状と課題を把握し、課題解決の方法を考える機会を設ける。
保健 体育	保健	保険制度とそ の活用 医 療制度とそ の活用	国際科 2年	9月	日本では病気の予防や健康の保持増進のために様々なしくみと医療制度が整備されている。具体的のどのような活動がなされ、サービスが行われているかを学習し、世界全体にこのような活動を広げるにはどうしたらよいかを考える機会とする。
英語	英語 表現	Lesson 6 Save the Earth 地球を救おう	国際科 1年	9月中 旬	環境を守るためにできることを5つのR (reduce, reuse, recycle, refuse, repair) の観点から考え、テーマに沿って話し合ったり意見を書いたりする。
英語	コミュニ ケーション	Lesson 7 Eco-tour on Yakushima	国際科 1年	2学期 後半	多くの自然が残り、島の90%が森林で覆われている屋久島において、その独特な動植物の生態系等について学ぶ。また、この文章を読み、我々ひとり一人ができる環境保全の取組みについて考える。

教科	科目	単元	学科・学年	学習時期	取組内容
英語	コミュニケーション類II	Lesson 8 Edo:A Sustainable Society (江戸：持続可能な社会)	国際科 2年	10月中旬～11月末	日本の江戸時代にすでに今求められている「持続可能な社会」が実現していたという文章を読む。江戸時代の庶民が日常生活においてあらゆる物を無駄にせず、大切に扱っていた様子を読み取らせ、現代の大量生産・大量消費の生活様式について振り返って考えるきっかけとする。また、庶民のそうした行いが、暮らしと社会全体を豊かにし、国土の環境保全にもつながっていたことを理解させる。さらには、そうした循環型社会を支えていたのは江戸時代の庶民のものの見方、つまり「必要なだけで十分」という考え方であったという主張について、現代でも私たちが用いる「もったいない」という言葉と重ね合わせながら議論する機会を持つ。
家庭	家庭総合	生涯の健康を見通した食生活を作ろう	商業科 3年	9月	調理実習において、野菜などの食材の廃棄率を意識して調理する。実際に調理前の食材（野菜のみ）の全重量と皮・芯・ヘタなど廃棄する部分の重量を計量し、廃棄率を計算させる。廃棄分をなるべく少なく調理することで環境問題への意識づけとする。
商業	ビジネス基礎	SDGsの観点でビジネスを考える。	商業科 1年	2学期中	SDGsの理解のためにYouTubeでSDGsSVIを視聴後、ビジネス基礎の全ての授業で取り入れていく。例)小売業の役割において食品ロスと機会損失を取り入れて説明。都市型小規模スーパーマーケットと田舎の移動販売車の運用、住み続けられるまちづくりなど。
商業	ビジネス基礎	金融業	商業科 1年	10月	金融業の役割や種類の学習をふまえ、ビジネス形態についての学習を深めていく中で、普通銀行の業務紹介を通じグラミン銀行について調べ学習を取り入れ、世界の貧困問題について理解を広げていく。
商業	ビジネス基礎	ものの生産者	国際科 1年	9月	ものの生産者の役割を考えることで、陸・海の豊かさや住み続けられる街作りなどについて考える。
商業	ビジネス実務	キーボード入力・タッチメソッド技術の向上	商業科 1年	～12月	タッチメソッドによる速度練習に使用される課題文には、「飢餓」や「エネルギー」「気候変動」といった様々な内容が取り上げられている。課題練習の際に「17の目標」のいずれかに触れて、考えるきっかけを作る。
商業	情報処理	ビジネス文書の学習	商業科 2年	9～11月	ビジネス文書の学習に使用される課題文には、「17の目標」のいずれかに該当する内容のものも少なくない。学習の際に「17の目標」のいずれかに触れ、考えるきっかけを作る。

教科	科目	単元	学科・学年	学習時期	取組内容
商業	情報処理		商業科 2年	11月	SDGsの観点から、世界の環境変化についてデータを調べ、報告書にまとめる。 国別の比較、年度の推移などをグラフ化し、独自の分析結果をEXCELとWORDを活用して作成する。
商業	原価計算	標準原価計算	商業科 2年	2～3月	標準原価計算の実習を通じて製造工程の無駄と利益について考える。
商業	財務会計Ⅱ	税金（税効果会計）	情報処理科 3年	1月	税の観点から働き方（特にジェンダー平等）からSDGsの目標を考える。
商業	課題研究	日本経済学	全学科 3年	5～ 12月	日経ストックリーグ参加においてSDGsの目標に関連したチームテーマを設定。企業とSDGsについて考える。
商業	課題研究	ネットショップ	全学科 3年	11月中	地域の特産品、お土産物の販売を通して観光資源の活用・地域のあり方をいろいろな方向から考えてみる。
商業	課題研究	地域活性化プロジェクト	全学科 3年	9月20日 日まで	日本経済大学の高校生ビジネスアイデアコンテストが、SDGsの観点からテーマを「持続可能な社会の構築に向け、地域や社会の課題を解決するビジネスアイデアを公募します」に挑戦する。SDGsの理解のためにYouTubeでSDGsSVIを視聴後地域の問題解決のアイデアを考える。
商業	課題研究	ビジネスプラン	全学科 3年	9月下旬	株式会社マイナビが主催する「キャリア甲子園」への参加にあたり、JAL（日本航空）のテーマ「SDGs17の目標を元に、JALの強みを活かした革新的な取組みを立案せよ」とあるため、SDGsについて説明する。 また、2006年から2016年の10年間で航空機運航回数が増加したことと、ジェットエンジンから排出されるCO2を絡めて話をすることで、気候変動及びその影響を軽減するための対策について考える機会を設ける。
商業	課題研究	未来の教室	全学科 3年	9月	日本・海外の交通における現状と課題を理解しまとめ、ビジネスプランを考える。9月後半に発表。

② 各教科・科目で実施された授業

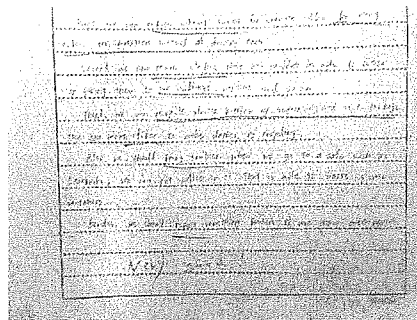
教科	英語	科目	英語表現
日時	9月6日（金）4限目	学科・学年	国際科・1年
内容	教科書 <u>Departure English Expression I</u> Lesson 6 <u>Save the Earth</u> レッソンの導入 ①Warm-upで、「環境のために普段やっていること」と、地球を「救うためにできることは何か」をペアでブレインストーミング的に、自由に話し合う。 ②このテーマについて話したり、書いたりするために必要な基本的な文法や語彙を学習する。		

教科	英語	科目	英語表現
日時	9月9日(月)2限目	学科・学年	国際科・1年
内容	教科書 <u>Departure English Expression I</u> Lesson 6 <u>Save the Earth</u> ①リスニング：石油の使用を押さえるために、買い物の際にレジ袋の受け取りを断る取り組みについて説明を聞き取り、質問に答える。 ②読解：再生可能エネルギーについて説明文を読み、質問に答える。		

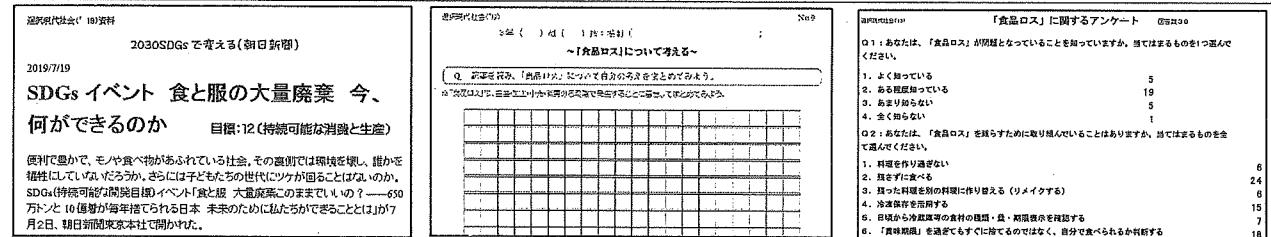
教科	英語	科目	英語表現
日時	9月11日(水)5限目	学科・学年	国際科・1年
内容	教科書 <u>Departure English Expression I</u> Lesson 6 <u>Save the Earth</u> ①このテーマについて基本的な英文を作る練習をする。読み方を練習する。 ②環境保護に関連する語彙や基本表現を習得する。 ③5つのRを紹介する。reduce, reuse, recycle, refuse, repair これらのキーワードの意味と具体例を簡単に確認し、reuse と recycle の違いを確認する。 ④5つのRの観点から「地球を救うために私たちができること」について自分意見を書くために、箇条書きで下書きし、次回の英作文の準備とする。時間の足りない部分は宿題とする。また、次回の英作文の準備として、リサイクル等の取り組み例をインターネットなどで調べておくことを宿題とする。		


教科	商業	科目	ビジネス基礎
日時	9月12日(木)1限目	学科・学年	商業科・1年
内容	SDGsを説明するYouTube「SDGsナビ」を視聴して、SDGsの理解を深める。その後、ビジネス基礎の教科書をその視点で説明して関連づけられるところを皆で考えた。 SDGs NO1 時間12:33 https://www.youtube.com/watch?v=G79pck40Lqo SDGs NO2 時間3:05 https://www.youtube.com/watch?v=WxpZ-b4Qskg		

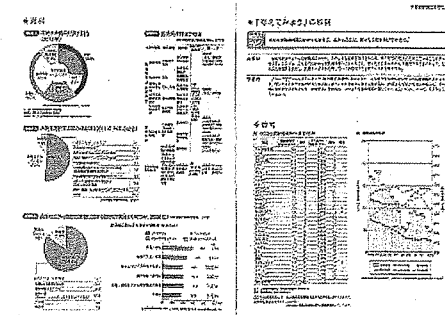
教科	英語	科目	英語表現
日時	9月13日(金)6限目	学科・学年	国際科・1年
内容	教科書 <u>Departure English Expression I</u> Lesson 6 <u>Save the Earth</u> ①5つのR (reduce, reuse, recycle, refuse, repair) について復習する。 ②前回からの宿題で、5つのRの観点から「地球を救うために私たちができること」について自分の意見を箇条書きしてきたものを使って、ペアワークを行う。お互いに自分の意見を読み上げて、聞いてもらい、コメントし合う。 ③宿題の箇条書きを基に、調べてきたことなども付け加え、「地球を救うために私たちができること」について英作文を完成させる。		



教科	家庭	科目	家庭総合
日時	9月18日(水) 3・4 限目	学科・学年	商業科・3年
内容	調理実習において、野菜などの食材の廃棄率を意識して調理する。実際に調理前の食材(野菜のみ)の全重量と皮・芯・ヘタなど廃棄する部分の重量を計量し、廃棄率を計算させる。廃棄分をなるべく少なく調理することで環境問題への意識づけとする。		
			
			


教科	公民	科目	選択現代社会
日時	9月18日(水) 5 限目	学科・学年	全学科・3年
内容	①「食品ロス」に関するアンケート実施⇒集計結果公表 ②集計結果を用い、グループ(4人)に分かれて意見交換 ③「2030SDGS 変える(朝日新聞)」の2019.7.19の記事を使い、「食品ロス」について自分の意見をまとめる(500字)		
			

教科	理科	科目	科学と人間生活
日時	9月20日(金) 4 限目	学科・学年	情報処理科・3年
内容	<p>はじめて作られた合成繊維である「ナイロン」と、身近なところで使われている合成樹脂である「尿素樹脂」を実験で作った。</p> <p>いずれも石油に含まれる物質を原料にして短時間で簡単に作ることができることを体験させ、実験を通して安価なプラスチック製品が多量に作られては廃棄されていることについて考えさせた。また、原料に劇物が多く使われていることにも触れ、環境汚染についても考えさせた。</p>		
			

教科	保健体育	科目	保健
日時	9月26日(木) 2限目	学科・学年	国際科・2年
内容	<p>日本では病気の予防や健康の保持増進のために様々なしくみと医療制度が整備されている。具体的にどのような活動がなされ、サービスが行われているかを学習し、世界全体にこのような活動を広げるにはどうしたらよいかを考える機会とする。</p> <p>5人8グループでブレインストーミングを実施した。</p> 		

教科	商業	科目	課題研究(ビジネスプラン)
日時	10月3日(木) 5限目	学科・学年	全学科・3年
内容	<p>株式会社マイナビが主催する「キャリア甲子園」への参加にあたり、JAL(日本航空)のテーマ「SDGs17の目標を元に、JALの強みを活かした革新的な取組みを立案せよ」を踏まえて、SDGsについて動画を見せて説明した。</p> <p>また、一つの例として、航空技術が発達したことで世界中の人々がより世界中で行き来しやすくなったが、その一方で、飛行機のジェットエンジンからはどうしても温室効果ガスが出てしまい、地球温暖化の問題について考えなければならぬと話をつけ加えた。その後、目標の13についての動画を見せ、JALだからできる、気候変動及びその影響を軽減するための対策について、どんな取組みが考えられるか検討することも必要だと説明した。</p> <p><参考>フリー動画 SDGsチャンネル【SDGsジャーナル】が配信している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsとは?【アニメでわかるSDGs】 ・SDGs目標13 気候変動ってなに?【アニメでわかるSDGs】 		

教科	保健体育	科目	保健
日時	10月31日(木)	学科・学年	商業科・2年
内容	<p>大気汚染と私たちの健康のつながりを学ぶ前にどういった大気汚染防止対策ができるのか、班で考え意見交流をクラス全体で行った。</p> <p>その後、大気汚染の現状と影響を学習し、生徒自身が考えた対策は有効か、どのように進めていくことができるかなど、大気汚染防止の対策について考えを深めあった。</p>		

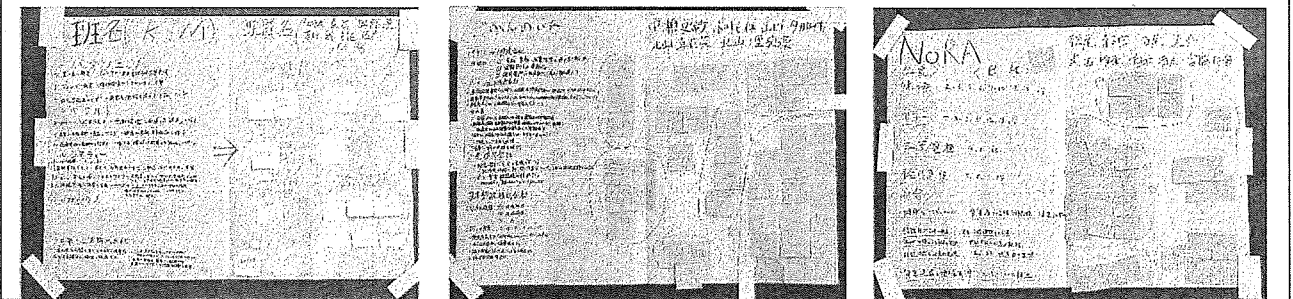
<p style="text-align: center;">私たちができること</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; margin-bottom: 10px;"></div> <p>大気汚染に対する対策</p> <div style="border: 1px dashed black; height: 150px; margin-top: 10px;"></div> 	<p>授業プリント「私たちができること」大気汚染に対する対策を記入させたところ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車にできるだけ乗らない ・森林伐採をしない ・木を植える ・ゴミを減らす ・電気自動車、ハイブリット自動車を増やす ・発展途上国への支援 ・徒歩、自転車、公共交通機関を利用する ・太陽光発電などの再生可能エネルギーを利用する ・各会社に浄化機器設置を徹底させる <p>等の意見が出た。</p>
--	--

教科	地理歴史	科目	地理A・B
日時	11月10日	学科・学年	全学科・3年
内容	<p>東南アジアの農業の各時間において、プランテーション農業に関連して、モノカルチャー経済とそこから脱するための経緯について触れ、東南アジアの経済成長を学んだ。生徒の学習活動としては、モノカルチャーから脱する方策について発問し、討論した。</p> <p>副教材 帝国書院『図説地理資料 世界の諸地域NOW』を使用</p>		

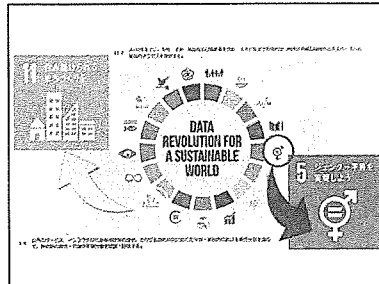
教科	理科	科目	生化学入門
日時	11月13日(水)5限目	学科・学年	全学科・3年(選択)
内容	<p>自分の体の健康をこの先どのように維持するのか考える。また、世界や世の中ではどのような病気が蔓延しているか、健康的な面でのどのような問題を抱えているのかを調べ、対策を考える。</p> <p><small>試験対策目的のための副教材(SDGS)について考える！！</small> <small>※※！ ※※ ※※</small> <small>付録②、遺伝子検査(個人データをクラウドにアップロードして個人情報を保護)</small> <small>この内容を記述して課題を提出してください！！！！！！！！！！！！！！！！！！</small></p> <p><small>自己管理表</small></p>		

教科	商業	科目	ビジネス実務		
日時	11月中旬以降	学科・学年	商業科・1年		
内容	<p>速度練習に使用される課題文が、SDGs「17の目標」のいずれかに関する内容の場合、その内容を取り上げ、考えるきっかけを作る。</p> <p>日本では、水の“美味しさ”について述べられることが多いが、世界には“美味しさ”よりも“安全”であるかどうかの深刻な国がたくさんあることに触れた。貴重な水資源を有効活用するための新技術の開発について触れた。</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>【3級-1】 次の文章を1行30字で入力しなさい。(例題100字)</p> <p>地口から出てくる水溜まりが、乾乾、おいしくなったといわれている。東京の水は、嘉川水系や利根川水系が持ちこたえているが、取水するすべての水道で高度浄水処理を完了した。ただ、高度浄水処理は費用がかかり、すべての地域で、このような処理が必要なのではない。どのような浄水方法をとるかは、取水の量による。水がおいしいといわれる、熊本市の水処理は、原水が地下水だ。</p> <p>水処理には、おいしいの基準はないが、旧厚生省がおいしい水の要件を公表していた。例えば、水に含まれるミネラルの含有量は、272味をいしくする要素の一つだ。残留塩素などは、多いと味を損なうという。私たちが毎日飲む水道水は、少しでもおいしくなって欲しいものだ。</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>【3級-2】 次の文章を1行30字で入力しなさい。(例題110字)</p> <p>国内の水電メーカーが、特殊な砂を採掘し盛産している。それは、砂の表面を硬くコーティングし、水の浸透を制限して貯える仕組みである。水資源の節約や乾燥地の緑化、農作物の増産などが期待されている。</p> <p>この研究は、電子レンジやオーブンなどの製品に、汚れが付かないようにするために行われていた。だが、これよりも安く貯えにくい素材が発見され、予算は打ち切りとなってしまった。そこで、新発見にチャレンジした結果が、砂の特殊加工である。</p> <p>この砂は、農作物に必要な水を大粒に積らすことができる。さらに、その特色を応用すれば、湯水を取り水に変える新装置が完成する可能性もある。この技術は、人類の課題を解決する一つの手段といえる。</p> </td> </tr> </table>			<p>【3級-1】 次の文章を1行30字で入力しなさい。(例題100字)</p> <p>地口から出てくる水溜まりが、乾乾、おいしくなったといわれている。東京の水は、嘉川水系や利根川水系が持ちこたえているが、取水するすべての水道で高度浄水処理を完了した。ただ、高度浄水処理は費用がかかり、すべての地域で、このような処理が必要なのではない。どのような浄水方法をとるかは、取水の量による。水がおいしいといわれる、熊本市の水処理は、原水が地下水だ。</p> <p>水処理には、おいしいの基準はないが、旧厚生省がおいしい水の要件を公表していた。例えば、水に含まれるミネラルの含有量は、272味をいしくする要素の一つだ。残留塩素などは、多いと味を損なうという。私たちが毎日飲む水道水は、少しでもおいしくなって欲しいものだ。</p>	<p>【3級-2】 次の文章を1行30字で入力しなさい。(例題110字)</p> <p>国内の水電メーカーが、特殊な砂を採掘し盛産している。それは、砂の表面を硬くコーティングし、水の浸透を制限して貯える仕組みである。水資源の節約や乾燥地の緑化、農作物の増産などが期待されている。</p> <p>この研究は、電子レンジやオーブンなどの製品に、汚れが付かないようにするために行われていた。だが、これよりも安く貯えにくい素材が発見され、予算は打ち切りとなってしまった。そこで、新発見にチャレンジした結果が、砂の特殊加工である。</p> <p>この砂は、農作物に必要な水を大粒に積らすことができる。さらに、その特色を応用すれば、湯水を取り水に変える新装置が完成する可能性もある。この技術は、人類の課題を解決する一つの手段といえる。</p>
<p>【3級-1】 次の文章を1行30字で入力しなさい。(例題100字)</p> <p>地口から出てくる水溜まりが、乾乾、おいしくなったといわれている。東京の水は、嘉川水系や利根川水系が持ちこたえているが、取水するすべての水道で高度浄水処理を完了した。ただ、高度浄水処理は費用がかかり、すべての地域で、このような処理が必要なのではない。どのような浄水方法をとるかは、取水の量による。水がおいしいといわれる、熊本市の水処理は、原水が地下水だ。</p> <p>水処理には、おいしいの基準はないが、旧厚生省がおいしい水の要件を公表していた。例えば、水に含まれるミネラルの含有量は、272味をいしくする要素の一つだ。残留塩素などは、多いと味を損なうという。私たちが毎日飲む水道水は、少しでもおいしくなって欲しいものだ。</p>	<p>【3級-2】 次の文章を1行30字で入力しなさい。(例題110字)</p> <p>国内の水電メーカーが、特殊な砂を採掘し盛産している。それは、砂の表面を硬くコーティングし、水の浸透を制限して貯える仕組みである。水資源の節約や乾燥地の緑化、農作物の増産などが期待されている。</p> <p>この研究は、電子レンジやオーブンなどの製品に、汚れが付かないようにするために行われていた。だが、これよりも安く貯えにくい素材が発見され、予算は打ち切りとなってしまった。そこで、新発見にチャレンジした結果が、砂の特殊加工である。</p> <p>この砂は、農作物に必要な水を大粒に積らすことができる。さらに、その特色を応用すれば、湯水を取り水に変える新装置が完成する可能性もある。この技術は、人類の課題を解決する一つの手段といえる。</p>				

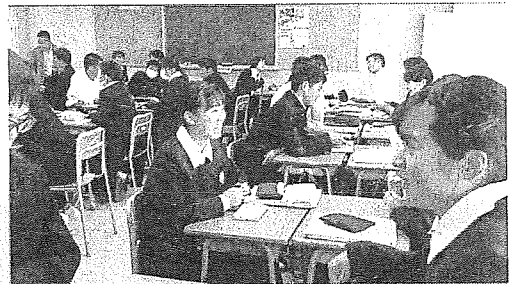
教科	商業	科目	課題研究「ネットショップ」
日時	11月28日(木)5,6限目	学科・学年	全学科・3年
内容	<p>外務省のホームページから各班が興味のある企業のSDGsへの取り組み状況を調べ、その内容を自分たちの生活に近づけて取り入れられることを各班で意見交換し発表を行った。</p>		



教科	商業	科目	ビジネス経済応用
日時	9月～11月9日(土)	学科・学年	商業科・2年マーケティングコース
内容	日本経済大学が主催する高校生ビジネスアイデアコンテストのテーマ『「君のアイデアで持続可能な社会を構築しよう」2015年に国連が採択した「SDGs(持続可能な開発目標)」の考え方に沿ったビジネスのアイデアを公募します。』に参加。特別賞受賞(3位)		



教科	英語	科目	コミュニケーション英語 I
日時	12月2日(月)2限目	学科・学年	国際科1年
内容	<p>教科書(啓林館「LANDMARK English Communication I」)のLesson 7 “Eco-tour on Yakushima”において、美しい自然が残されており、島の90%が森林という屋久島について学んだ。</p> <p>国内外を問わず自然環境への関心が高まっており、自然観賞を目的とし、自然環境保全の大切さを学ぶエコツアーも増加傾向にある。しかしながら、多くの旅行者が訪れることで、環境破壊につながるような事例もある。</p> <p>こういった内容について教科書を通して学習した後、まとめとして、「環境保全のために自分たちができること(What can we do to protect the environment?)」について英語で話し合った。話し合いの中で出された意見としては、日頃の自分たちの生活を振り返り、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別の徹底 ・こまめな電気消灯 ・公共交通機関利用の励行 ・セカンドハンド(中古)品の利用 ・コンビニ等でプラスチックバッグをもらわない ・短距離であれば自家用車を使用せず、自転車や徒歩での移動を徹底 ・ゴミを出さない工夫(食べられる分量のみを調理・注文するなど) <p>といったものがあつた。</p>		

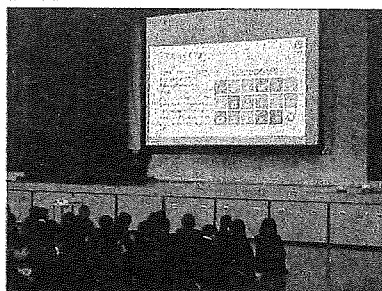
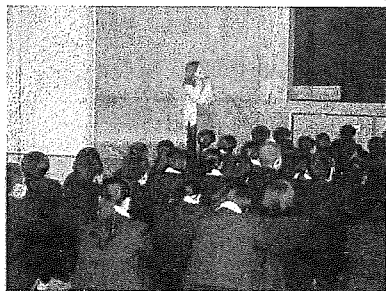


教科	数学	科目	数学 B
日時	12月13日(金)2限目	学科・学年	情報処理科・3年
内容	<p>数学的帰納法の説明を行った後、一般的に「AであるからBである」と考える際、演繹法による考え方と帰納法による考え方がある事を学習した。そして、どちらの考え方にもそれぞれ利点がある事を伝えた。</p> <p>今の社会が抱える問題に目を向けながら、SDGsの目標17項目のうち各自が選んだ目標を達成するための取り組みを考え、演繹法と帰納法の考え方を意識しながらレポート作成を行った。</p>		

教科	公民	科目	現代社会																													
日時	1月20日(月)～4時限分	学科・学年	全学科・1学年																													
内容	<p>地方自治の学習時に、「街を良くする政策を考えよう」というテーマで調べ学習、発表を行う。</p> <p>グループで地域の調査(机上にて、資料持ち寄り)、発表準備、発表及び質疑応答、自己評価(ループリック使用)及び感想の記入</p>																															
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分の街を活性化させる政策を考えよう!</p> <p>() 町 () 市・町・村 () 地区</p> <p>班員:</p> <p>○ 自分で思い、街の長所と課題・問題点 【長所・いいところ・有名な物やスポット】</p> <p>【課題・問題点】</p> <p>○ 自分の街を良く(アピール)するための政策・アイデア</p> </div>	<p>「自分の街を活性化させる政策を考えよう」ループリック【地方自治・主権者教育】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内容</td> <td>・自分の街がどのような特徴があるかよく認識できた。</td> <td>・自分の街がどのような特徴があるか認識できた。</td> <td>・自分の街がどのような特徴があるかあまり認識できなかった。</td> <td>・自分の街がどのような特徴があるかほぼ認識できなかった。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>グループワーク</td> <td>・街を活性化させる政策やアイデアが出せた。</td> <td>・街を活性化させる政策やアイデアが出せた。</td> <td>・街を活性化させる政策やアイデアがあまり出せなかった。</td> <td>・街を活性化させる政策やアイデアがほぼ出せなかった。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>関心・意欲</td> <td>・大きな関心を持って、大変意欲的に取り組むことができた。</td> <td>・関心を持って、意欲的に取り組むことができた。</td> <td>・関心は少なく、あまり意欲的に取り組めなかった。</td> <td>・関心はなく、取り組もうとしなかった。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>政治参加</td> <td>・政治そのものに興味が出て、2年後の主権者に向けて国や地方のことを考えたり、選挙に行くべきかと思うようになった。</td> <td>・地方自治についての意識が高まり興味が出た。</td> <td>・地方自治について、あまり興味はなかった。</td> <td>・地方自治について、興味はなかった。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【感想】</p>			A	B	C	D	評価	内容	・自分の街がどのような特徴があるかよく認識できた。	・自分の街がどのような特徴があるか認識できた。	・自分の街がどのような特徴があるかあまり認識できなかった。	・自分の街がどのような特徴があるかほぼ認識できなかった。		グループワーク	・街を活性化させる政策やアイデアが出せた。	・街を活性化させる政策やアイデアが出せた。	・街を活性化させる政策やアイデアがあまり出せなかった。	・街を活性化させる政策やアイデアがほぼ出せなかった。		関心・意欲	・大きな関心を持って、大変意欲的に取り組むことができた。	・関心を持って、意欲的に取り組むことができた。	・関心は少なく、あまり意欲的に取り組めなかった。	・関心はなく、取り組もうとしなかった。		政治参加	・政治そのものに興味が出て、2年後の主権者に向けて国や地方のことを考えたり、選挙に行くべきかと思うようになった。	・地方自治についての意識が高まり興味が出た。	・地方自治について、あまり興味はなかった。	・地方自治について、興味はなかった。
	A	B	C	D	評価																											
内容	・自分の街がどのような特徴があるかよく認識できた。	・自分の街がどのような特徴があるか認識できた。	・自分の街がどのような特徴があるかあまり認識できなかった。	・自分の街がどのような特徴があるかほぼ認識できなかった。																												
グループワーク	・街を活性化させる政策やアイデアが出せた。	・街を活性化させる政策やアイデアが出せた。	・街を活性化させる政策やアイデアがあまり出せなかった。	・街を活性化させる政策やアイデアがほぼ出せなかった。																												
関心・意欲	・大きな関心を持って、大変意欲的に取り組むことができた。	・関心を持って、意欲的に取り組むことができた。	・関心は少なく、あまり意欲的に取り組めなかった。	・関心はなく、取り組もうとしなかった。																												
政治参加	・政治そのものに興味が出て、2年後の主権者に向けて国や地方のことを考えたり、選挙に行くべきかと思うようになった。	・地方自治についての意識が高まり興味が出た。	・地方自治について、あまり興味はなかった。	・地方自治について、興味はなかった。																												

③ SDGs 講演会

日・場所	令和元年 12月11日(水)・12日(木) 本校体育館
講師	東北大学大学院環境研究推進センター 三橋正枝先生
実施方法	3学年を串ざしで、各学年40名ずつの120名単位で5回実施
内容	<p>スライドでSDGs全般と環境についての説明、価値観の転換と暮らし方の見直し、それらに必要な想像力についてのお話を伺った。そして、ジェスチャーゲームで人との表現の違いを体感して想像力を広げる活動をした。</p> <p>SDGs達成のためには、創造力を高める、視野を広げる、価値の転換、豊かな心を持つことが大切であることを学んだ。</p>



④ 今後の課題

初年度の実践として、各教科・科目でSDGsに関してどのような授業展開が考えられるかを洗い出し、全職員が年度中に1回以上、SDGsに関する授業を実施した。今後はこの授業実施報告書を集約し、各授業が教科横断的な視点で系統的な学習になるよう、プログラム開発を継続実施する。

(2) SDGs 探求プログラム

① 課題研究 概要

(a) 令和元年度の開講講座のテーマ、育成する力、取組内容、受講人数

テーマ	育成する力	取組内容	受講人数
地域活性化プロジェクト	問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力・ファシリテーション能力	地域活性化への取り組みとして、高柳夜店（山商の日）、キッズビジネスタウン、伊勢市民病院祭において企画運営など、イベントをプロデュース	25
商品開発プロジェクト	想像力・企画力・具現力・表現力・コミュニケーション能力	地元の食材や特産品を使ったオリジナル商品開発を立案し、地元企業に提案することで製品化を目指す	25
地域ボランティア	ボランティア精神・ノーマライゼーションの理念	NPO法人ステップワンとの交流をはじめ、ボランティア団体のイベント等へ参加（英語ボランティアなど）	24
ネットショップ	起業家精神・コンプライアンスの精神・表現力・コミュニケーション能力	「山商ネットショップ」を開設し、商品選びから商品発送までを実取引により事業主を体験	25
日本経済学	現状分析力・問題発見能力・表現力・論理的思考能力	日本経済が抱える問題についてグループ討議等を行い、多方面からその問題点や解決策を考え、小論文やレポートにまとめることで自らの考えを表現する	19
ビジネスプランコンテスト	発想力・企画力・表現力・コミュニケーション能力	日本政策金融公庫のビジネスプランコンテスト、マイナビのキャリア甲子園、関西大学KUEなど各ビジネスプランコンテストに参加して、全国大会出場を目指す	22
財務分析	分析力・数的処理能力・発想力・説得力	ビジネスゲームを通して、経営判断が財務諸表に与える影響を学んだ後、実際の財務諸表から経営における改善点を提案	10
未来の教室	柔軟性・課題解決・コミュニケーション能力	経済産業省と三重県教育委員会が連携した事業に参加し、次世代人材教育のプログラムを行う。Ma a Sを担うスキルの基礎となるSTEMS教育のプログラム探求	25
ビジネス実務	ビジネスマナー・コミュニケーション能力	秘書検定の学習を通してビジネスマナーを学び、着付け教室やお茶の入れ方講座で実践力を養う	24

(b) 各講座の1年間の取組状況

(ア) 地域活性化プロジェクト

- ・育成する力…企画力・運営力・段取り力・接客能力・行動力・表現力・調整力
- ・交渉力・コミュニケーション能力・チームワーク・プレゼン能力など

- ・取組内容…地域の活性化につながる様々なイベントに出向いて出店する。イベント場所、イベントのターゲット、時期など様々な条件にあうイベントを企画運営。

【1学期】地元伊勢の商店街の高柳商店街に「宇治山田商業の日」出店として、大黒屋前



のイベントスペースで、自分たちで考えたオリジナルゲームで小さいお子様から大人まで楽しめるイベントを企画運営。

インスタ映えや SNS での拡散など時代に合わせた集客を行った。

【2学期】「三重県高等学校産業教育フェア」へ出店

津市の総合文化センターで行われる農業・工業・看護・福祉・総合・水産・商業・情報などさまざまな特色のある高校が一堂に集まる年に一度のイベントで商業部会として出店。ポップコーンの販売など工夫凝らした販売を行った。POP作成など商業の魅力をアピールする。オリジナルゲームも考えて小学生相手に盛り上がる事が出来た。様々な高校生の取組が一同に集まるので休み時間に様々なブースを回るのも面白かった。



伊勢の市民病院への出店

自分たちで沖縄から商品を仕入れ、沖縄物産展と銘打ってイベントを盛り上げた。長時間の販売で最高の売り上げを計上した。売上金は首里城再建に募金した。たくさんの商品の試食や、自分たちが厳選した商品を販売することが出来た。赤字が出ないように値付けなど商品を仕入れて販売まで一連を体験することが出来た。



(イ) 商品開発プロジェクト

(1) 目的

7年前より地元企業の協力のもと、伊勢志摩地域の地場産業である第1次産業や観光業の活性化を目指し、地域の食材を使った商品開発を行っている。生まれ育

った伊勢志摩地区の良さを、調べ学習を通して再確認し、地元愛を深めるとともに、生産者の生産物に対する拘りや思いを消費者に届けられる商品開発を目指している。また、オリジナルの商品を開発することは決して容易いことではなく、発想力や想像力が必要であり、様々な発想法を学びながら、アイデアを創出し、試作・試食を通して、消費者に受け入れられる商品であることを検証することで、アイデアを具現化する難しさを体験する。

消費者の立場から生産者の立場へと異なる立場を経験し、製品が商品として販売されるまでの苦労や工夫を、体験を通して商品に対する認識を変え、物事を多角的な視点で見ることが出来る力を養う。

(2) 取組の内容

【1学期】

商品開発において、アイデアを創出する発想力や想像力は重要であり、身近な普段の生活の中や、ちょっと視点を変えることで、すでにある商品であっても、オリジナルの商品となる場合がある。ケーススタディにより、多角的な視点の重要性を学び、ブレインストーミングやKJ法、オズボーンのチェックリストを活用して、身近な生活における不便を解決するアイデアを創出。

セレクトショップビームスのバイヤーの方を招き、ブランド戦略やブランドによる付加価値の重要性、信頼される商品とはどのような商品かを学んだ。

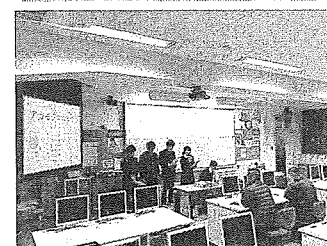
特許料が実施するパテントコンテストにそれぞれが創出したアイデアを出品するため、応募書類の作成を行った。考えたアイデアを人に伝える方法として、文章や展開図などの作図を行うことで、表現力を身に付けた。

【2学期】



商品開発に生かすため、JA伊勢のネギパッケージセンターを訪問し、農家の苦労や廃棄されるネギについて学んだ。

夏季休暇中の宿題として、開発商品のアイデアを少なくとも1人1品考えてくるものとし、2学期最初の授業で、5チームに分かれて各チームで商品化できそうな商品に関して協議し、試作段階へ進む商品を選別。その結果、11品の試作商品が決定し、調理室を借りて試作および試食。アンケート調査の結果、11品のうち7品を再度試作してみることとなり、地域で商品開発をされている3名の方々や課題研究（ネットショップ）のメンバー25名にも試作品の評価に加わっていただいた。その結果、5品が最終候補として地元企業への提案商品と決定した。



地元企業の商品開発担当者2名をお招きし、考案した開発商品の試食およびプレゼンを行った。

【3学期】

1年間の振り返りとまとめを兼ねて、課題研究成果発表会へ向けてプレゼンテーションの準備を行った。

(3) 学習の成果

企業の商品開発担当者へのプレゼンテーションは成功し、5品提案を行い、検討を行ってもらっているが、担当者の感触は良く、複数の商品について製品化したいと言っていた。提案した商品は以下の5品である。

- ・あかもくコロッケ：既存のアオサコロッケの姉妹商品として、「あかもく」をコロッケに練りこんだ。
- ・アオサふりかけ：ありそうでなかった「あおさ」を使ったご飯のお供
- ・ミルクレープ：伊勢あんを練りこんだクレープ風デザート
- ・真珠塩アイスシュー：シュー生地我真珠塩を加えたバニラアイス。白玉で真珠を表現し、アコヤ貝のイメージ。
- ・伊勢抹茶プリン：伊勢茶を使ったプリンで、アコヤ貝、白玉を乗せて伊勢を表現



まとめ

残念ながら、企業への提案までは行い、商品化を目指す商品が複数検討されているものの、最終の製品化までは時間が足りずできなかった。次年度引き続き製品化を目指して山商オリジナル商品に加えてほしい。

(ウ) 地域ボランティア

育成する力

ボランティア精神の涵養

ノーマライゼーションの理解

(1) 1学期の取り組み

- ・班ごとに交代で、小規模作業所「ステップワン」を訪問し、交流をした。
- ・班ごとにテーマを決め、調べ学習をした内容をプレゼンテーションにまとめ、学期末に授業内発表会を行った。



(2) 夏休み中の取り組み

希望者は、関係団体が募集している校外のボランティアに申し込み、参加した。

(3) 2学期の取り組み

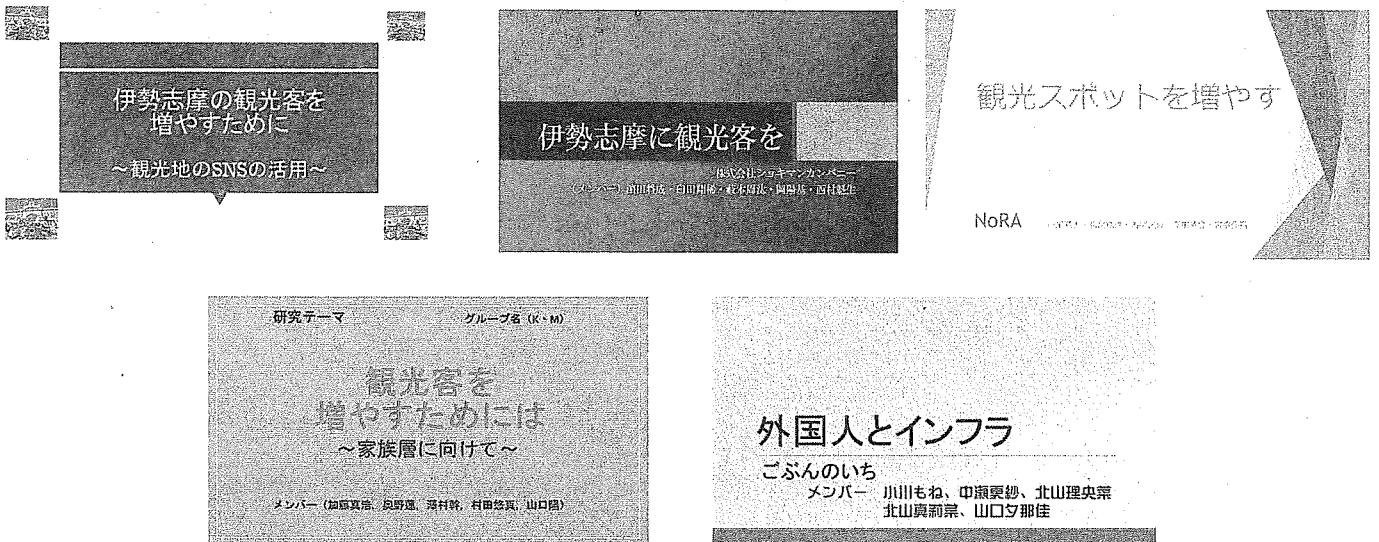
- ・ 2学期に交流を予定している高齢者サロンへ贈る、手作りプレゼントの作成をした。
- ・ 班ごとに交代で、伊勢市内の高齢者サロン3カ所を訪問し、交流をした。
- ・ これまでに取り組んだ内容を壁新聞にまとめ、校内に掲示した。
- ・ 交流先宛の年賀状を作成した。
- ・ 学年度末の課題研究発表会向けのプレゼンテーション作りをした。



(エ) ネットショップ

- ・ 育成する力…起業家精神・コンプライアンスの精神・表現力・コミュニケーション能力。
- ・ 取組内容…「山商ネットショップ」を開設し、商品選定から受注・商品発送までを実取引により事業主を体験。

【1学期】地域の観光資源を調べ、地域活性や観光資源の再開発、2学期のネットショップの商品選定のための地域のお土産物などを調査・研究した結果を発表した。
5人／1グループ：5グループに分かれて発表した。



【2学期】2学期は、今年度はグループを1学期のままの班構成で5人／1グループでネットショップでの取り扱いたい地元の商品を選定。実際に感じて事業所に電話をして取引のお願いの交渉や取引条件などの交渉を行った。また、「商品開発プロジェクト」が開発した商品を取り扱っている。

(今年度取り扱った商品)



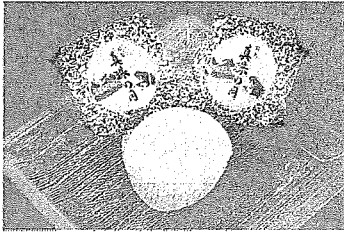
絲印煎餅



おにぎりせんべいしょうゆ



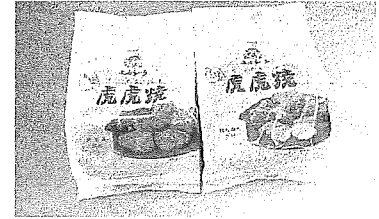
おにぎりせんべい銀シャリ



真珠の月



伊勢音頭せんべい



虎虎焼

- ・開発商品 (塩バニラアイスロール、あおさコロッケ、伊勢うどん風味パイ、ねぎらいみそ)
- ・販売期間…11月1日から30日まで (1か月間)

【まとめ】

今年度は、ネットショップ開設の宣伝がうまく行かず前年に比べて注文や問い合わせが非常に少なかった。また、取引をお願いした取扱商品については、ほとんど注文がない状態であった。次年度以降、ネットショップのPR方法等も考える必要がある。取扱商品の選定でも価格設定、商品認知などのさまざまな部分に考慮する必要がある。

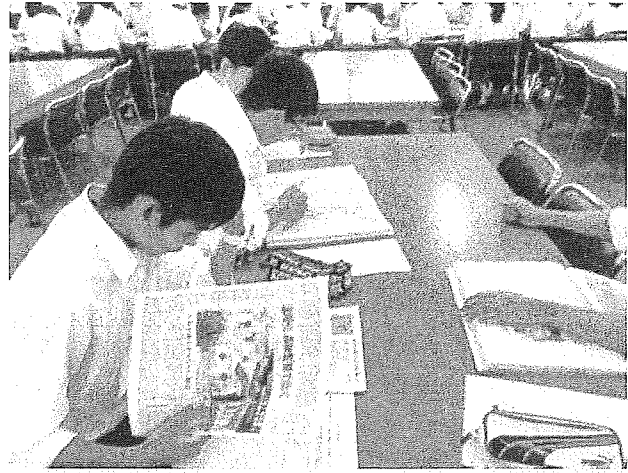
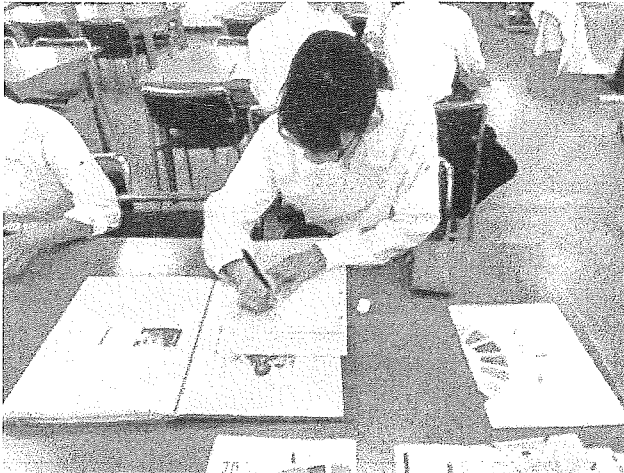
(木) 日本経済学

育成したい力：

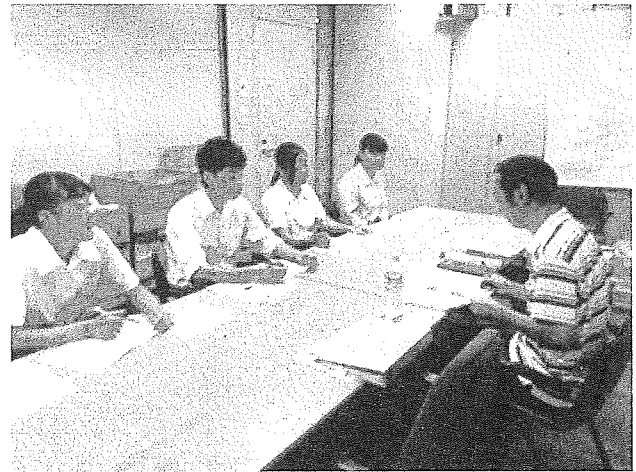
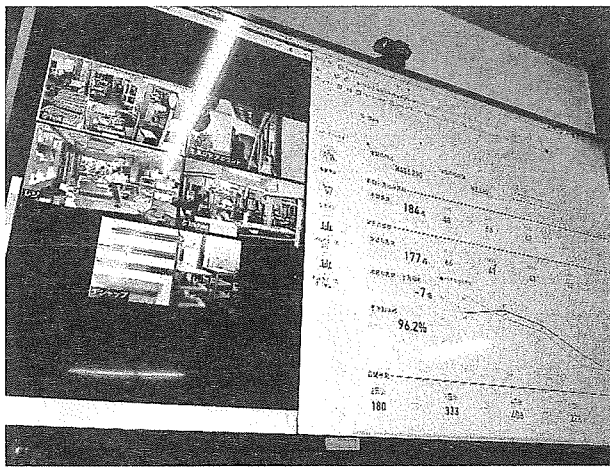
- ・持続可能な社会づくりを意識し、経済活動を通じた課題について考え対応していく力。
- ・資料を要約する力を養い、大学入試等に活用していく。

取組内容：

- ・「日誌」→経済に関する新聞記事を要約し、自分なりの視点で社会の課題について考えられるようになる。
- ・「小論文コンクール等への応募」
 - 「インターネットによる高校生小論文コンテスト」
 - 「金融と経済を考える高校生小論文コンクール」等
- ・「日経ストックリーグへの参加」 → 模擬投資活動を通して、経済感覚を磨く。
—企業のSDGsの取組みを通して、経済活動について考える—



ーレポート作成のために企業への取材ー



・その他にも、テーマ設定を行い班別に探究した内容でのプレゼンテーション、講座独自の小論文課題など大学進学に向けた準備も同時にしてきた。

(カ) ビジネスプランコンテスト

育成する力：プレゼンテーション能力・表現力・協調性・想像力・発想力

取組内容：メインの3つのコンテストに応募し、全国大会出場を目指す

目指せ全国大会！
目指せ東京進出！

6月 【関西大学ビジネスプラン・コンペティション KUBIC】個人プラン

著名な大手企業が実際に直面している課題の解決策や新しいアイデアを求めるいくつかのテーマの中から、自分の好きなテーマを選んで応募する。コンペティション後、学生のプランが実際に企業の事業として採用される場合もあり、プラン実現の可能性を持っていることが特徴。

10月 【高校生ビジネスプラン・グランプリ（主催：日本政策金融公庫）】グループプラン

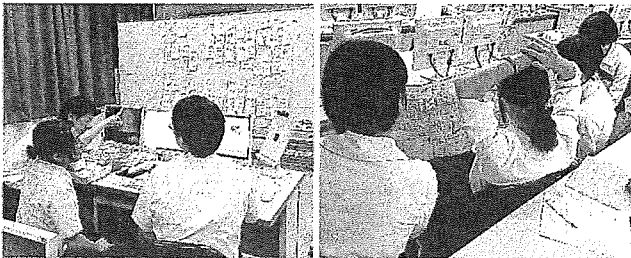
今後の活力ある日本創り・地域活性化を目指すため、若者の創業マインド向上を目的としたビジネスプラン・グランプリ。若者ならではの自由な発想や創造力を活かした「人々の生活や世の中の仕組みをより良いものに変えるビジネスプラン」、[地域の課題や環境問題などの社会的な課題を解決するビジネスプラン]のどちらかにグループで応募する。

12月 【キャリア甲子園（主催：株式会社マイナビ）】グループプラン

高校生がチームを組んで企業・団体からの課題に挑戦するコンテスト。答えのない課題に対して仲間と協力して調査し、議論し、仮説を立て、試行錯誤の末にアウトプットする。そしてそれを第三者に評価してもらい、結果が出る。決勝戦の様子はインターネット生中継！！

<主な授業内容>

- 毎授業、発想力を働かせてビジネスプランのアイデアを考える
- グループの結成
代表を決めてから、募集選考を行い決定
入社試験の気持ちで応募して合否を決める
- 日本政策金融公庫から金融のプロによる出前授業（1学期）
「ビジネスアイデアの発想」「ビジネスプランの考え方」「収支計画」「上手なプレゼンテーションの作り方」「プレゼン発表と講評」など



- 応募するプランの考案
ブレインストーミング→テーマ決定
→具体的な内容を議論→プレゼン発表
→フィードバック→ブラッシュアップを繰り返し行う
- 各コンテストへのエントリー
- 審査結果発表

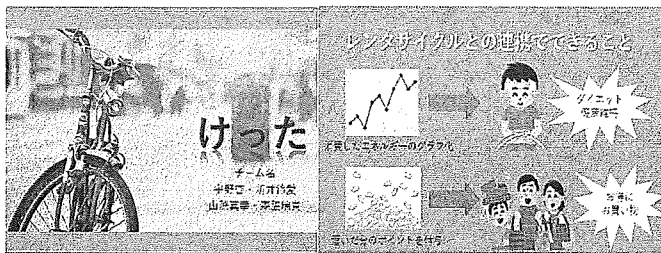
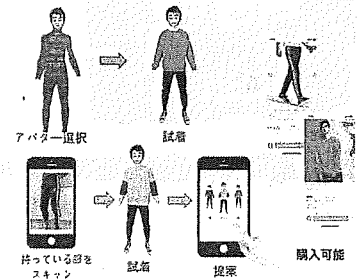
◆これまでの実績◆

<2018年度>

キャリア甲子園初挑戦にして、初全国大会出場。ZOZOテクノロジーの課題に対し、新ブランド『JENNIFER；（ジェニファー）』を提案。部活動などで忙しい高校生の10年後のファッションと諸外国の雇用問題を同時に解決するビジネスプランを考えた。

ZOZO
Technologies

Ujiyamada commercial high school
CHODORO, ORI, ASHINOE, Naoka, Y. Miyu, K.
Azumi, N. Asuka, S.



<2019年度>

今年度初挑戦の三十三総研主催「33FG ビジネスプランコンテスト」にて、2次審査へ進出した。自転車を漕いでできるエネルギーを電力に変え携帯の充電や災害時に役に立つ機械や、エネルギーを健康管理に役立てるアプリや、エネルギーのポイント化などを提案した。

(キ)財務分析

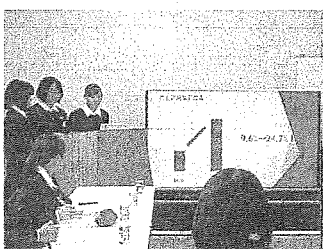
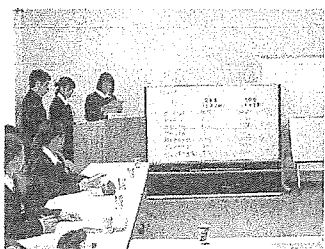
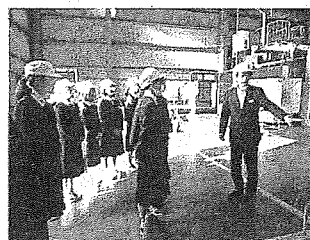
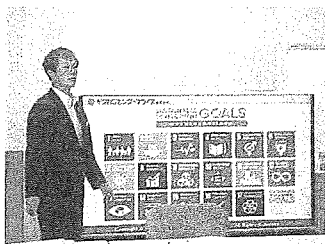
- 育成する力…分析力・数的処理能力・発想力・説得力
- 取組内容…ビジネスゲームを通して、経営判断が財務諸表に与える影響を学んだ後、実際の財務諸表から経営における改善点を提案。

【1学期】・決算書の読み方を復習

- 2社比較分析レポート作成
- マネジメントゲーム実習

【2学期】・キクカワエンタープライズ株式会社の決算書分析

- ・企業訪問① 担当者へ質問、社内見学
- ・企業訪問② 分析結果提案プレゼン



企業訪問①および企業訪問②の様子

(ク)未来の教室

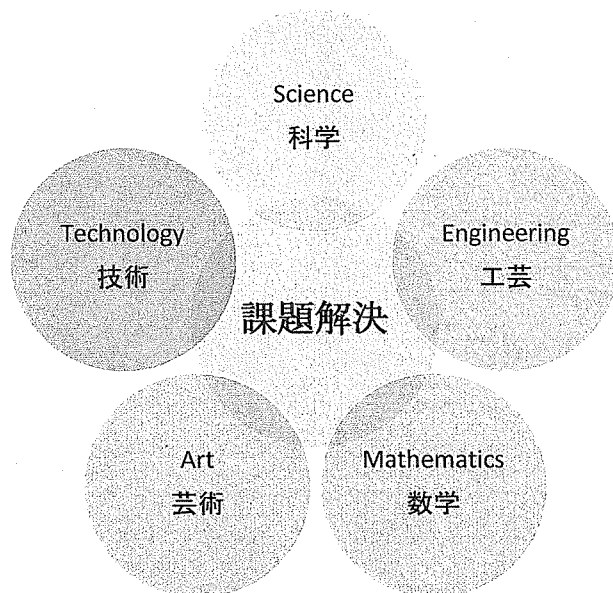
育成する力・・・柔軟性・課題解決・コミュニケーション能力

取組内容・・・経済産業省と三重県教育委員会が連携した事業に参加し、次世代人材教育のプログラムを行う。

MaaS (モビリティ アス サービス) を担うスキルの基礎となるSTEAMS教育のプログラムの探求。

○STEAMS教育とは

Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics 等の各教科での学習を実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育。



【1学期】

新しいモビリティの活用方法を考えた、新たなサービスを創造し、企業に向けた提案を行うためのプレゼンテーションを制作した。その中には、SDGs の視点も取り入れ、社会における課題も学習した。

MaaSとは?

・車を所有せず、使いたいときだけお金を払って利用するサービス。

MaaS (Mobility as a Service)

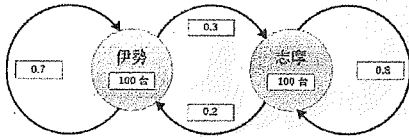
個人で所有・管理する車
 事業者のネットワークに合わせた利用

【2学期】

1学期の取り組みを基にして、MaaSに対する日本の現状と世界の状況を学び、高校生の視点による新たなビジネスを考えることで、創造力や課題の設定、ステークホルダーへの意識など、ビジネスシーンにおいて必要となる課題設定能力・コミュニケーション能力の向上を図った。

また、設定した課題の解決に必要な乱数、漸化式、行列といった数学的な考え方を学び、漸化式・行列においては、状態遷移図(下図)を活用した将来予測についても学び、社会生活の中で数学を活用する場面が多くあることを学んだ。

- ① 自動運転シェアカーの推移を状態遷移図や表で表してみよう! ② 1週間後、2週間後、3週間後の台数を行列表現の漸化式を用いて計算して予測しよう!



$$1 \text{ 週間後: } \begin{pmatrix} 0.7 & 0.2 \\ 0.3 & 0.8 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 100 \\ 100 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 90 \\ 110 \end{pmatrix} \quad 2 \text{ 週間後: } \begin{pmatrix} 0.7 & 0.2 \\ 0.3 & 0.8 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 90 \\ 110 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 85 \\ 115 \end{pmatrix}$$

$$3 \text{ 週間後: } \begin{pmatrix} 0.7 & 0.2 \\ 0.3 & 0.8 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 85 \\ 115 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 82.5 \\ 117.5 \end{pmatrix}$$

○自己資質を可視化する評価測定ツール「AiGROW」を使用して、自己評価だけでなく他者からの評価も併せて分析された測定結果から、自分を再確認することを行った。測定は、受講する前と後で行い、学習を通して成長した自己の資質を確認した。

(ケ) ビジネス実務

【1学期】

○秘書検定取得に向けて(6月15日(土)実施)

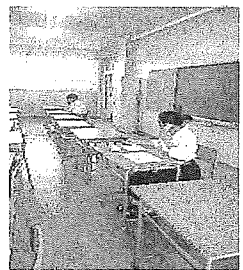
- ・過去問を解く
- ・講義形式で学ぶ

敬語 接遇用語 席次 慶事・弔事 社内文書・社外文書 文書の取り扱い
 グラフ モラル・マナー 言葉遣い 電話対応 手紙 冠婚葬祭 等

【2学期】

○1学期で学んだことを実践

- ・自己紹介
- ・名刺交換
- ・電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方
- ・応対・訪問



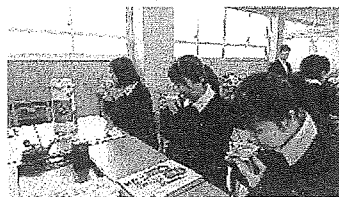
○外部講師による「着付教室」



○祝儀・不祝儀袋の書き方

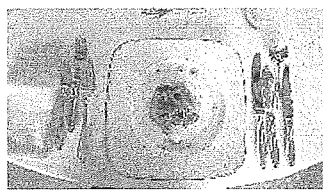
【3学期】

○外部講師による「お茶の淹れ方教室」(1月16日(木))



○「テーブルマナー研修」(1月23日(木))

於) 鳥羽国際ホテル



(c) 課題研究 次年度に向けた準備

令和2年度の課題研究のテーマについては、「ビジネス実務」を「観光とビジネス」というテーマに変更し当事業のプログラムの中心的な担当を担う。

それ以外のテーマについても今年度同様、各テーマの課題研究を実施する中で「SDGs」の視点を取り入れて課題研究を継続する。

【テーマ】

観光とビジネス

【育成する力】

発想力・企画力・課題解決・ビジネスコミュニケーション能力

【取組内容】

地域の観光資源を研究し、地域の活性化・観光資源の再開発、エコツーリズム・グリーンツーリズムを踏まえた情報の発信を目標とする。

【選択することが望ましい生徒】

地域の観光資源を高校生の視点で発信する。エコツーリズムやグリーンツーリズムに興味・関心のある生徒。

② SDGs の視点における取組

(a) 課題研究「財務分析」講座

(ア) 目的

この講座では、今まで勉強してきた簿記の知識を使って様々な視点から企業の業績を見る力をつけることをねらいとしている。個人あるいはグループで企業の財務分析を行い、1・2年次で学習した簿記会計の知識や情報処理技術がどのように活用できるかを、自ら発見する力を育成している。

(イ) 取組内容

(1) 共通課題による財務分析実習

1学期は、地元工場があり本校卒業生が就職している企業2社の資料を用いて、全員が共通課題「パナソニック株式会社とシンフォニアテクノロジー株式会社の財務分析」に取り組んだ。各自で研究・分析した後、3～4人1班のグループ内で意見交換をした。

(2) マネジメントゲーム実習

企業研修等で用いられるマネジメントゲームを模して作成した教材を用いて、生徒一人ひとりが社長となり、経営者の視点で企業活動を疑似体験した。この実習により、実務につながる会計・財務スキルを修得することができる。また、戦略会計を学び、損益計算書の分析結果から短期・中期目標の事業計画や損益計画を立案する手法を学んだ。

(3) 地元企業の有価証券報告書の研究

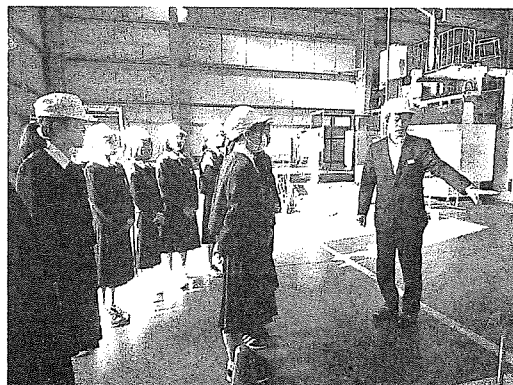
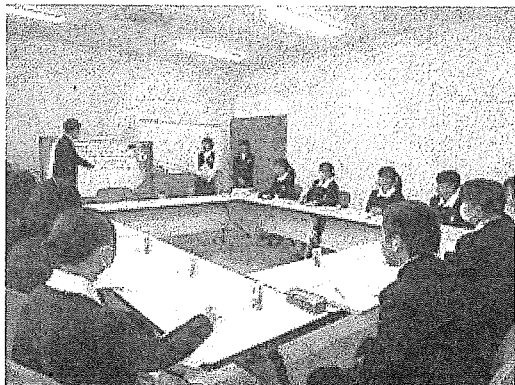
地元企業のキクカワエンタープライズ株式会社の協力により、2度の企業訪問の機会をいただいた。3～4人1班のグループで研究を進めた。

・ 有価証券報告書の分析（1回目企業訪問前）

第138期（平成30年4月1日から平成31年3月31日）の有価証券報告書を読み、そこからわかること、疑問点などを洗い出した。1回目の企業訪問では、生徒が社長に質問をし、回答をもらう。単に疑問点を聞くのではなく、各班でテーマを用意し、仮説を立てたうえで質問するよう指導した。

・ 企業訪問（1回目）

社長から会社説明を受けた後、社長に対して各班で準備していた質問をし、回答をいただいた。また、職場見学をさせてもらい、仕事をする上での心構えや作業効率などの話をしていただいた。



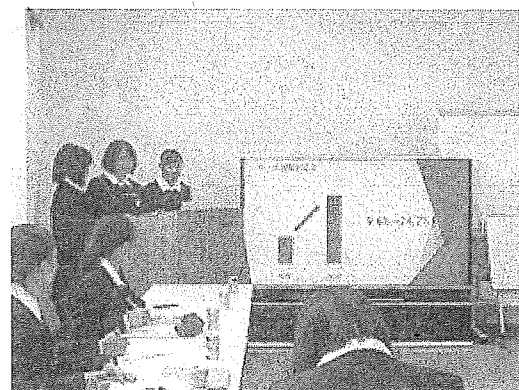
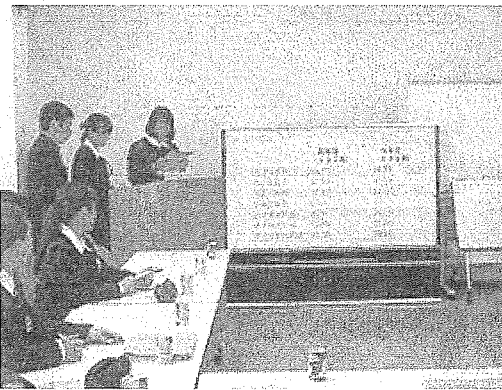
- ・ 有価証券報告書の再分析・プレゼンテーション準備

1 回目の企業訪問を受けて再分析を行い、分析結果を発表資料にまとめた。中には、回答によって仮説が白紙に戻った班もあり苦戦していたが、思い通りにはいかないという結論や、実現は難しいかもしれない高校生らしい発想といった切り口で、発表内容をまとめ上げた。

- ・ 企業訪問（2回目）

パワーポイントを用いて分析結果や提案を発表した。各班の発表後、会社役員の方から講評をいただいた。以下は、講評の一部である。

- ・ 損益計算書の現状分析ができています。
- ・ 固定観念にとらわれない着眼点がよかったです。



(ウ) 取組の成果

研究の中で何度か仮説が白紙に戻ったり、調べれば調べるほど疑問が深まったりと、なかなか進まないこともあった。しかし、どこに糸口があるだろうかと思案し、自分たちの結論を見出し、2回目の企業訪問での発表にたどり着いた。これは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」が鍛えられたのではないかと考える。また、グループで研究を進めることによって、効率よく分担作業をする場面も見受けられた。「チームで働く力」がついたと考えられる。以下は、生徒の感想である。

- ・ 簿記の授業だけでは得られない様々な体験ができた。
- ・ 数値を読み解き分析する力が付いた。
- ・ 新しいアイデアを提案することで発想力が身に付いた。
- ・ この経験を踏まえ、社会に出たら自分が勤める会社の経営の仕方などに目を向け、役に立ちたい。

(エ) 今後の課題

校外学習を取り入れる本講座では、地元企業の協力が不可欠である。今年度は、担当教員から伊勢市産業支援センターに依頼し、決算書の開示可能な企業を探してもらったが見つめることができず、過去に協力いただいたことがあるキクカワエンタープライズ(株)様に訪問することにした。

決算書の開示義務のない中小企業から、開示の承諾をもらうことは難しい。今後は、企業にどのようなアプローチをすれば財務分析研究に協力していただけるかを、生徒自らに考えさせることが課題である。

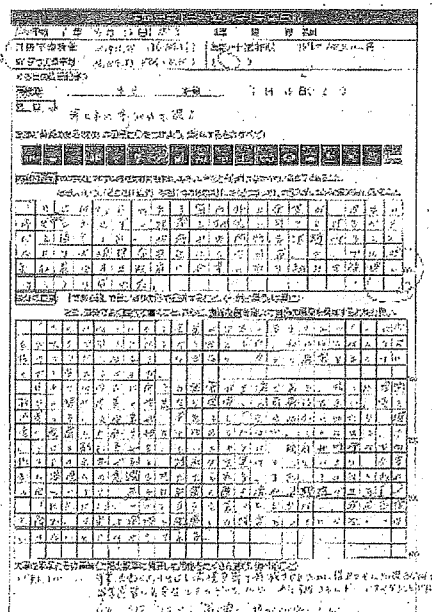
(b) 課題研究「日本経済学」講座

(ア) はじめに

課題研究「日本経済学」では持続可能な社会づくりを意識し、経済活動を通じた課題について考え、対応していく力をつけることを目的に授業を行っている。経済学とは人々がどのように生きれば、みんなが一緒に幸せになれるかを考える学問であり、経済の学びを通して社会的課題の解決がより進むことを目指している。

(イ) 日誌での取組

「日本経済学」の1学期の授業では、宿題として日誌を書くことにしている。日経平均株価や為替レート調べをはじめ、経済等の新聞記事を要約し、意見を400字にまとめる。本校では資格等を活かし、推薦入試に挑戦する生徒が多く、面接と小論文による受験を選択することになる。新聞記事を読み、日誌に取り組むことで、受験に役立つだけでなく、文章を読む力や得られた情報を活用する力がつき、自分の考えや意見を発信できるようになる。また、社会において何が課題となり、何が求められているのか自分なりの視点で考えられるきっかけとなる。後半からは、記事の内容がSDGsの17の目標のどれに関連しているかも問うことにした。

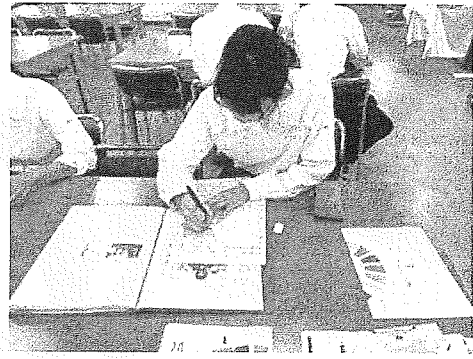


(ウ) 日経 STOCK リーグへの参加

日経 STOCK リーグは、株式投資学習プログラムであり、経済・株式投資の基礎を学び、実生活で役立つ知識を身につけ、投資テーマやポートフォリオを考えていくものである。議論して投資テーマを決め、500万円分のポートフォリオを構築し、レポートを完成させる。金融のしくみについて学び、「どんな企業に投資していくか」について考えるなかで、社会にはさまざまな種類の産業があることを学び、それぞれが互いに関連しながら経済・社会生活を支えていることを学べる。今回の参加ではESG投資について学び、企業への投資は企業の支援につながり、そのためには売上や利益などの業績だけでなく、社会の課題解決に向け取り組んでいる企業について深く知り、投資家へアピールする必要があることを理解させたいと考えた。

(エ) 投資テーマの決定

投資テーマを決定するために日常生活や社会全体をめぐって注目される最近の動きや、様々な社会的課題の中から、特に重要と考える事項をいくつか選び、理由をまとめることから始めた。どのような社会を目指せばよいか「道しるべ」となるSDGsについて資料等を用意し、2030年までに達成すべき目標について知り、よりよい未来をつくること、未来から今を考えることを学んだ。そのうえで課題、理由、資料引用先、該当するSDGs目標を記入していった。



個人でのテーマ決定ワークシートを持ち寄り、4つの班でブレインストーミングにより意見を出し合い、KJ法を用いて集められた情報を整理しグループ化した。今後成長が見込まれる分野や投資してみたい企業についても考え、関連する記事や情報を選び出し、投資テーマを決定していった。

テーマ決定ワークシート

目的：企業へ投資をする一企業家支援のための投資家へアピール課題解決

各個人が生活や社会をめぐって注目される最近の動きや、様々な社会的課題の中から、特に重要と考える事項をいくつか選び、理由をまとめることから始めた。

課題	理由	資料引用先	該当するSDGs目標
高齢化社会の課題	高齢者の増加による社会負担の増大、高齢者の生活の質の向上が求められる。	厚生労働省の発表資料	SDGs 5 (ジェンダー平等)、SDGs 8 (持続可能な経済成長)
デジタル化の推進	デジタル技術の進歩による生産性の向上、新たなビジネスモデルの創出。	経済産業省の発表資料	SDGs 9 (産業、イノベーション、基構)
環境問題	気候変動による地球温暖化の進行、持続可能な社会の実現に向けた取り組みの必要性。	環境省の発表資料	SDGs 13 (気候変動に具体的な対策を)
デジタルと環境の融合	デジタル技術を活用した環境問題の解決、持続可能な社会の実現。	環境省の発表資料	SDGs 13 (気候変動に具体的な対策を)

テーマ決定ワークシート

目的：各個人が生活や社会をめぐって注目される最近の動きや、様々な社会的課題の中から、特に重要と考える事項をいくつか選び、理由をまとめることから始めた。

課題	理由	資料引用先	該当するSDGs目標
高齢化社会の課題	高齢者の増加による社会負担の増大、高齢者の生活の質の向上が求められる。	厚生労働省の発表資料	SDGs 5 (ジェンダー平等)、SDGs 8 (持続可能な経済成長)
デジタル化の推進	デジタル技術の進歩による生産性の向上、新たなビジネスモデルの創出。	経済産業省の発表資料	SDGs 9 (産業、イノベーション、基構)
環境問題	気候変動による地球温暖化の進行、持続可能な社会の実現に向けた取り組みの必要性。	環境省の発表資料	SDGs 13 (気候変動に具体的な対策を)
デジタルと環境の融合	デジタル技術を活用した環境問題の解決、持続可能な社会の実現。	環境省の発表資料	SDGs 13 (気候変動に具体的な対策を)

個人が生活や社会をめぐって注目される最近の動きや、様々な社会的課題の中から、特に重要と考える事項をいくつか選び、理由をまとめることから始めた。

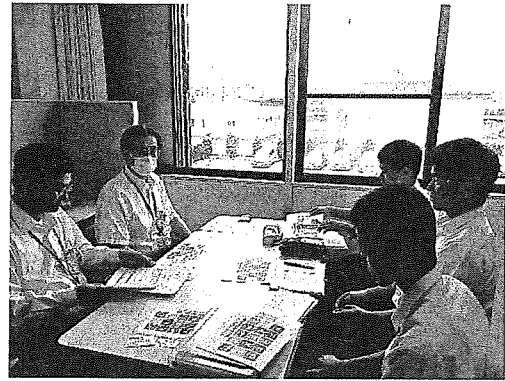
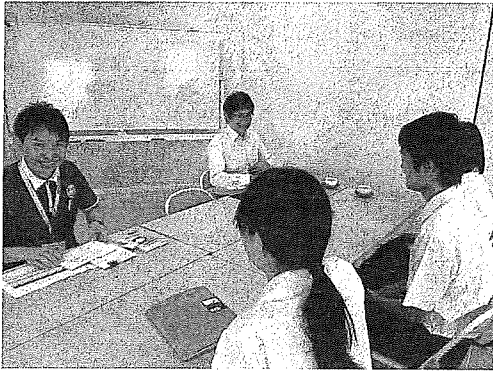
テーマ決定

環境問題の解決、デジタル技術を活用した環境問題の解決、持続可能な社会の実現。

SDGs 13 (気候変動に具体的な対策を)

(オ) チーム編成と企業訪問

投資テーマにより3~5名で5班を編成し、再度チーム内で議論して、最終的な投資テーマを決定した。同時にSDGsに取り組んでいる企業について取材し、調査するために取材先を検討した。地域における課題について考え、地元企業の取組みを知るために、県内、できれば学校周辺でと限定して取材先を探した。取材先を決定し、依頼するにあたり、生徒自らが電話によりアポイントを取り、依頼文書の送付を行った。日頃携帯で直接つながることに慣れている生徒たちは電話をかけるのに苦労していたが、どの担当の方も温かく対応していただき、夏休みを利用して取材・調査を行った。取材を通じ、SDGsの目標を達成するためのそれぞれの企業の取組みについて知り、投資家へのアピールについて考えていった。



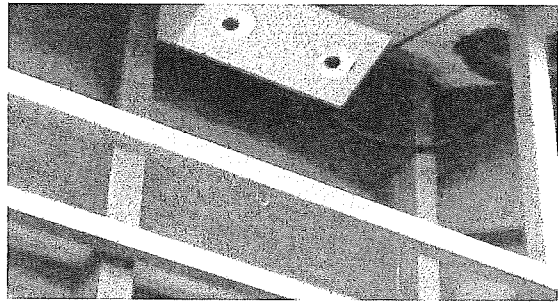
(カ)生徒の取材レポート

食品ロスを減らす努力を！！～SDGsの観点から～ チーム名「OMY ファニーズ」

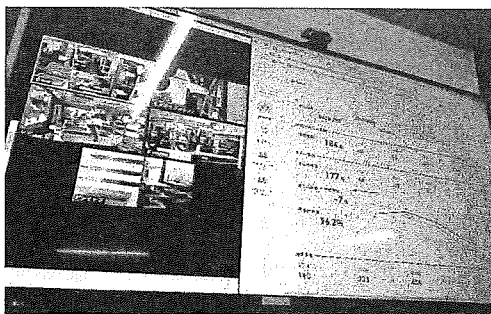
取材先：ゑびや大食堂

食品ロスの削減に取り組む企業への訪問先として、地元にある伊勢神宮の付近に店を構える老舗飲食店「ゑびや大食堂」へ企業見学をさせていただいた。ゑびや大食堂では、自社開発した「TOUCH POINT BI」というAIシステムを用いて、売上の向上だけでなく、食品ロスの削減や、従業員の休暇取得率の向上を見事に実現していた。

ゑびや大食堂では、AIシステムを用いて来客数を予測し、営業日の前日に使われる食材の量を前もって導き出すという取組がなされていた。来客数の予測のために、店舗の周辺の通行量、周辺で行われるイベント情報、気温、気候などのデータを取得していた。これらのデータを用いて算出された食材の予測需要量は、的中率 90%以上を誇っていた。この予測需要



(データを取得するためのセンサー)



(予測する AI システムの様子)

量をもとに、仕入れる食材の量を調節したり、仕入れの際に作る料理の量を調節したりすることで、AIシステムの導入前と比べて食品廃棄量が約 70%削減されていた。ゑびや大食堂がAIシステムを用いて実現したのは食品廃棄量の削減だけにとどまらず、従業員の休暇取得率を向上させることにも成功していた。AIによって事前に導き出された来客数のデータによって、一年を通して店の繁忙期、閑散期を予測するという取組みもなされていた。繁忙期には

従業員を多く配置し、閑散期には従業員を少なく配置することで、働き方の無駄をなくし、労働生産性の向上、従業員の休暇取得率の向上を実現していた。他にも、ゑびや大食堂では土産物の販売も行われており、土産物として販売する商品の在庫管理も、自動で行う取組がなされていた。ゑびや大食堂の二階には、土産物をストックするための倉庫があり、

そこにある商品はすべて商品の重さが一定の基準を下回ったらメーカーに自動発注するようにプログラムされている台座の上に置かれていた。このような仕組みによって在庫管理を完全自動化することで、人手不足を解消し、人為的なミスによる在庫不足のリスクを削減することに成功していた。

(キ) 学習の成果

様々な問題が複雑に絡み合う現代社会において、その課題を解決していくための目標である SDGs の認知度は、日経リサーチ 2019 年 6 月調査によると 37%にとどまる。株式投資者のみでも 50%との結果が出ている。今年度の課題研究では、日経ストックリーグ参加と同時に、SDGs について深く知り、身近な課題をあげ、そのためには何をしなくてはいけないのか、何が求められているのかを考えることにも重点をおいた。SDGs について知り、レポートを作成していく過程で、将来自分が（自分たちが）すべきことを考えるきっかけとなり、進路選択・決定が明確になった生徒も多い。テーマについて深く調べ、株式投資を通じ企業を分析していくなかで、自分にとって身近な課題の解決が地球規模の課題解決につながることを理解できたのではないかと考える。

(ク) 今後の課題

NIE 事業（すべての教室に新聞を）において各クラスに新聞を置く機会を得られたが、インターネットの情報だけに頼ってしまう傾向がみられた。インターネットからの情報のみに頼るのではなく、新聞や本を読む習慣を身につけ、レポート作成に取り組めるようにしていきたい。

視野が狭く、自分自身に関わる身近な課題や問題点になかなか気づくことができないため、課題を深く掘り下げ、考察する力を伸ばしていく必要がある。校外のイベントや講演会、映画等も含め参加を促し、視野を拡げ、自ら探究できるような授業のあり方を考えていかなければならない。

(c) SDGsによる持続可能社会を実現する商品開発

(7) 授業の目的

7年前より地元企業の協力のもと、伊勢志摩地域の地場産業である第1次産業や観光業の活性化を目指し、地域の食材を使った商品開発を行っているが、本年度はさらに持続可能社会を実現するため、開発する商品における原材料に、化学調味料などを使用せず、天然食材を用いて安全で健康的な商品開発を目指した。

商品開発を行う過程において、生まれ育った伊勢志摩地区の良さを、調べ学習を通して再確認し、地元愛を深めるとともに、生産者の生産物に対する拘りや思いを消費者に届けられる商品開発を目指している。

また、オリジナルの商品を開発することは決して容易いことではなく、発想力や想像力が必要であり、様々な発想法を学びながら、アイデアを創出し、試作・試食を通して、消費者に受け入れられる商品であるかを検証することで、アイデアを具現化する難しさを体験する。そして、消費者の立場から生産者の立場へと異なる立場を経験し、製品が商品として販売されるまでの苦労や工夫を、体験を通して商品に対する認識を変え、物事を多角的な視点で見ることができる力を養うことを目的とした。

(4) 取組の内容

(1) 1学期

商品開発において、アイデアを創出する発想力や想像力は重要であり、身近な普段の生活の中や、ちょっと視点を変えることで、すでにある商品であっても、オリジナルの商品となる場合がある。ケーススタディにより、多角的な視点の重要性を学び、ブレインストーミングやKJ法、オズボーンのチェックリストを活用して、身近な生活における不便を解決するアイデアを創出し、発想力や想像力を養成した。

セレクトショップビームスのバイヤーの方を招き、ブランド戦略やブランドによる付加価値の重要性、ブランドは信頼により長い期間をかけて育まれるものであり、信頼される商品とはどのような商品かを学んだ。

(2) 2学期

商品開発に生かすため、JA伊勢のネギパッケージセンターを訪問し、農家の苦労や生産物へのこだわりを学ぶとともに、丹精込めて作ったネギも、規格外であったり、台風などの被害にあったりして、廃棄されるネギが、製品となるネギと同量ぐらいあることを知り、驚くとともに廃棄食材を活用する商品開発を行う必要性を感じた。そして、前年度におい



パッケージセンターの見学

て、廃棄ネギを使って商品開発を行っていた「ネギ味噌」がいよいよ製品化され、販売されることが決定したため、パッケージデザインを考案し、いくつかのデザインを組合せる形となったが、開発企業と協議し、パッケージが完成した。

また、夏季休暇中の宿題として、開発商品のアイデアを少なくとも1人1品考えてくるものとなっていたが、メンバーを5チームに分け、各チームで商品化できそうな商品に関して協議し、試作段階へ進む商品を選別した。その結果、11品の試作商品が決定したため、調理室を借りて試作および試食を行った。試作後のアンケート調査の結果、11品のうち7品を再度試作してみることもとなった。

2回目の試作を行う段階において、地域で持続可能社会を目指す取組を行っておられる方々をお招きして、試作を行う商品についてコンセプトや食材、調理方法などを説明し、アドバイスをもらった。その結果、化学調味料を使った味付けを、鰹出汁のうま味成分で代用したり、プリンにおいて、ゼラチンを寒天に置き換えたりして、化学調味料を使わず、天然食材を使った体にも自然にもやさしい商品開発を行うアイデアをもらった。

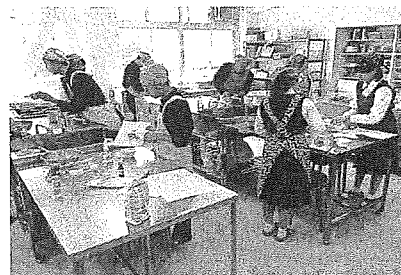
また、試作・試食においては、地域で商品開発をされている3名の方々や課題研究の他のテーマのメンバー25名にも試作品の評価に加わってもらった。客観的な評価を受けることで、最終の提案商品を決定した。

その結果、5品が最終候補として地元企業への提案商品と決定した。

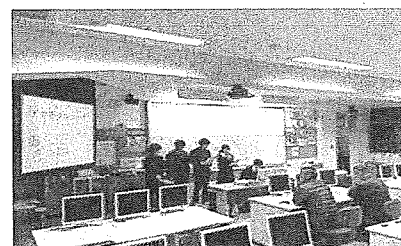
決定した5品について、商品化していただく地元企業に提案を行うため、コンセプトや食材、レシピ、原価計算による原価、想定される販売価格を考え、プレゼンの準備を行った。そして、地元企業の商品開発担当者2名をお招きし、考案した開発商品の試食およびプレゼンを行った。



活動家によるアドバイス



開発商品の試作の様子



地元企業への開発商品の提案

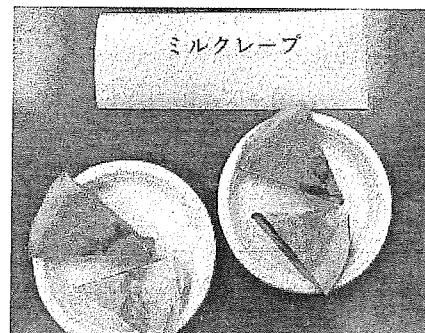
(3) 3 学期

1年間の振り返りとまとめを兼ねて、課題研究成果発表会へ向けてのプレゼンテーションの準備を行った。

(ウ) 提案商品の紹介

(1) ミルクレープ

「伊勢あん」を使ったデザート。クレープ生地にはマイヤーレモンの絞り汁を練りこみ、生地と餡を何層にも重ねたクレープ生地のみルフィーユというコンセプト。マイヤーレモンの酸味が餡の甘さを引き立てている。地元食材による無添加のデザートとして考案。販売においては要冷蔵冷凍を想定。



伊勢餡のミルクレープ

(2) あかもくコロッケ

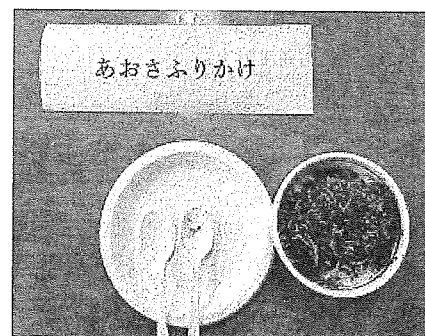
すでに販売され、人気商品となっている「あおさコロッケ」の兄弟商品として考案。「あかもく」は東北地方では一般的な食材であったが、この地方では釣り糸に絡む迷惑な海藻であった「あかもく」を、コロッケの生地に練りこんだ冷凍コロッケ。「あかもく」は昨今栄養価が高く注目食材であり、「あおさコロッケ」のホクホクな食感とは異なり、ねっとりとした食感に仕上がりに、食感の異なるコロッケのセット販売を想定。



あかもくコロッケ

(3) あおさふりかけ

地元食材である「あおさ」を鰹節や梅干しなどとともに「ふりかけ」とした。「あおさ」の磯の香りがする梅鰹味のふりかけ。小学校の給食として引き合いが来ており、小学校の給食における食育にも一役買いそうな商品である。



あおさのふりかけ

(4) 真珠塩のシューアイス

ミネラルたっぷりの真珠のパウダーが入った塩を、バニラアイスに練りこみ、シュー生地に挟んだシューアイス。白玉を真珠に、シュー生地をアコヤ貝に見立てて、伊勢志摩特産の真珠貝をコンセプトとした商品。



真珠塩のシューアイス

(5)伊勢抹茶プリン

伊勢特産の抹茶を使い、寒天を使ってプリンに仕上げた。伊勢館、白玉（真珠）、貝殻チョコレートを乗せ、伊勢志摩を表現。



伊勢抹茶プリン

(エ)学習の成果

企業の商品開発担当者へのプレゼンテーションは成功し、提案を行った5品について商品化の検討を行ってもらっているが、担当者の感触は良く、複数の商品について製品化したいと言っていた。

例年であれば、提案商品のうち1つでも製品化に向かえば上等であるが、本年度においては、どれもオリジナリティにあふれ、製品化に向けたコンセプトもしっかりとしており、発想力、創造力、具現力などをしっかりと身に付けてくれた賜物だと感じている。

また、持続可能社会を目指すことにおいても、化学調味料を使わず、自然食材を利用することで、商品に健康志向や安全といった付加価値を付けることができることを学んでくれたものと考える。

(オ)まとめ

残念ながら、本年度中には、企業への提案までに留まり、商品化を向けて複数の商品が検討されているものの、最終の製品化までは至らなかった。次年度引き続き製品化を目指し、山商オリジナル商品に加えていきたいと考える。

しかし、授業を通して、消費者の立場から生産者の立場を経験し、普段何気なく見ている商品にも、開発者の苦労や工夫、拘りが存在しているということを認識させることはできたと考える。

また、改めて地元の伊勢を調べ、地元の良さを再認識するとともに、地元の担い手として、持続可能社会を築き、自然豊かな地元をこれからも守り、活気があって住みよい街へと育てていってほしいと願っている。

(d) 課題研究「ビジネスプランコンテスト」講座

(ア) はじめに

「ビジネスプランコンテスト」講座は平成29年度より開講され、本年度で3年目の取り組みとなる。初年度は教育と探求社、クエストカップ実行委員会が主催する「クエストカップ」に1年を通して取り組み、1チームが全国大会に出場した。途中、日本政策金融公庫が主催する「高校生ビジネスプラン・グランプリ」にも参加し、金融のプロによる出前授業も実施した。2年度目より、関西大学主催「関西大学ビジネスプラン・コンペティション KUBIC」、日本政策金融公庫主催「高校生ビジネスプラン・グランプリ」、株式会社マイナビ主催「キャリア甲子園」の3つのコンテストに取り組んでいる。本年度は3年生商業科8名、情報処理科9名、国際科5名の22名と教員2名で活動を行った。

(イ) 授業の目的

この講座の大きな目標は、様々なビジネスプランコンテストに応募して全国大会を目指すということである。全国大会を目指し、日々ビジネスプランの企画、ブラッシュアップを繰り返している。この課程の中で、世の中への関心を広げ、発想力や想像力、表現力、思考力、協調性、プレゼンテーション能力を高めていくことを目的としている。

(ウ) 取組内容

1学期の6月までは関西大学主催「関西大学ビジネスプラン・コンペティション KUBIC」に向けて個人でプランを考えていく。その後、10月の日本政策金融公庫主催「高校生ビジネスプラン・グランプリ」に向けてチームを編成する。チーム編成は、立候補または推薦でリーダーを決め、リーダーが各々の目標や欲しい人材を匿名で募集し^{図1}、他のメンバーが提出したエントリーカード（匿名）^{図2}を吟味して決定する。まさに入社試験のような方法で行う。以降、最後までこのチームで活動していく。10月にチームのプランを提出後、12月までは株式会社マイナビ主催「キャリア甲子園」に向けプランを作成する。3学期は1月末にある2年生に向けた発表会に向け、1年間のまとめを行う。

＜川＞ 募集案内			
ビジネスプランテーマ			
人々の生活をより良いものにさせるプラン	世の中の仕組みをより良いものにさせるプラン	地域の課題を解決するプラン	その他
(例) 子供連れのの方に快適な移動手段を提供する鉄道会社とコラボした、専用車両増入による託児サービス	(例) 海外におけるデンク熱の予防策として、現地での材料を用いた蚊除けグッズを開発・販売	(例) 衰退する駅前の再興を目的とした、朝田専用種別列車の誘導・販売と朝田米のブランド化	
○			
チームの スローガン	目指せ全国優勝 全国優勝に向けた質の高いプランを練る。 そのために、仲間と一緒に絆を深め協力しあい真剣にプランに取り組む。		
求める メンバー像	自由な意見を言える人 考えが柔軟な人 自己アピールのできる人 元気のある人		

図1

エントリーカード	
ハンドル名 (つくねみかん)	*本人とわかりそうな名は禁止 男の姓、女の姓、おぼろの王様、 ツッパリの奇縁、ラブオールなど
第1希望	松 竹 梅 海 山 川 湖
第2希望	松 竹 梅 海 山 川 湖
第3希望	松 竹 梅 海 山 川 湖
希望の理由	
人々の生活をより良いものにさせるプラン、というビジネスプランテーマは、一番関わりたいと思っていたプランだったので、そのテーマを選んでいるリーダーの方と行きたいと思っています。 思いついた意見は、積極的に言っていきたいと思っています。 何より、チームの人たちと仲良く、楽しくやりながら、全国を目指していきたいです。 リーダーの人のサポートなども、しっかり努めていけるように頑張ります！ 協調性を持ち、みんなの意見を聞きながら、明るく、楽しく、やっていきたいと思っています。 少しでも、チームに貢献できるように頑張るので、よろしくお願ひします！	

図2

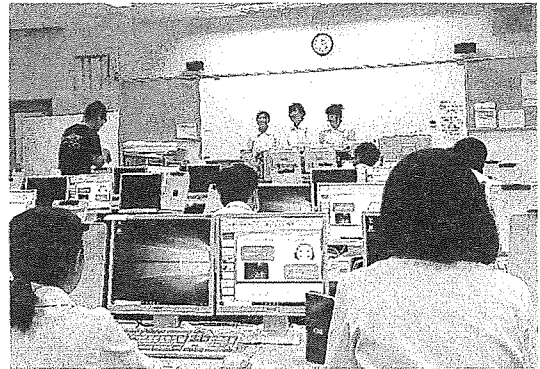
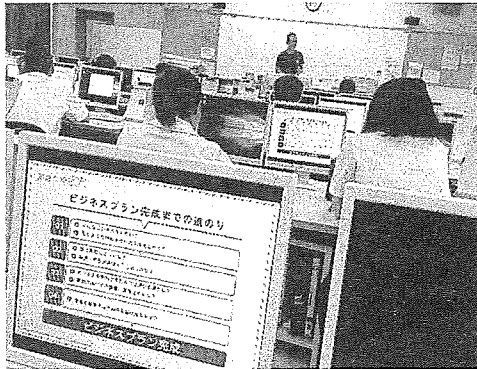
(1) 関西大学主催「関西大学ビジネスプラン・コンペティション KUBIC」

著名な大手企業が実際に直面している課題の解決策や新しいアイデアを求めるいくつかのテーマの中から、自分の好きなテーマを選んで応募する。コンペティション後、学生のプランが実際に企業の事業として採用される場合もあり、プラン実現の可能性を持っている。

(2) 日本政策金融公庫主催「高校生ビジネスプラン・グランプリ」

今後の活力ある日本創り・地域活性化を目指すため、若者の創業マインド向上を目的としたビジネスプラン・グランプリ。若者ならではの自由な発想や創造力を活かし「人々の生活や世の中の仕組みをより良いものに変えるビジネスプラン」、[地域の課題や環境問題などの社会的な課題を解決するビジネスプラン]のどちらかにグループで応募する。

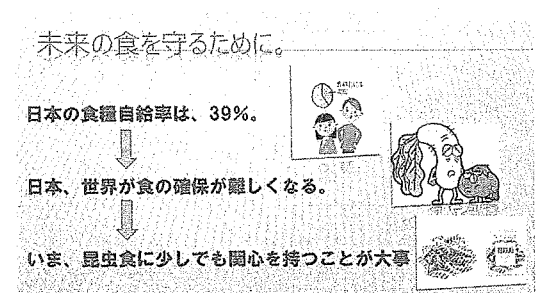
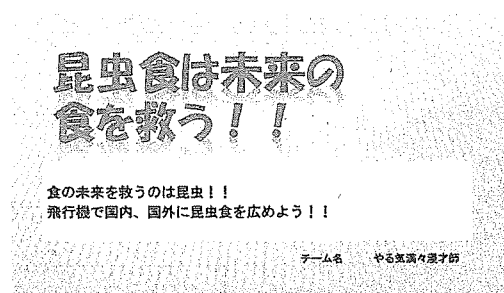
1学期の後半に日本政策金融公庫から金融のプロに来て頂き「ビジネスアイデアの発想」「ビジネスプランの考え方」「収支計画」「上手なプレゼンテーションの作り方」「プレゼン発表と講評」などの出前授業を実施した。



(3) 株式会社マイナビ主催「キャリア甲子園」

高校生がチームを組んで企業や団体からの課題に挑戦するコンテスト。答えのない課題に対して仲間と協力して調査し、議論し、仮説を立て、試行錯誤の末に自分たちのプランを固めていく。決勝戦の様子はインターネットで生中継される。

本年度、コンテストの企業テーマの中にJAL（日本航空）から「SDGs 17の目標を元に、JALの強みを活かした革新的な取組みを立案せよ」というお題があり、SDGsについて「SDGsチャンネル：SDGsジャーナル」配信している『SDGsとは？【アニメでわかるSDGs】』および『SDGs目標13気候変動ってなに？【アニメでわかるSDGs】』の動画を見せながら説明を行った。その結果、7チーム中3チームがテーマにかかわらずSDGsの視点を自分たちのプランに取り入れていた。



<p>Freely! ～メイクに性別はない～</p> <p>SHISEIDO</p> <p>チーム <u>nolimit</u></p>	<p>SDGs5 “ジェンダー平等を実現しよう”</p> <p>化粧品は女性がしなければ ならないものなのか？ 男性はしないのが当然なのか？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ジェンダーへの理解が足りない</p>
<p>Make My Make :)</p> <p>Make My Make</p> <p>～資生堂MMMサービスの提供～</p> <p>チーム あったらしいなこんなもの</p>	<p>テーマ分析</p> <p>日本を代表する化粧品メーカーである資生堂 ↓ +私たちのプラン 新たな商品・サービスを製造、提供 ↓ 社会課題への取り組み、企業ブランドの向上 ジェンダー平等 ↓ カスタマーへの最高の製品、サービスを提供</p>

(4) 三十三総研主催「33FG ビジネスプランコンテスト（学生コース）」

新規性・独創性に富み、今後大きな飛躍が見込まれるビジネスプランを掘り起こし、優れたビジネスプランを表彰するとともに、三十三フィナンシャルグループが事業化に向けたサポートを実施することで、地域経済の活性化に繋げるということを目的としたコンテスト。

このコンテストには本年度初応募し、1チームが1次審査を通過して2次審査に進出した。その結果、「優秀賞」を受賞することができた。

(エ) まとめと今後の課題

本年度、SDGsの視点をビジネスプランに取り入れることになったきっかけは、「キャリア甲子園」の企業テーマの中で取りあげられていたためである。今後も本年度と同様のコンテストに参加していく予定であるが、本年度のようにコンテストのテーマでSDGsが取りあげられる保証はない。しかし、本年度の取り組みから、テーマに限らずSDGsの視点を取り入れることは、これから社会に出て行く生徒たちにとって大変意義のあることだと確信した。本年度は、最後のコンテストでしか扱うことが出来なかったが、今後は1年を通してSDGsの視点を取り入れたビジネスプランを考えていけるようにしていきたいと考えている。

(3) SDGs 語学力向上プログラム

① 科目「グローバル・コミュニケーション」について

(a) 学校設定科目「グローバル・コミュニケーション」開設理由

今年度から文部科学省事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の指定校となり、持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダーを育成することを目指し、語学力の育成にさらに力を入れていく必要がある。

そのために、商業科及び情報処理科には「グローバル・コミュニケーション A」を、国際科には「グローバル・コミュニケーション B」を開設し、これまでの「英語表現」の書くことと話すことを主眼に置いた授業内容をさらに深化させ、SDGs について学び、その観点から英語でまとまった文章を書いたりディスカッションしたりする能力を身に着ける。

(b) 学校設定科目「グローバル・コミュニケーション」の目標

(ア) 「グローバル・コミュニケーション A」

(商業科・情報処理科 1 年次 2 単位)

商業科・情報処理科の 1 年生を対象に、日常の様々な場面・話題に加え SDGs（持続可能な開発目標）の観点に基づき自らが考えた意見等について英語で書いたり話したりする際の基本的な表現を修得し、それをコミュニケーションに活用する基礎的能力を養う。また、様々な場面・話題に触れることによって、文化の違いについても理解を深めようとする態度を育てる。

(情報処理科 2 年次選択 3 単位)

情報処理科の 2 年生の選択者を対象に、1 年次のグローバル・コミュニケーション A で身に着けたスキルをさらに発展させ、日常の様々な場面・話題に加え、社会的な事象についても SDGs（持続可能な開発目標）の観点に基づき自らが考えた意見等について英語で書いたり話したりする際の表現を修得し、それをコミュニケーションに活用する能力を養う。また、様々な場面や多岐にわたる話題に触れることによって、文化の違いについても理解を深めようとする態度を育てる。

(イ) 「グローバル・コミュニケーション B」

(国際科 1 年次 3 単位)

国際科 1 年生を対象に、英語での基礎的発信力（話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くこと）を身に着ける。テーマについては、日常の様々な場面・話題に加え、SDGs（持続可能な開発目標）の理論や考え方を扱う。扱うテーマについて、SDGs の観点を踏まえ自らが考えた意見等について英語で書いたり話したりする際の表現を修得し、それをコミュニケーションに活用する能力を養う。また、様々な場面や話題に触れることによって、文化の違いについても理解を深めようとする態度を育てる。

(国際科 2 年次 2 単位)

国際科 2 年生を対象に、1 年次のグローバル・コミュニケーション B で身に着けたスキルをさらに発展させ、英語での標準的発信力（話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くこと）を身に着ける。テーマについては、日常の様々な場面・話題に加え、SDGs（持続可能な開発目標）の理論や考え方を扱う。扱うテーマについて、SDGs の観点を踏まえ自らが考えた意見等について英語で書いたり話したりする際の表現を修得し、それをコミュニケーションに活用する能力を養う。また、様々な場面や多岐にわたる話題に触れることによって、文化の違いについても理解を深めようとする態度を育てる。

(国際科 3 年次 2 単位)

国際科 3 年生を対象に、1・2 年次のグローバル・コミュニケーション B で身に着けたスキルをさらに発展させ、英語での発展的発信力（話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くこと）を身に着け、場面に適した表現を使用できるようになることを目標としている。テーマについては、日常の様々な場面・話題に加え、SDGs（持続可能な開発目標）の理論や考え方を扱う。扱うテーマについて、SDGs の観点を踏まえ自らが考えた意見等について英語で書いたり話したりする際の表現を修得し、それをコミュニケーションに活用する能力を養う。また、様々な場面や多岐にわたる時事的話題や社会問題に触れることによって、文化や考え方の違いについても理解を深めようとする態度を育てる。

令和2年度入学生教育課程表

学校名 宇治山田商業高等学校(全)

教科	科目	標準 単位数	商業科			情報処理科			国際科		
			1	2	3	1	2	3	1	2	3
国語	国語総合	4	3			3			3		
	国語表現	3			○2			○2		△2	
	現代文	4		3	3		3	3		3	3
	古典	2			○2			○2		△2	
地理歴史	世界史	4		3			3			3	
	日本史	2									◎2
	日本史	4			◎3			◎3			
	地理	2									◎2
公民	地理	4			◎3			◎3			
	現代社会	2	2		○2	2		○2	2		○2
数学	数学Ⅰ	3	3			3			3		
	数学Ⅱ	4					※3				
	数学A	2		2			2			2	
	実用数学(学)				○2			*2			○2
理科	科学と人間生活	2			2			2			2
	生物基礎	2	2			2			2		
	生化学入門(学)				○2			○2			○2
保健体育	体育	7~8	2	2	3	2	2	3	2	2	3
	保健	2	1	1		1	1		1	1	
芸術	音楽Ⅰ	2	▼2					▼2			▼2
	美術Ⅰ	2	▼2					▼2			▼2
	書道Ⅰ	2	▼2					▼2			▼2
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	2	2		2	2		3		
	コミュニケーション英語Ⅱ	4								3	
	コミュニケーション英語Ⅲ	4									3
	グローバル・コミュニケーションA(学)		2			2	※3				
	実践英語(学)			3	3			2	3		
	英語発展演習(学)				○2			*2			
家庭	家庭基礎	2					2			2	
	家庭総合	4		2	2						
共通	科目	計	19	18	16~18	17	17~23	20	16	18	17
商業	ビジネス基礎	2~4	2			2			2		
	課題研究	2~6			3			3			3
	総合実践	2~5			3						
	ビジネス実務	2~6	3						3	☆3	★3
	マーケティング	2~5		マ3							
	観光ビジネス(学)										英ビ2
	ビジネス経済応用	2~4		マ3							英エ2
	経済活動と法	2~4			マ2						
	簿記	2~8	5	マ2		5			5		
	財務会計Ⅰ	2~6		経4			※情エ6			英ビ6	
	財務会計Ⅱ	2~5			経2						
	原価計算	2~6		経4				IT2			
	情報処理	2~6		3		2					2
ビジネス情報	2~5			3			3				
プログラミング	2~5									4	
ビジネス情報管理	2~4						※IT3	情エ2			
情報概論(学)					3	☆情エ3					
商業専門科目の単位数の計			10	11	11	12	6~12	9	10	0~9	7~10
家庭	フードデザイン	2~6			○2						
家庭	専門科目の単位数の計				0~2						
英語	グローバル・コミュニケーションB(学)								3	2	2
	コンピュータ・LL演習(学)									☆3	★3
	英米語演習(学)									英エ3	
	英語実践演習(学)									英エ3	
英語	専門科目の単位数の計								3	2~11	2~5
特別活動	ホームルーム活動		35	35	35	35	35	35	35	35	35
総合的な探求の時間	3~6										
週当たり授業時数			30	30	30	30	30	30	30	30	30
備考											

科目名の「(学)」は学校設定科目を表す。

商業科：経は経理コース、マはマーケティングコース。

情報処理科：情エは情報エキスパートコース、ITは情報ITコース。

国際科：英エは英語エキスパートコース、英ビは英語ビジネスコース。

商業科、情報処理科、国際科の「総合的な探求の時間」3単位は「課題研究」で代替。

商業科、情報処理科、国際科の普通教科「社会と情報」は「情報処理」で代替。

国際科2年次「コンピュータ・LL演習」選択者は、3年次「ビジネス実務」を選択。

国際科2年次「ビジネス実務」選択者は、3年次「コンピュータ・LL演習」を選択。

○◎△▲▼□☆★※*#…それぞれ選択

(4) 伊勢志摩PRプログラム

① インバウンド用ビデオ製作を通じた地域貢献活動

(a) はじめに

本校は伊勢神宮のお膝元にある商業高校であり、商業科3クラス、情報処理科1クラス、国際科1クラスの計5クラス600人規模の独立商業高校である。

情報処理科は経済産業省の情報処理国家試験取得を目的にしており、全国でもトップクラスの合格実績を持っている。

しかし、情報処理の知識は十分に習得するものの、その知識を活用する取組は少なく、課題の一つとなっていた。そこで、2年前より2年次のコース選択を行う際に、経理コースと、情報ITコースの選択において、情報処理を専門に学ぶ情報ITコース選択者に、情報の活用能力を育成とする「ビジネス情報管理」を3単位設置した。

(b) 授業の目的

情報活用能力として、企画力、想像力、具現力、情報収集能力、情報分析能力、コミュニケーション能力を上げ、これらの情報活用能力を育成するとともに、地域研究を通して地域の良さを再認識して地元愛を育む授業を目的とした。

また、昨年度伊勢市観光誘客課から、プロの映像クリエイターに指導を受けて、高校生の視点からインバウンド用ビデオを製作する企画提案を受け、夏季休暇中に動画製作の講習を受け、製作した動画は一般公開された。そこで、本年度においても動画製作の過程を通して、情報活用能力の習得を目指すとともに、地域の活性化やインバウンドによる海外の観光客増加に貢献したいと考えた。

(c) 取組内容

本年度、地域の観光資源を掘り起こし、その企画内容で競う観光甲子園が、「観光甲子園 NEXT TOURISM CONTEST」とリニューアルし、地域の観光資源を掘り起こして海外に向けて情報発信する、インバウンド用ビデオを使ったコンテストに様変わりしたことから、応募して入賞を目指すこととした。講座選択者7名を2班に分け、地域研究の結果、下記の2テーマを決定し、観光甲子園への応募を行うこととなった。

コンテストは、6月末までに企画書を提出し、7月20日に50校が予選を通過して、動画製作へ進む。11月末までに3分間の動画を製作して提出し、その中から10校が決勝大会として、神戸でプレゼンテーションを行って順位が決定するというものである。

(f) 金剛證寺

本校では体育祭の締めくくりとして、全校生徒で「伊勢音頭」を踊るのが毎年恒例となっている。その「伊勢音頭」の一節に「伊勢を参らば朝熊にかけよ、朝熊かけねば片参り」とある。これは、伊勢神宮へお参りをするのであれば、神宮の鬼門を守っている「金剛證寺」までお参りして初めて「伊勢

参り」が完結するという意味である。戦前はケーブルカーが山頂まで引かれており、参拝客でにぎわったようであるが、現在では訪れる人はまばらであり、古き良き時代の「伊勢参り」を紹介することで、海外の観光客にも日本の文化に触れてもらいたいと、テーマとすることとした。

図書館やインターネットを活用し、「金剛證寺」についての情報を収集し、その歴史や特徴など、下調べをしたうえで実際に取材としてメンバー7名とともに金剛證寺を訪問し、構想を練るための現地取材を行った。

多くの写真や収集した記事をもとに、メンバー全員で協議して、どの場所をどのように伝えれば、伝えたいことを素直に伝えることができるか、また興味を持ってもらうことができるかを考え、3分間のストーリーを作り、ストーリーに合わせた映像イメージを絵コンテに起こし、観光甲子園に応募した。

第1次審査の結果、全国50校の中に選ばれ、3分間の動画製作へ進めることとなった。

2学期になり、絵コンテをもとに、再度「金剛證寺」へ正式な取材を申し込み、執事長に対して、寺の歴史や役割など、インタビューによる取材を行った。

絵コンテに合わせて撮影してきた動画を、3分間の動画に編集する必要があるが、その過程においては様々な作業が必要となる。

まず、インバウンド用の動画であるため、インタビュー音声はそのまま流すが、テロップで英語の字幕を付ける必要がある。インタビュー音声を文字に起こし、プロの翻訳家の方に翻訳を依頼して、英訳していただかなければならない。また、ナレーション原稿の作成、ナレーションの吹込み、BGMとして場面を想定した音源が必要となるが、一般公開のため、著作権フリーの音源でなければならず、場面にふさわしい音源探しを行わなければならない。編集作業とは別に、2次審査への応募書類も作成しなければならない。これらの作業を7名全員で手分けを行い、進行状況を毎時間確認しながら、作業ごとでより良いものを作るための協議を行い、編集作業を行っていった。完

PR動画コンテ追加シート ※必要に応じてコピーしてください。

No.	絵コンテイメージ	説明	内容	時間
1		金剛證寺の山門	金剛證寺の山門の歴史や特徴について説明する。	0:00 - 0:15
2		金剛證寺の歴史	金剛證寺の歴史や役割について説明する。	0:15 - 0:30
3		金剛證寺の風景	金剛證寺の美しい風景や自然環境について説明する。	0:30 - 0:45
4		金剛證寺の本堂	金剛證寺の本堂の歴史や特徴について説明する。	0:45 - 1:00
5		金剛證寺の山頂	金剛證寺の山頂の歴史や特徴について説明する。	1:00 - 1:15
6		金剛證寺の境内	金剛證寺の境内の歴史や特徴について説明する。	1:15 - 1:30
7		金剛證寺の参道	金剛證寺の参道の歴史や特徴について説明する。	1:30 - 1:45
8		金剛證寺の境内	金剛證寺の境内の歴史や特徴について説明する。	1:45 - 2:00
9		金剛證寺の境内	金剛證寺の境内の歴史や特徴について説明する。	2:00 - 2:15

観光甲子園応募書類「絵コンテ」



金剛證寺執事長へのインタビュー

成した動画は全員の満足いくものとなり、自信をもって2次審査へ応募した。

12月20日に審査結果が発表となったが、残念ながら決勝大会への進出はできなかった。しかし、1次審査を通過した50校はYouTubeで一般公開されており、伊勢市のインバウンド用ビデオとして公開され、海外の観光客へのメッセージを送ることはできたと考えている。



ユーチューブ「心のふるさと伊勢」

(イ) 南伊勢町

南伊勢町は、伊勢市から車で40～50分の位置にあり、まだ観光開発されておらず、自然が豊かで海の幸が豊富な地域である。以前は道路整備が十分でなかったが、現在では整備が進み、伊勢自動車道からのアクセスも良いことから、釣り客には人気の地域である。また、養殖業が盛んであり、鯛やアジの養殖を行うとともに、マグロの養殖を手掛け、「伊勢マグロ」としてブランド化も進められている。

講座選択者の中に南伊勢町出身の生徒が2名いたことから、ぜひ伊勢の観光資源として、伊勢を観光で訪れた外国人観光客に、少し足を延ばして南伊勢町を訪れ、自然と歴史、豊富な海の幸による日本食を楽しんでほしいと、テーマとして設定した。

「金剛證寺」と同様に、取材に訪れたが、授業時間だけで取材ができないことが予想され、祝日返上で1日かけて取材活動を行った。



船に乗って養殖筏を取材

現地取材により地元の方々から様々な情報を得ることができた。南伊勢町は、世界的なヨットレースのスタート地点であったり、トライアスロンの大会や自転車ロードレースの大会も行われたりしている。また、江戸幕府の剣術指南役であった柳生新陰流の発祥の地であることも、取材活動を通して発見できたことである。

1次審査に応募するため、ストーリーを考え、絵コンテを作成し、応募書類を整えて応募を行ったが、残念ながら1次審査の通過には至らなかった。敗因

として考えられるものは、あまりにも沢山の観光資源として発見した内容をあれもこれもと欲張って、3分間の動画に盛り込んだことにあるように感じている。

しかし、取材を通して、南伊勢の良さを地元生徒は再認識し、地元外の生徒は新たな発見をすることができた。また保護者の協力も得られ、普段なかなか経験できない養殖筏を見学できたり、東北大震災の際の津波の被害があったこと、自然の恵みと自然の恐ろしさを学んだりすることができ、コンテストでの結果は残念であったが、取組の意義は大きかったと感じている。

(d) 成果発表

学習の成果は、1月末に伊勢市長をお招きして、本校で報告会を実施する。また、完成したインバウンド用動画はYouTubeで公開されている。

(<https://www.youtube.com/watch?v=C-g379XsIa>)

(e) まとめと今後の課題

動画製作における過程は、情報処理におけるシステム開発と似通ったところがある。したがって、情報処理の知識は動画製作に生かすことができたし、情報活用能力を育成することができたと考えている。

また、製作した動画は、入賞は逃したものの、生徒たちは大変満足しており、一般公開することで、伊勢市の良さを海外の方々にも伝えることができたと自負している。

本年度においてエコツーリズムやSDGsを意識はしていたものの、動画編集の場面においては、映像で上手く伝えることができず、十分に情報発信することができなかった。来年度以降、エコツーリズムやSDGsの考え方を新しい観光資源の発掘に取り入れ、持続可能社会を実現する観光産業として、世界に情報発信していきたいと考えている。

② 地域課題の解決を目指す探求型アクティブラーニング授業の実践

～オープンデータを活用して地域の課題解決を目指す取組～

(a) はじめに

本校情報処理科は経済産業省情報処理国家試験において、合格実績は全国でもトップクラスの実績を持っているが、学生は国家試験の可否にかかわらず、産業界が求める情報処理の知識を習得している。しかし、知識は習得しているものの、実践の機会がなく、仮想的なシステム構築の学習にとどまっていた。また、情報処理科の学科目標として、「情報処理の知識を基にビジネス社会で活躍する人材育成」を掲げているが、その目標を十分に達成する授業展開が出来ていないという問題意識を持っていた。そこで、習得した情報処理の知識を生かし、地域に貢献する取組への模索が始まった。ちょうど総務省が、各自治体が保有するデータを公開するオープンデータの取組を開始したこともあり、オープンデータを活用した取組を行うこととなった。

(b) 目標と対象生徒

本校生徒の地元愛は強く、地元への就職を希望する生徒は多い。一方で地元に対するイメージはステレオタイプで、伊勢といえば「伊勢神宮」「赤福」「伊勢うどん」となり、地域の歴史や文化に関する知識は少なく、伊勢の良さを理解しているとは言えない状況である。

そこで、地域研究により地域の歴史文化を理解するとともに、地域の強みと弱みを把握して、地元愛を育てるとともに、地域の社会問題を発見して、その解決の糸口を模索し、仮説を立てて解決のためのコンテンツを作成することを目標とした。また、高校生の方では解決できない問題に対しては、地元自治体である伊勢市に改善案を提案し、市政への反映を目指すこととした。

対象となった生徒は、商業科目「ビジネス情報管理」3年生2単位の選択生徒（例年25名程度の人数で開講）である。

(c) 1学期の指導——地域研究

(ア) 地域研究

ブレインストーミングを4～5名で実施し、テーマ「伊勢」に関してイメージするもの、自分の地元として自慢できること、地域の祭りや伝統芸能、特色ある産業など、生徒たちが知っていることを自由に話し合い、最後にはグループ単位で、全体に報告して情報共有を図った。また、生徒たちは日常として当たり前前に受け止めていることで、他の地域から見ると特殊な文化であったりするものも存在する。教員がアドバイスできる範囲であるが、「伊勢」らしい文化や歴史を教示した。

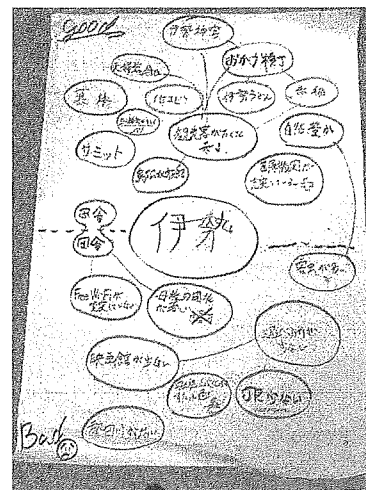
(イ) イメージマッピング

ブレインストーミングで出た意見をもとに、初めて知ったことや再認識したことなどを基に、それぞれがイメージする「伊勢」に関して、地域の強みや弱みを明確にするため、イメージしたものをマッピングする形で図式化した。

良いところは上半分に、悪いところは下半分に、上に行くほど良いところ、下に行くほど悪いところと、自分の伊勢に対するイメージを簡潔な文言で自由に書き出した。

その後グループに分かれ、なぜそう考えるのか？そこにはどんな問題が存在するのか？などを発表、話し合い、まとめとしてグループ単位で「伊勢」のイメージのマッピングを作成した。

そして、KJ法を利用して各文言を分類分けし、カテゴリにネーミングして、班としての社会問題の洗い出しを行った。



イメージのマッピング

(ウ) 班分けと仮説の立案

伊勢市が抱える社会問題のカテゴリ分けができたところで、それぞれが興味関心を持ったテーマに集まり、3~5名で班編成を行い、班長を決定し、解決へ向けた仮説の立案を行った。

仮説を立てるにあたっては、伊勢市が公開しているオープンデータ等を利用して、統計データや調査結果を分析し、問題点とその原因を明らかにするとともに、その問題点の解決策を検討した。

(d) コンテンツの作成・成果発表会

(ア) コンテンツの作成

授業開始時5分間は、班長を中心にミーティングを行い、その時間に誰が何を行うのか、どこまでできる予定かなどを話し合う時間を設け、それぞれの作業に入る。その日の作業内容は、作業日誌として具体的な作業内容を記述するとともに、どこまでできて、次時にはどこから始めるのかを記載する。また、作業中に完成した成果物については、ポートフォリオとして作業日誌にファイリングさせた。

(イ) 学習成果発表会プレゼン作成

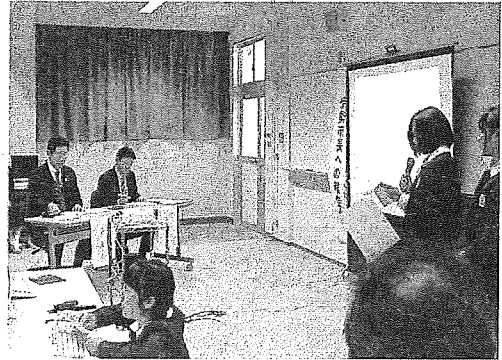
伊勢市長へのプレゼンテーションでは、考えた地域の課題、取組を行うきっかけ、取組んだ成果、コンテンツの紹介、想定される効果、伊勢市への提案など、プレゼン資料を作成し、リハーサルを行い、自らの言葉で市長に訴えかけられる発表とした。

作業日誌	
9月 27日 4 時間	課題番号 資料NO
1. 本時の活動概要 : 取組を行った活動(例)ディスカッション・プレゼン資料作成など	
路線バスの情報収集	
2. 具体的な取り組み(例)ディスカッションで出た意見のメモ、プレゼン資料のページタイトル等	
①: 伊勢市駅から桑田原駅までの路線バス情報、経由バス停を調べた。 ②: ①の他にも、津山田原からアライアのCANETの情報を、伊勢の伊から有滝行をすべての路線バスの情報について調べた。	
3. グループでの役割・貢献したこと	
まとめ方を工夫した。	
貢献度:	大賞貢献 優る貢献 貢献なし
4. 活動を通して学んだこと、感じたこと、達成したこと	
①: 路線図から終点のバス停と始点のバス停を調べて、経由するバス停を全て把握しておくべきだと思った。(例)伊勢駅から有滝行まで ②: 通るバスが少ない路線は、経由バス停と所要時刻の情報のみを調べた方がいいと思った。	
5. 次の時間の予定	始点と終点を同時に調べると路線図を中心に調べた。

作業日誌

(ウ) 学習成果発表会

市長の前で発表を行い、市長からそれぞれの取組に対して講評をいただいていた。また、各課の課長も出席しており、開発したアプリや提案のいくつかは正式採用に向けて検討いただくこととなった。



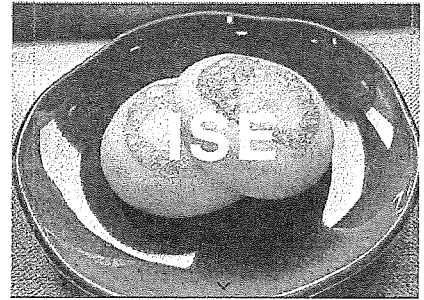
伊勢市長への成果報告

(e) 生徒の成果物

本年度7つのテーマに取組、完成した成果物を紹介する。

(ア) お土産～in ISE～(Webページの作成)

統計情報を分析すると、外国人は日本の食文化に興味を持っている様子が見受けられる。そこで、伊勢を代表するお土産を英語で紹介するとともに、その文化・歴史がどのように生まれたのかを解説している。



(イ) みんな知っている？お伊勢さん(インバウンド用Webページ)

伊勢神宮には、外国の方々も沢山お参りに訪れる。伊勢神宮は、日本人の心の故郷とであり、神聖な場所である。また、同時に海外の方々には、日本の心や風習、文化に触れることができる場所でもある。参拝のしきたりやその理由を英語で紹介し、海外の方々に正しい参拝方法を知ってもらうためのWebページを作成。

みんな知ってる？
お伊勢さん

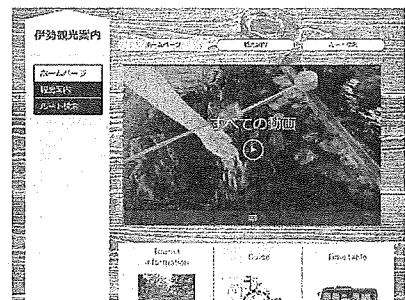
知れば知るほど夢中になる



(ウ) 伊勢バス停案内サイト(Webページの作成)

環境問題を考えた際に、自動車の排気ガス対策は必要であり、観光客にはできるだけ公共交通機関を利用してほしい。しかし、バス利用の際に、停留場名がわからず、どのバスに乗ればよいのか？発車時刻は？など戸惑っている様子を見かける。

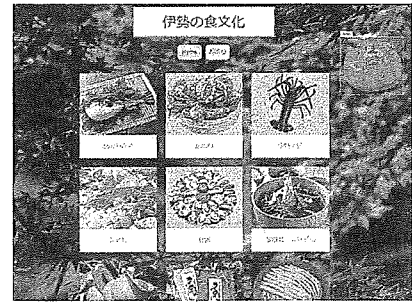
そこで、代表的な観光名所へのバスを利用した観光案内を作成。目的地をクリックすることで、時刻表が表示されるようになっている。



(エ) 伊勢の食文化を広める (Webページの作成)

その地でしか味わえない食は、大きな観光目的となっている。伊勢志摩は様々な地元特産品が存在している。

そこで、伊勢志摩を訪れる人たちに伊勢の食文化を紹介し、旅の目的にしてもらうため、このWebページは作られた。

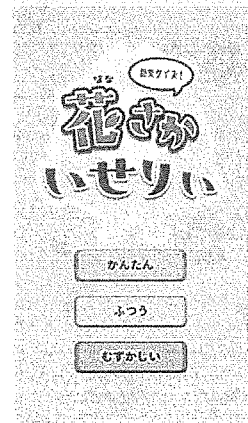


(オ) 防災クイズ「花さかいせりい」(専門学校の協力を得て完成)

東南海地震が想定されており、地震や津波に対する防災意識を持つ必要があるが、防災に対する認識は小さい。ゲーム感覚で楽しく防災に対する知識を、親子で身に付けてもらうためのアプリを開発。

作成したクイズは、伊勢市危機管理課防災アドバイザーの方に相談し、誤りや表現の仕方などを学んだ。

また、Googleシートを活用しており、問題の訂正や追加も簡単に行えるように工夫されている。



(カ) 伊勢神宮 (インバウンド)

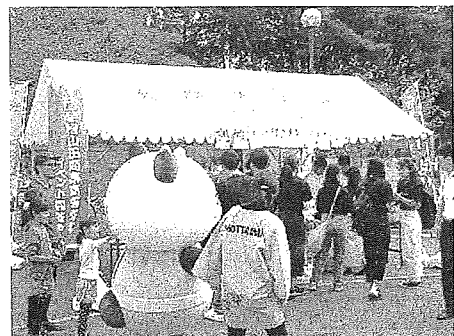
伊勢といえば「伊勢神宮」と誰もが知る観光名所となっているが、本来は日本人の心の故郷であり、神聖な場所である。そこで、伊勢神宮を海外からの観光客にどのような場所であるかを紹介するWebページを作成した。



(キ) 伊勢市のごみ問題

伊勢市のごみの量は、県内ワースト2位であり、ごみの減量が社会問題となっている。特に大学へ進学のため他地方からアパート生活をしながら通学する学生は、「資源ごみ」も「燃えるゴミ」として分別せず回収に出している。

そこで、地元大学の学生と、伊勢市清掃課、本校生徒の3社で連携し、学園際において、クイズ形式で楽しみながら、ごみの分別に意識を持ってもらうイベントの企画運営を行った。



(f) 終わりに

地域との連携に広がりを見せると同時に、マスコミ等の取材も受け、生徒たちは注目を集めたことで、外部から受ける評価に対して、生徒たちにとってもやりがいを感じ、人の役に立ちたいと高いモチベーションを持って、積極的に取り組む姿勢を作ることができた。

また、班ごとのチームワークであることから、自然とコミュニケーションの重要性や考える力、失敗を恐れず行動する力を身に付け、本人たちにもその自覚を持ち、自信を持った様子が見えてきた。

一方で、学校ではどうしても取組が授業中心となるということもあり、校外へ出かけてそれぞれの担当者の方々と直接お会いしてお話をする機会を持つことは難しく、無理を言って授業時間内に学校へお越しただいて生徒たちと協議していただくという方法をとってきた。

来年度以降は、単位数を連続時間にまとめて、まとめた時間を確保し、校外に出かけ、直接話を聞き、現場を見て解決策を探求する取組としていきたいと考えている。そうすることで、地域との連携も強くなり、より成果を上げることで、地域への貢献を行うことが出来るのではないかと考えている。

③ みえグローバル学生大使 “Yamasho ESS Club” の活動について

(a) 『みえグローバル学生大使』について

(ア) 概要

三重県内において、国際交流や国際貢献といった国際的な活動を継続的に行う高校生及び大学生等を、「みえグローバル学生大使」として知事が委嘱する。本校 ESS 部は“Yamasho ESS Club”として令和元年 9 月 6 日に委嘱された。

(イ) 大使の業務

大使は、自らの意思に基づき国際的な活動を行うほか、県と連携して次の業務に協力する。

- (1) 県が行うイベント、国際的な活動等への参加
- (2) 三重県の紹介や PR

(b) 今年度の取組内容について

(ア) SNS(Instagram)を利用した三重県の紹介

三重の食べ物や歴史、観光、イベント、方言等について、月に 3~4 回情報を英語で掲載している。外国人観光客や日本に在住する外国人に向けて、情報を発信し、より多くの人に三重県の魅力を知ってもらうことを目標としている。

例)

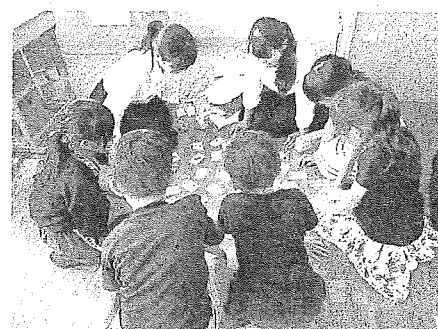


(イ) 小学校での外国語活動ボランティア

令和元年7月4日(木)の午後からESS部と国際科2年生の有志24名が伊勢市立浜郷小学4年生の外国語活動の授業に参加した。この活動はこれで4回目となる。

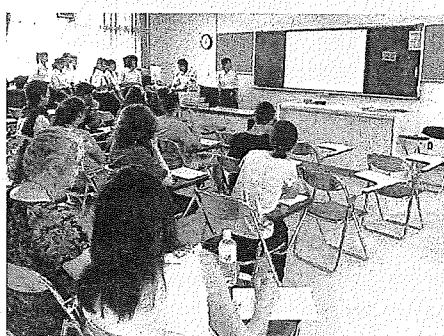
参加生徒は2クラスに分かれて、はじめに挨拶と自己紹介をし、その後カード等を用いて英語の学習を進めた。小学生は緊張することもなく、本校生徒から英語を教えてもらおうと、うれしそうに対話をしていた。

参加した本校生徒からは「自分の英語で子供達を楽しんでくれたのがとても嬉しかった」「小学生が理解しやすいように簡単に説明するのが難しかったけれど、自分なりに工夫して伝え、小学生が積極的に笑顔で活動してくれてよかった」「時間があっという間に過ぎてしまい、もっと小学生と活動を続けたかった」などの感想があった。



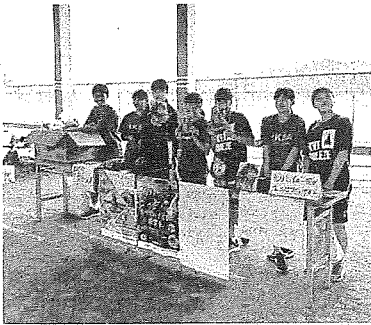
(ウ) オーストラリアモンバルクカレッジ(姉妹校)との交流活動

姉妹校提携を結んでいるモンバルクカレッジの生徒たちが9月に来校した期間中、主に放課後の時間を用いて交流を行った。茶華道部でモンバルクカレッジの生徒たちが体験する際に作法などを英語で説明し、日本文化体験をサポートした。また、ESS部においては、ウェルカムイベントを企画・実施し、滞在中に訪問する伊勢神宮や伊勢の食べ物についてクイズ形式で紹介した。



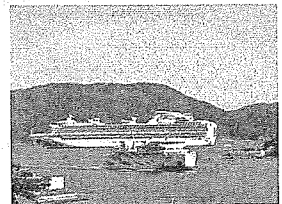
(エ) 海外向けの Fund-Raising (募金活動)

文化祭に合わせて、Bake Sale (学校などの団体が資金集めのためにお菓子等を販売するバザー) を行い、利益分(6,167 円)を全額ユニセフへ募金した。販売するお菓子は駄菓子とし、ユニセフ手帳も併せて配布した。予想より多くの生徒たちに参加してもらい、また募金のみしてくれる生徒もいた。SDGs の理解を広める機会ともなった。

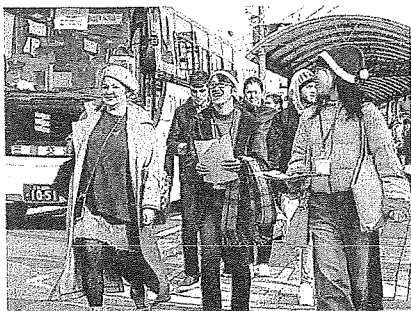


(オ) 鳥羽港クルーズ船寄港時の通訳ボランティアについて

鳥羽港に外国クルーズ船が寄港した際、外国人乗船客に観光を楽しんでもらえるよう、鳥羽港や鳥羽市内で英語で観光案内を行った。大使たちは準備活動として、11月に鳥羽へ出向き、実際に案内する場所を確認し、案内時に必要となる情報の共有や英語表現の学習を行った。



令和元年12月24日(火)に大使となっている生徒達に加え、本校国際科、商業科の有志を含め、合計20名が観光案内を行った。2~3人1組となり、案内を希望する乗船客を鳥羽マリンターミナルから鳥羽水族館やミキモト真珠島、城山公園など鳥羽市内の様々な希望の場所へと案内した。道中、お互いの自己紹介をしながら、この地域の名所や名産品など様々なことについて会話をしながら目的地へと向かった。「なかなか思ったように英語が出てこずにもどかしく思う場面もあったが、観光客の方々が喜んでくれてとても嬉しかった。」「もっと英語力を磨き、また通訳ボランティアをしたい。」などの感想が多く聞かれた。



(カ) 清華大学（中国）サッカー部の学生たちとの交流イベント

2020年1月15日に中国清華大学（Tsinghua University）サッカー部の学生17名が来県し、伊勢神宮付近を観光する際、大使14名が案内を英語で行った。神宮参拝では、手水舎で手を清める時の流れや拝殿での作法について説明し、楽しみながらガイドをした。英語を母国語としない方々と英語でコミュニケーションを図る経験は初めてであったが、とても良い雰囲気の中交流することができた。今後、より伊勢神宮を海外の方たちに楽しんでもらえるように、知識と英語力の両方をもっと身につけたいという感想が多く聞かれた。



(c) 来年度の活動について

- (ア) 今年度の活動を引き続き行うことに加え、大使以外の生徒たちの交流行事への参加を促す（小学校での外国語活動ボランティア、通訳ボランティア等）。
- (イ) 海外の高校生とのインターネットを通じた交流を新たに始め、自文化・異文化理解を深める（現在、姉妹校モンバルクカレッジの生徒との交流、アメリカの日本語を学ぶ高校生との交流を検討中）。
- (ウ) ベイクセールを含めた募金活動の機会を増やし、国際問題への関心を高め、国際貢献に努める。

(5) 国際交流プログラム

① モンバルク研修 (9月)

(a) 経緯

本校は、県教育委員会により平成5年度の国際姉妹校提携事業の高等学校として選ばれた。平成6年3月にオーストラリアの高等学校モンバルク・セカンダリー・カレッジと姉妹校提携を結び、提携事業を続けている。

この事業は生徒及び教員の派遣を受け入れ、ホームステイ・授業・特別活動等を通じて交流活動を継続的に行い、相互の国の文化と社会について理解を深めるとともに、生徒の英語による理解力・表現力を向上させ、国際化時代に対応できる高等学校教育の充実を図ることを目的としている。

(b) 受入期間

令和元年9月24日～令和元年10月3日(10日間)

(c) 受入人数

10名

(d) ホストファミリーの声

- ・小さい頃から国境を越えて人と交流したかったので、この受入を通してやりたかったことが叶ってとても嬉しかった。
- ・受入1日目は緊張であまり話すことができなかったが、3日目ぐらいには打ち解けて家族でカードゲームをしたり、いろいろな話をするのができ盛り上がった。
- ・最初は自分の英語が合っているのかわからず、アプリで調べたり、すごく考えながら話した。自分の英語が伝わった時はとても嬉しかった。
- ・留学生の受入は自分が留学したときよりも英語力が必要だった。なぜなら、家のルールを説明したり、スケジュールを教えたり、クラスの子が話しかけて通じなかったことをもう1度言ったりする必要があったからだ。留学したときは聞く力が必要だと感じたが、受入の時は話す力がとても必要だと感じた。
- ・浴衣を着たり、奈良を観光したり、日本の文化に改めて触れることができた。
- ・体育祭やスペイン村に行ったこと、日曜日の自由行動がとても楽しかった。授業に留学生が入ることによって、英語を勉強するモチベーションがよりいっそう上がった。
- ・外国人の友達ができるのが嬉しかった。山商を卒業しても会えるような関係でありたいと思う。

(e) 令和元年度オーストラリア研修

令和2年3月12日(木)～27日(金)まで山商生8名がオーストラリア研修に参加する。



② 宇治山田商業高等学校海外研修（スウェーデン）視察報告

(a) 目的

伊勢志摩地域は、古くから「日本人の心のふるさと」として親しまれてきた伊勢神宮や広大な伊勢志摩国立公園を擁しており、歴史と豊かな自然に恵まれている地域である。一方、人口減少、少子高齢化の進展、まちの活力低下等、様々な地域課題も生じている。

このような地域にある高等学校として、これからの伊勢志摩地域を支える地域社会のリーダーや、海外からの訪問者の多い地域で活躍できる職業人の育成が重要な使命であると考えている。このことから、「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成することを目的とし、SDGs 達成度ランキング 1 位のスウェーデンにおいて、SDGs の理念に基づいた経営を実践している企業や官庁等を訪問し SDGs について深く学ぶため、また、現地の学校等を訪問し文化交流を図るために、令和 2 年度に三重県立宇治山田商業高等学校海外研修を実施する予定である。

この海外研修を円滑に遂行するために現地を視察し、次年度の研修内容等について企画立案するための資料及び情報収集を行う。

(b) 場所

スウェーデン王国（ストックホルム市）

(c) 期間

令和元年 10 月 13 日（日）～17 日（木）

(d) 調査事項（概要等）

(ア) スウェーデン在住の日本人の方との協議

日時：10 月 14 日（月）10 時 00 分～11 時 30 分

内容：海外交流アドバイザーの神田すみれさんの紹介で、スウェーデン在住（セデルラリエ）で、日本人学校補習校で教鞭をとっているウンガー・クミコさんと面会し、来年度の計画について意見等をいただいた。

意見等

- ・ 補習校の同僚に教育関係に詳しい知人がおり、その人を頼れば、Circular Economy を行っている高校（商業高校）訪問が可能となるかもしれない。
- ・ 環境関係にも知人がいるとのこと。
- ・ 旦那様が勤めている企業に訪問可能かどうか、また講義もやってもらえるかは話し合いの余地あり。
- ・ 日本大使館に相談するのも一案かもしれない。現在の大使は非常に前向きな方とのこと。
- ・ SDGs の目標は多岐にわたるので、スウェーデン研修で扱う SDGs の分野はもう少し絞った方が訪問先を決めやすくなるかもしれない。
- ・ 建物自体が Reuse されたもので、扱う商品も Recycle, Reuse されたものを

扱う Retuna というショッピング・センターが Eskilstuna (ストックホルムからはかなり離れている) にある。毎週月曜の 11 時から 12 時には、無料ツアーあり。料金が発生するが、CEO 等からのレクチャーもあり。

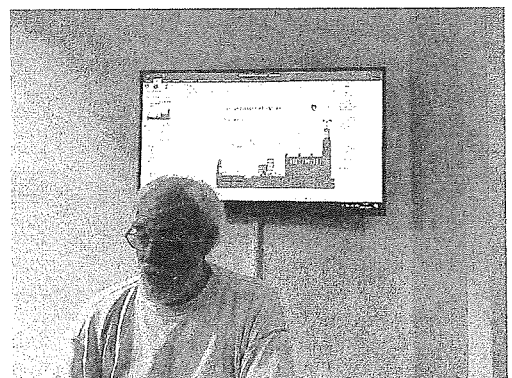
(イ) スtockホルム市環境管理局訪問

日時：10月14日(月)13時00分～15時00分

内容：ストックホルム市環境管理局で働いているウリアン・ロングレンさん(28年間中学校で数学と自然科学の教師をしていたという経歴を持つ)から市の環境保全に関する都市開発の取組についてプレゼンがあった。

プレゼンの主な内容

- ・ スウェーデンでは、年間2万人ずつ人口が増加しており、ストックホルム市はもうすぐ100万人都市にせまる。
- ・ Green Capital としての取り組みが評価され、ストックホルムは2010年にヨーロッパの環境都市に選ばれた。
- ・ 気候変動を阻止する目的で、二酸化炭素を排出しないための自動車の規制、自転車レーンの設置、100%ゴミの再利用等を行っている。
- ・ 住民一人あたりのゴミの排出量は600kg。そのうち300kgはリサイクル。残りの300kgは焼却した際の熱を地域暖房に利用すると同時に電力発電にも利用。
- ・ 家庭から流れ出る下水の温度を利用して、地域暖房(District Heating System)に利用したり、生ゴミからバイオ燃料を作っている。また、地域暖房のエリア外の場合は、地熱の利用も行っている。
- ・ スtockホルムでは、1950年代(当時人口60万人程度)に公共交通機関の整備を始め、すべての住民が家から400m以内に電車や地下鉄、バス停があるように都市開発を行っている。
- ・ 市内を走るバスは100%バイオ燃料で運行している。将来的には電気バスに移行予定。
- ・ スtockホルム市内に車で入る場合には、入場料が必要。この制度は2007年から開始。市内の交通量が20%減った。
- ・ 電気自動車購入には政府から70万円程度の補助金あり。
- ・ 住民の90パーセントの人が家から300m以内にグリーンエリア(王立公園や市内の公園等)がある。
- ・ 多くの人が行き交うストックホルム中央駅では、人々が熱を発生するのでその熱を利用してオフィスの暖房に利用している。
- ・ 2040年までにストックホルムは化石燃料使用をゼロにする(スウェーデン自体は2045年までに化石燃料ゼロへ)



- ・このような環境整備が整うのは、政治家の力が大きい。政党に関係なく環境問題に取り組むための方向性は全政治家が一致しているので、政党が変わっても環境問題への取組が後退することはない。

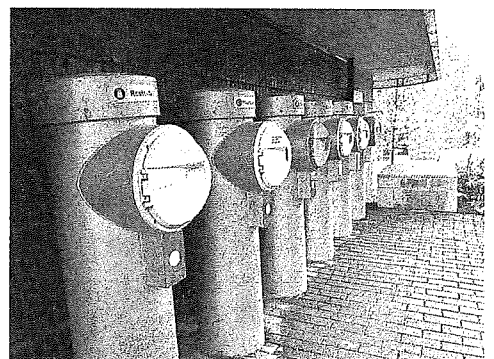
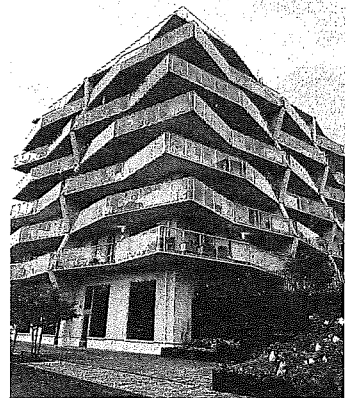
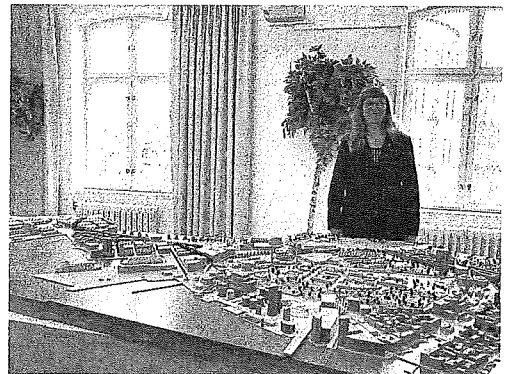
(ウ) ロイヤル・シーポート視察

日時：10月14日（月）15時30分～17時30分

内容：ロイヤル・シーポート都市開発の広報担当者からレクチャーを受けた後、実際に市内を見学した。

意見等

- ・ロイヤル・シーポートは、かつて多くの工場が乱立する工業地帯であったが、現在はエコシティーに向けたストックホルム最大の都市開発が進められている。
- ・1972年に石炭の使用を停止したが、このエリアは石炭からガスを作る工場があり、当時は廃棄物を埋め立てていた。
- ・2010年からこのプロジェクトが開始され、まずは土地の浄化から初め現在は6000人が住むようになった。
- ・2030年にこのプロジェクトは完成し、住居を15000戸整備し、35000人が住めるように都市開発を進めている。
- ・新しいモダンなコンドミニウムが多く建設されているが、工業地帯であったという歴史を残すため、ガス工場であった建物も残し再利用しながら都市開発を進めている。例えば、かつてガス工場であったレンガの建物を、ホテルにしたりコンサートホールに利用するなど。
- ・シーポート内に建設されるコンドミニウムの駐車場数は、住戸数の5割以下でないといけない。しかも全て地下に駐車場を建設。駐輪場は、住戸数の2.5倍以上を確保しなければならない。
- ・ロイヤル・シーポートでは、家庭から出るゴミ等は全て、コンドミニウムや町に設置されているシューターから地下を通過してゴミ集積場に集められ、全てリサイクルやバイオ燃料生成、電力発電等に利用される。



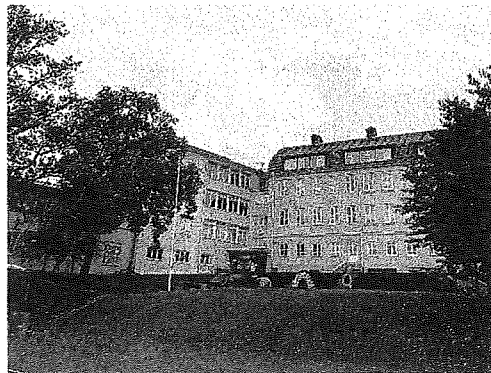
(エ) プリスクール訪問

日時：10月15日（火）9時00分～11時00分

内容：ナッカ市にある1歳児から5歳児までが通う Kristallens forskola というプリスクールを訪問した。園長に代わり、Mimmi Adofssonさんから園での取組についてプレゼンを聞いた。

プレゼンの内容等

- ・ イタリアの Loris Malaguzzi が提唱したレッギオ・エミリアの教育理念（子どもをより良い世界を築くための一人の人間として捉える考え方）を取り入れた教育をしている。
- ・ 学校のモットーは Openness and Diversity
- ・ 持続可能な開発に向けて、1歳時から5歳児までの子供たちが簡単に取り組めることはゴミの分別や水の使い方を学ぶことである。しかし、このプリスクールでは、「持続可能性」という眼鏡を通して物事を見て判断し、すべきことを見極められる子どもを育てることを目指している。



(e) 備忘録

1日目

- ・ ヘルシンキ空港はとても広いので、各セキュリティを通過ごとに人数確認を引率者が行う必要あり。
- ・ 引率者が一人の場合は、生徒に先に行かせて出たところで待たせる方がよい。一旦出てしまうと戻れないので。
- ・ ストックホルムのホテルはもっと格安のもので良い。B&Bでも良いかもしれない。今回の視察で利用したホテルは高級すぎる。
- ・ ホテルの予約に関しては、バウチャーや予約番号はもらっておいた方がよい。当日のトラブルは面倒。

2日目

- ・ ウンガー・クミコさんとの話し合いで、教育関係のお知り合いの方、企業にお勤めの旦那様等のコネクションを利用できれば、SQCを頼らずに訪問先を探すことが可能かもしれない。
- ・ 公共交通機関で移動したが、参加人数が少なれば住民の生活を間近に感じることができるので、専用車よりも良い経験になると思う。
- ・ ストックホルム市の取組とロイヤル・シーポートの都市開発の話聞いたが、二つとも話を聞くのは大変だと思う。
- ・ ロイヤル・シーポートは近代的であり環境にも優しい都市開発で、未来都市を現実にしたような取組でインパクトはかなり大きい。ぜひ生徒にはロイヤル・シーポートの取組を学ばせたい。しかし、生徒の学びを最大限にするために、実施前の事前指導は必要であろう。

3日目

- ・プリスクール訪問については、教育学を学ぶという意味では良いかもしれないが、この研修の学校訪問の目的は文化交流である点から考えると、プリスクールへの訪問は合わない。
- ・少なくとも小学校、できれば中学校や高等学校への訪問を実施する必要がある。

最終日

- ・旧市街と市庁舎を訪問した。ガイドからスウェーデンの歴史や現在の市政の取組等を聞くことで、SDGsの学習につながるような部分は非常にたくさんあった。例えば・・・
- ★ 市議会も国会議員も半数（以上）が女性である
- ★ 結婚していても専業主婦は皆無（男性の育児参加がごく当然のように行われている。会社の定時帰宅の徹底。）
- ★ 有給休暇は100パーセント使用（年4週間から6週間）
- ★ 累進課税であるが、一般的には所得税は3割～4割。消費税は25%。
- ★ 高校卒業まで授業料及び教科書は無料。大学も授業料は無料（教材費は必要）

日	発着地	時間	概要
10月13日(日)	中部国際空港発 ヘルシンキ空港着 ヘルシンキ空港発 ストックホルム空港着	10:30 14:30 16:00 16:00	空路、ヘルシンキへ出発 空路、ストックホルム出発 空港よりホテルへ (ストックホルム泊：ELITE PALACE)
14日(月)	ストックホルム	10:00 -11:30 13:00 -15:00 15:30 -17:30	スウェーデン在住の日本人の方との協議 ストックホルム市環境管理局 Royal Seaport 視察 (ストックホルム泊：ELITE PALACE)
15日(火)	ストックホルム	9:00 -11:00	Preschool SDGsに関連した施設見学 Drottningholm Palace (ストックホルム泊：ELITE PALACE)
16日(水)	ストックホルム空港発 ヘルシンキ空港着 ヘルシンキ空港発	9:00 -12:00 14:35 16:35 17:25	SDGsに関連した施設見学 The City Hall of Stockholm ホテルより空港へ 空路、ヘルシンキへ 空路、中部国際空港へ (機中泊)
17日(木)	中部国際空港着	8:45	到着

③ 宇治山田商業高等学校海外研修（マレーシア）視察報告

(a) 目的

伊勢志摩地域は、古くから「日本人の心のふるさと」として親しまれてきた伊勢神宮や広大な伊勢志摩国立公園を擁しており、歴史と豊かな自然に恵まれている地域である。一方、人口減少、少子高齢化の進展、まちの活力低下等、様々な地域課題も生じている。

このような地域にある高等学校として、本年度から研究開発しているプログラムでは、観光資源（自然・歴史・食等）が豊かな伊勢志摩地域を活性化するため、課題研究において観光都市を描くプログラム（エコツーリズムやグリーンツーリズムを含むインバウンド観光プログラム、国際交流プログラム）を実践することで、生徒の「企画力」「調整力」「実践力」「突破力」「創造力」を育成することを目的としている。

今回同環境下にあるマレーシアにて、観光資源の豊富さを利用したエコツアーに参加したり、観光業においてインターンシップまたはジョブシャドーイングを行なう効果を検証し、令和2年度によりよい三重県立宇治山田商業高等学校海外研修（マレーシア）を実施するために視察するものである。

(b) 場所

マレーシア（クアラルンプール、クアラセランゴール、プトラジャヤ）

(c) 期間

令和元年12月21日（土）～24日（水）

(d) 調査事項（概要等）

(ア) スカイミラー体験

日時：12月22日（日）7時00分～10時00分

内容：干潮に向けて潮がひくと沖に浅瀬が現れ、適度に水が浅瀬に残っている時間に写真を撮ると、水面が鏡のように空間を映し出しているような写真が撮れる。



意見等

- ・ 早朝（5:15AM）の出発であったが、潮の満ち引きのタイミングがあるので仕方ない。
- ・ 楽しみながら自然の作り出す海の状況（自然の潮の満ち引き）を利用し、興味深い写真を撮ることができるので、自然環境について考えるスタートとしては良い。

(イ) ホームステイ体験

日時：12月22日（日）10時30分～14時00分

内容：昼食では、マレーシアの一般的な料理を食し、その後、マレーシアの伝統的な家でクラフト作りと田植え体験を行った。クラフトは、漁師が天候不順で漁に出られない時に、家でおこなっていたと言われるアートだという。

田植え体験は、昔の手で行う田植え体験を行った。伝統的な家では、稲作の歴史を学ぶと同時に、マレーシアで育てられている作物や家畜として飼われる動物等についても学んだ。

意見等

- ・ スカイミラー体験への出発が早朝であり、予定されているホテル帰着時間が午後 10 時という長丁場になるため、10 時半から 12 時半までを休憩室で休ませてもらったのは、とても良かった。
- ・ 田植え体験は、三重県の生徒は小学生の時に経験している生徒もいると思われるので、特に目新しいことはない。代替案として、ナマズを掴み取りして、その後に料理して食すということも可能とのこと。生徒にとっては後者の方が良いかもしれない。

(ウ) クアラセランゴール自然公園視察

日時：12月22日（日）14時30分～17時30分

内容：自然公園の簡単なレクチャーを受けた後、実際に公園内をエコツアーガイドと一緒に見学。この自然公園は、マングローブと普通の樹木の境界線を含んでいるので、淡水で成長する植物と海水で育つ植物への変遷を見ることができる。



意見等

- ・ ガイドは日本語ができなかった。生徒には難しい英語表現も出てくるので、通訳できるコーディネーターか引率者の助けが必要になる。
- ・ 広大な森林公園で、様々な動植物を目にすることができるのはとても興味深い。
- ・ 蚊がたくさんいるので、虫よけスプレーと長袖シャツ・長ズボンの方が適している。

(エ) ホタル鑑賞

日時：12月22日（日）19時30分～20時30分

内容：早朝のスカイミラー体験時に利用したボート乗り場から、今度は川を上流に行き、ホタルの生息しているエリアでホタル鑑賞を行った。

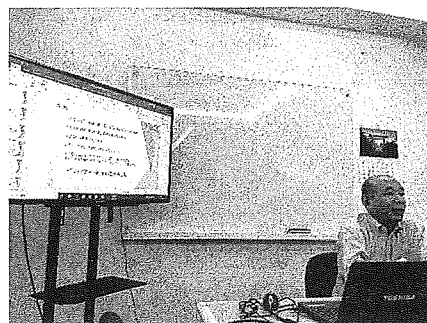
意見等

- ・ 暗闇の中で輝く多くのホタルは、クリスマス・イルミネーションのようであった。
- ・ 日本のホタルとは輝き方が違うようであったが、人工的な光でなく自然の生き物の作り出す光はやさしく美しい。
- ・ 自然環境を維持する重要性を感じられる活動である。

(オ) 企業訪問

日時：12月23日（月）10時00分～12時00分

内容：イオンコンパス株式会社の現地子会社である J-Horizons Travel を訪問し、代表の堀さんからマレーシアの観光、インバウンド観光客招致の取組について話を聞き、本校生徒に可能なインターンシップやジョブシャドウイングについて話し合った。



意見等

- ・ 「日本」と「日本文化」は最大の観光素材。社会のトレンドやニーズにあった広告の仕方（SNSの拡大で「インスタ映え」を狙った物が今はとても効果的）で、可能性は無限大。
- ・ 地方都市を観光地化することは産業創生につながる。
- ・ 外国人インバウンド観光は、有名地でなくても可能。外国人にとっては日本人の生活そのものが観光素材。
- ・ ホームステイ・プログラムのようなもので不便な体験（畳、布団、箸、風呂等）を含めることも効果的。
- ・ エコツーリズムにもつながるが、「あるものを、どう観光として語れるか」で観光として成立するかが決まってくる。
- ・ マレーシアで山商生徒がホテル等で実際に業務補助を行うことはとても難しい。可能なインターンシップとしては、J-Horizons Travel での航空券の発注業務、及び売り上げ管理を行うことは可能。

(カ) 卒業生との面会

日時：12月23日（月）12時30分～13時30分

内容：2年前の卒業生である濱崎万紘さん（現在マレーシアのインティ大学に通っている）と昼食をとった。来年度山商の生徒をマレーシアに連れてくる際は、マレーシアでの生活等について話をしてもらうことを依頼した。

(キ) セントラル・マーケット

日時：12月23日（月）14時00分～14時30分

内容：商業施設、セントラル・マーケットを訪問した。

意見等

- ・ 現地の文化が感じられ、海外通貨や物価についても学ぶことができる。
- ・ 値段も空港より随分リーズナブルである。

(ク) マレーシア政府観光局訪問

日時：12月23日（月）15時30分～16時30分

内容：

- ・ 観光局の担当者2人から、マレーシアの観光業についてレクチャーを受けた。
- ・ マレーシアの観光業は製造業に次いで2位で、大きな産業になっている。

- ・ エコツーリズムは、収益を上げることと同時に、自然環境に興味関心を持ってもらえることの両方の目的がある。
- ・ 多くの自然が残り先住民が住んでいるエリアへのエコツアーは、入場者の数を制限するなど、環境への配慮を実施している。

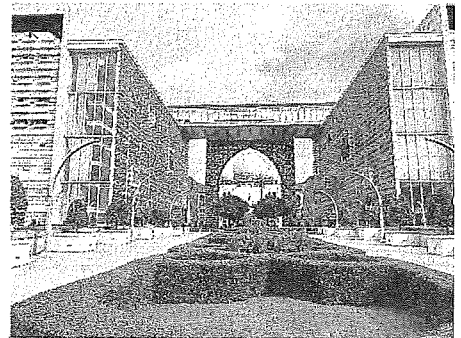
意見等

- ・ 事前学習との兼ね合いから、マレーシア政府観光局への訪問については、この海外研修プログラムの中でどのような位置づけで実施するのかが曖昧だとやる意味がない。位置づけが難しいのであれば、なくてもよいと思われる。
- ・ 担当してくださった2名の方は、観光全般を担当されており、エコツアー専門の職員ではなかった。エコツーリズムを専門で担当する職員もいるようなので、エコツアーについてのレクチャーを依頼する場合は、その職員を指定したほうが良い。
- ・ 職員に日本語を話す人はいないので、英語での進行になる。

(カ) プトラジャヤ視察

日時：12月23日（月）16時45分～17時30分

内容：プトラジャヤはクアラルンプール近郊にある行政都市で、政府系機関の多くがクアラルンプールからプトラジャヤに移され、マレーシアにおける一大政治都市となっている。多くの省庁の建造物が建ち並ぶこの政治都市を訪問し、イスラム文化の象徴であるモスクも見学した。



意見等

- ・ もとは何もなかった森林地域を開発し、このように立派な行政都市を作ったというのは興味深い。
- ・ イスラム教が国教であるマレーシアなので、様々な文化や宗教に触れるという点からは、モスクへの見学も良い経験になる。

(エ) 備忘録

1日目（移動日）

- ・ セントレア9時集合、11時出発の時間帯は早すぎず遅すぎずちょうど良い時間設定。
- ・ クアラルンプールまで直行便でなく経路便を利用する場合は、乗換地で乗継時間が1時間程度しかないとならぬ間に合わない可能性がある。今回の視察では、乗換便の搭乗ゲートに着いたのは、ゲート締切5分前だった。生徒を連れていたら間に合わなかったかもしれない。このことを考えると、せめて90分、できれば2時間は乗継時間を確保しておきたい。

2日目

- ・ ホテル出発が朝 5 時半、ホテル帰着が夜 10 時という非常に長い一日であった。スカイミラーとホテル観賞を両方入れるとこのようなスケジュールになるが、どちらか一つで良いのであれば、もう少し緩い日程になる。
- ・ 昼前に 2 時間ほど休憩時間を設けてもらっていたのは、早朝から夜遅くまで拘束される日程の場合はとても助かった。
- ・ 農業体験のようなアクティビティーを入れると、現地の人と交流を持てるので、エコツアーに農業体験やクラフト体験を加えても良いかもしれない。

3日目

- ・ 平日で市内の交通量が多く、予定されていた場所を訪問する時間がぎりぎりになってしまった。余裕のある日程を組む必要がある。
- ・ 政府観光局への訪問は無くてもよいかもしれない。

月日	発着地	時間	概要
12月21日(土)	中部国際空港発 バンコク着 バンコク発 クアラルンプール着	11:00 15:40 16:45 19:55	空路、バンコクへ 着後、乗り継ぎ 空路、クアラルンプールへ 到着、ホテルへ (ホリデーイン・エクスプレス・クアラルンプール 泊)
22日(日)	クアラルンプール発 クアラセランゴール着 クアラセランゴール発 クアラルンプール着	5:15 7:00 -10:00 10:30 -14:00 14:30 -17:30 19:30 20:15 22:00	<クアラセランゴールでのエコツーリズム体験> スカイミラー体験 ホームステイ体験 田植え体験、伝統的なマレー民家の見学 クアラセランゴール自然公園の見学 ホテル観賞 (ホリデーイン・エクスプレス・クアラルンプール 泊)
23日(月)	クアラルンプール発 プトラジャヤ着 クアラルンプール発 バンコク着	9:45 10:00 -12:00 12:30 -13:30 14:00 -14:30 15:30 -16:30 16:45 -17:30 18:30 21:05 22:10	<現地の観光業 インターンシップ・ジョブシャドウイング> 企業訪問 J-Horizons Travel にてセミナー、レクチャー 卒業生と面会 セントラル・マーケット訪問 マレーシア政府観光局訪問 プトラジャヤ視察 空港到着 空路、バンコクへ 着後、乗り継ぎ (機内 泊)
24日(火)	バンコク発 中部国際空港着	0:05 7:30	空路、中部国際空港へ 到着

(6) 成果発表に係る活動

① 2019年度全国高校生フォーラム

日時：令和元年12月22日（日）10：00～16：30

場所：東京国際フォーラム 参加者：代表生徒3年生4名

午前中に行われた生徒交流会では、テーマ「持続可能な産業と開発」の分科会に参加した。4～5名の小グループに分かれて、自己紹介の後、午後のポスターセッションで発表することや学校での取組などについて、英語でディスカッションを行った。



午後のポスターセッションでは英語でプレゼンテーションを行った。商業科目「課題研究」で取り組んでいる9つのテーマについて紹介し、その中で今回は、AIシステムを導入し食品廃棄量を70%削減したという、伊勢神宮近くにある「えびや大食堂」に注目し取材した内容を発表した。

今後の課題として、指示棒を使ってポスターを強調する、原稿を見ない、ジェスチャーを交えるなど、発表方法の工夫が必要だと感じた。

【参加生徒の感想】

このフォーラムで感じたことは大きく分けて3つです。

1つは、全国から集まった学校の数に圧倒されたことです。山商がこのフォーラムに参加したのは今回が初めてで、概要を聞いたときはあまり想像できなかったけれど、実際行ってみると規模の大きさに驚きました。三重県でもSDGsについて取り組んでいる学校はそう多くないので、何か特別なことに取り組んでいるような気になっていたけれど、会場には高校生はもちろん、中学生の人達も国内、また世界の問題について考え、周りに発信する姿があり、現在の自分達の活動はほんの一部で、まずSDGsや社会で起きている問題について知る段階にいるということにすぎないのだと実感しました。

2つ目は、プレゼンの難しさです。このフォーラムは同時に数十組の学校が発表を行うため、各々が興味のあるブースに自由に動くことができるというものでした。私たち山商は、伊勢志摩の土地に根付いた内容だったので、この土地に興味をもってくれた大人の方は足を止めてくれたけれど、やはり同世代を引きつけることは困難でした。実際に商を獲った学校のプレゼンを聞いてみると、その表現力に圧倒されました。内容はもちろん、どう伝えるかが最も重要だということ学びました。

最後に、こんなにも社会問題について考え、発信する人が多くいるということを知れた一方で、その多くは簡単には実現できないということも学びました、たくさんのプレゼンを聞き刺激を受けたけれど、だからといって今の私達にすぐ何かできるわけではありません。今、自分達にできることがあるとすれば、この経験をできるだけ多くの人に伝えることだと思います。少しでも私たちが社会への関心を高め、少しずつ自らの行動について考え改めていくためにも、伝えることから始めていきたいです。



To Live in Harmony with the Tourist City "Ise Shima" - from the Perspective of SDGs -

Ise Shima - an area abundant with history and nature



Ise Grand Shrine



Saiku



Meoto Iwa

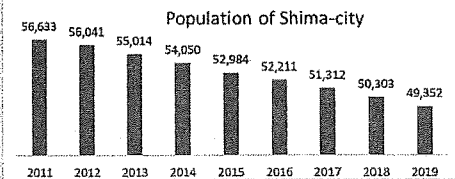
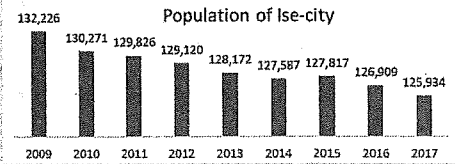


Ago Bay, rias coastline



Ise Shima

Decline of Population



Nine Themes of 2019 Project-based Classes

"Local Revitalization Project"
Planning local events

"Volunteerism"
Volunteering at local NPOs

"Product Development Project"
Developing original products using local ingredients

"Online Store"
Developing Yamasho's online store

"Business Planning Contest"
Participating in business-related contests

"Learning Innovation"
METI - Mie BOE Project

"Japanese Economics"
Discussing problems that the Japanese economy faces

"Financial Analysis"
Analyzing the financial situations of local companies

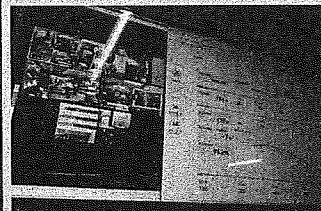
"Practical Business"
Acquiring business manners

Interview-based research at "Ebiya Daishokudo", a Japanese food restaurant with a history of over 100 years

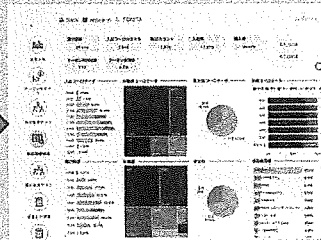


Store management with the help of data analysis

Device that collects data such as traffic, climate etc.



AI system predicts how much ingredients they need



Data analysis and data storage

Before and after the use of AI system

- 70% decrease of food waste
- Better rate of employees' taking paid holidays

Using new technologies helps us solve our social problems.

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000048800.html>



For further research

To create a sustainable future

- ◆ Conducting research and protecting natural resources in Ise Shima
- ◆ Overseas fieldwork

Continue learning through project-based classes



② 宇治山田商業高等学校 2019 年度成果発表及び報告会

日時：令和 2 年 1 月 31 日（金）13：30～15：50

場所：シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 大ホール

本事業をはじめとする今年度の本校の取組について、成果発表及び報告会を開催した。本校生徒・教職員のほか、生徒保護者やコンソーシアム委員、県内学校関係者が参加し、代表生徒のべ 32 名（司会生徒を含む）が授業や課外活動など、この 1 年間の様々な取組について発表した。

参加者の感想として「活動の幅が広いと感じた」「企業に向けてアレンジしたプレゼンが出来ていた」等があった。

【プログラム】

[司会]2-2 村井遥、2-4 西堀愛良

13:30～13:35 開会あいさつ

13:35～14:25 成果発表

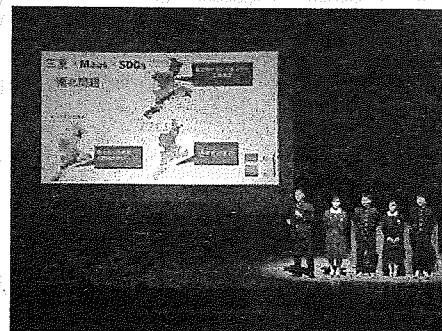
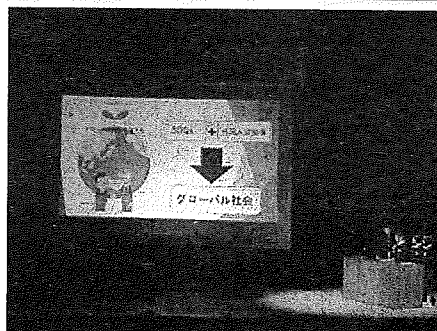
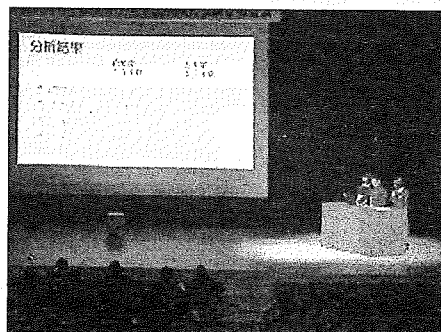
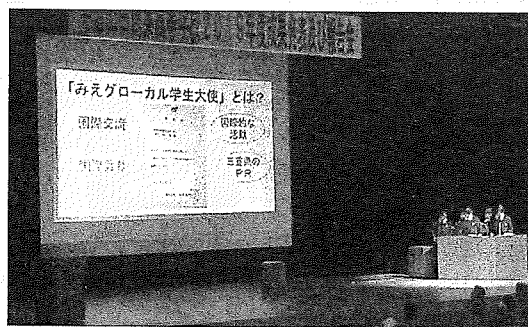
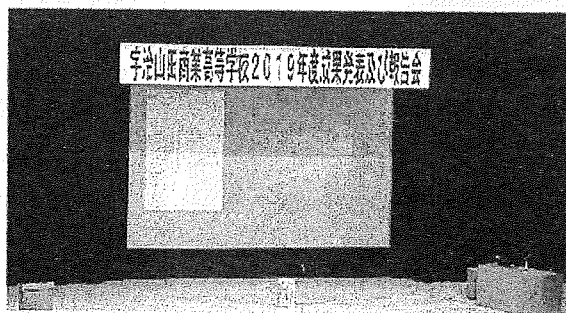
- ・ 課題研究（財務分析） 3-1 山本瑞月、3-2 松葉凜花、3-4 片岡秀記
- ・ 課題研究（日本経済学） 3-3 山口結衣、3-5 黒田亜由美、西岡心、松村昂樹
- ・ 課題研究（未来の教室） 3-4 井坂欧介、橋本若波、3-5 浅野琳子、森口寛也、結城宏介
- ・ 全国高校生フォーラム 3-4 松本和浩、山邊晃也、3-5 下村美優、東浦深月
- ・ 校内英語スピーチコンテスト優秀者 3-4 松本春薫、3-5 森脇瑞貴

14:40～15:20 報告

- ・ みえグローバル学生大使活動 2-5 今井風和、寺田穂乃、中井望月、西村友陽、橋本愛音
- ・ 高校生海外研修（シンガポール） 2-5 東沙耶
- ・ ひろしまジュニア国際フォーラム 3-5 下村美優
- ・ 学校防災ボランティア報告（東北） 3-5 畑実李、村田陽菜
- ・ 第 10 回高校生国際交流事業（ミャンマー） 3-4 大山貴立、小松美紅、山邊晃也

15:20～15:30 次年度海外研修計画について

講評・閉会あいさつ

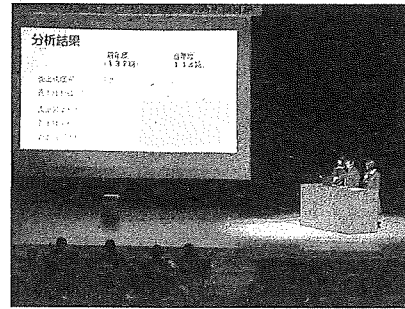


(a) 課題研究「財務分析」

3-1 山本瑞月 3-2 松葉凜花 3-4 片岡秀記

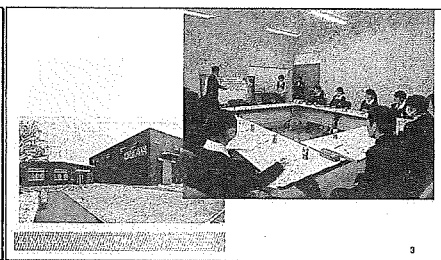
研究発表
財務分析

片岡秀記 松葉凜花 山本瑞月



財務分析とは

損益計算書
貸借対照表



① 経営で志していることが知りたくなった

Q: キクカワエンタープライズさんの目標としていることはなんですか?

A: 持続可能な社会を目標としている。

② 持続可能な社会のために取り組んでいることは何か気になったから

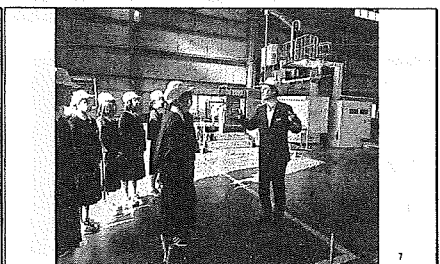
Q: 自然に優しい事業とはなにをしていますか?

A: 再生可能な木材の使用

③ 利益の増やし方が気になった

Q: コスト削減でしていることはなんですか?

A: 再生可能エネルギーの利用



はじめに

- 分析結果
- 私たちからの提案
- まとめ

分析結果

	前年度 (137期)	当年度 (138期)
売上原価率	65.2%	54.7%
売上総利益率	37.0%	45.5%
売上営業利益率	9.7%	24.7%
売上経常利益率	10.8%	25.8%
売上当期純利益率	10.6%	20.1%

より良い経営をするためには

- 公共施設
- 一般家庭向けの家

2つのメリット

- CO2の排出がない
- 発電方法が簡単

まとめ

- 再生可能な資材の有効活用
- コスト削減
- 新しい顧客をつける

- 損益計算書の現状分析ができている
- 固定観念にとらわれない着眼点
- 顧客を増やすための提案

学んだこと

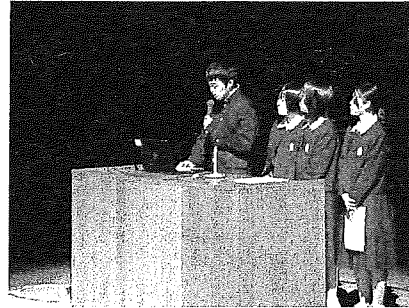
- 授業だけでは得られない体験
- 分析力
- 発想力

ご清聴ありがとうございました

グローバル社会を考える

課題研究「日本経済学」

山口 結衣 西岡 心
黒田 亜由美 松村 昂樹



取組内容

- ・新聞記事の要約
- ・各課小論文コンテストに参加
- ・日経STOCKリーグに参加
- ・企業訪問
- ・日経ストックリーグで作成したレポートのプレゼン

日経STOCKリーグとは

→学校教育の場における投資学習の1つのツールとして企画されたコンテスト形式の株式投資学習プログラム

→500万円の模擬投資をもちに経済・株式投資について学習することが出来る

2547人

順位	学校	投資額	順位	学校	投資額
1位	山梨県立中央大学	1,000,000円	101位	山梨県立中央大学	1,000,000円
2位	山梨県立中央大学	900,000円	102位	山梨県立中央大学	900,000円
3位	山梨県立中央大学	800,000円	103位	山梨県立中央大学	800,000円
4位	山梨県立中央大学	700,000円	104位	山梨県立中央大学	700,000円
5位	山梨県立中央大学	600,000円	105位	山梨県立中央大学	600,000円

SDGs

貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指す普遍的な行動を呼びかけている

→17の分野別の目標と169項目のターゲット

興味がも経済成長も
人や国の不平等をなくそう

気持ちよく働けない外国人が日本にはたくさんいる

グローバル社会を考える

SDGs + 外国人労働者

↓

グローバル社会

企業訪問

なぜ中国語による教育を行っているのか
今後中国語以外の方の採用を考えているのか
中国人教育の育成は難しいのか etc...

南部自動車学校

レポート

①第1スクリーニング-110社
②第2スクリーニング-21社
③第3スクリーニング-11社

② 海外へのサービス充実度
日本と海外の競り合いの深さ
海外拠点数
拠点を置いている国数
海外からの信用状

企業名	SDG	取組内容	評価
PER	SDG 1	海外へのサービス充実度が高い	評価が高い
PBR	SDG 1	海外へのサービス充実度が低い	評価が低い
PER	SDG 1	海外へのサービス充実度が低い	評価が低い
PBR	SDG 1	海外へのサービス充実度が低い	評価が低い

レポート

各企業に500万円を投資

→各ページの財務分析の結果と下図のチャートを用いた

騰貴 一歩上がっている

騰貴 一歩下がっている

→財務分析の結果が優良な企業、投資時の騰貴が長かった企業により多くの金額を投資

ESG投資

E nvironment (環境)
S ocial (社会)
G overnance (企業統治)

に配慮している企業を重視・選別して行う投資

投資企業紹介

株式会社プリテック

日本経済新聞が発表した「SDG+経営」総合ランキングで高評価

急上昇 急下落

上昇と下落の差が狭く安定していない

1.0月頃に1度急上昇したが、その後すぐに下落

→海外市場でのタイの取組不振が原因だと考えられる

投資家へのアピール

外国人労働者

少子高齢化→経営状態が悪化
労働人口を補うことができる
グローバル化を図ることができる
⇒海外進出やインフラ対応で貴重な戦力になる

SDGs

外国人労働者に対してより良い環境を作ることができる
企業のイメージが向上する
⇒自らのメリットだけでなく社会に対するメリットも期待できる
→世界中の誰かが喜ぶことができる

日経ストックリーグ参加を通じて学んだこと

総とはなにか

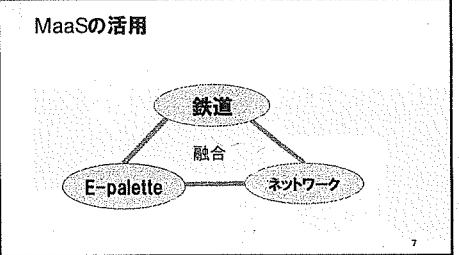
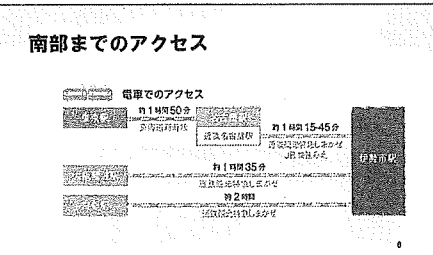
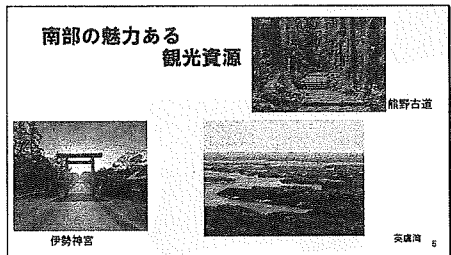
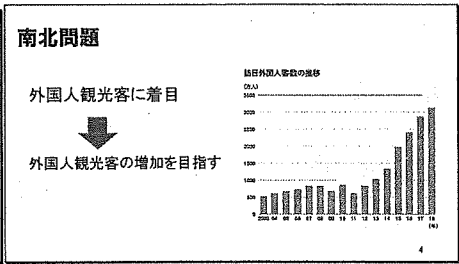
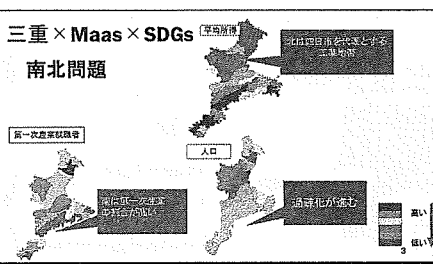
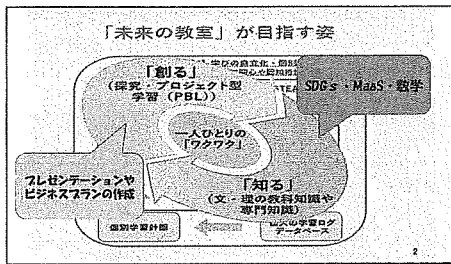
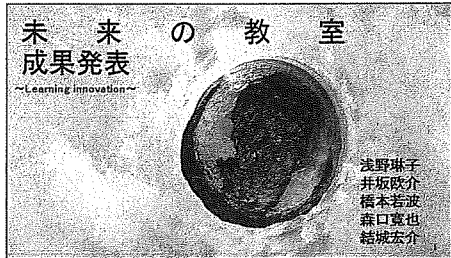
ROE
PER
PBR

8 海外進出 経済成長も
10 人や国の不平等をなくそう

外国人労働者の現状

(c) 課題研究「未来の教室」

3-4 井坂 俊介 橋本 若波 3-5 浅野 琳子 森口 寛也 結城 宏介



- 鉄道**
- ・情報を搭載
 - ・ネットワークを通じてE-paletteと連動
 - ・観光に特化した車両

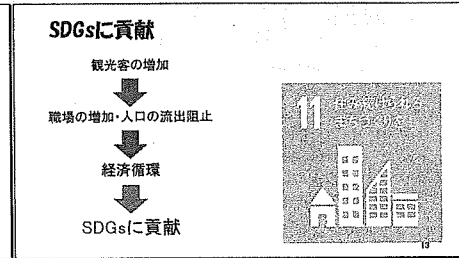
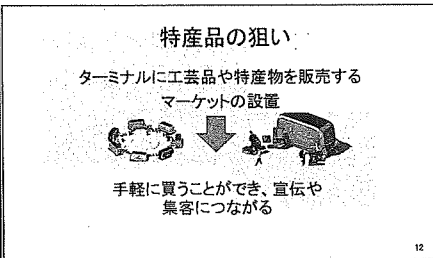
情報の提供

観光地の情報を搭載
Maasを活用し観光地への配車や宿泊施設までの送迎
すべての料金を一括で完了させる

品名	数量	単価	小計	消費税	合計
乗車券	1	114,850	114,850	23,118	137,968
乗車券	1	114,855	114,855	23,119	137,974
乗車券	1	114,855	114,855	23,119	137,974

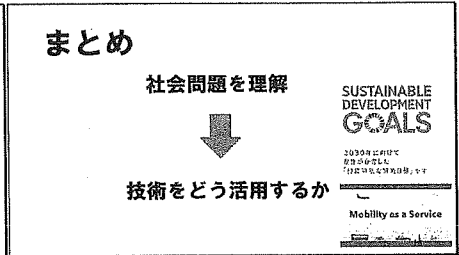
- 観光に特化した車両**
- ・名古屋から熊野まで・伊勢と鳥羽までを結ぶ
 - ・時間がかかることを逆手に電車も旅として提供
 - ・伊勢志摩の食材を使った料理
 - ・非日常的な空間を創り出す

- E-palette導入による効果**
- ・自家用車の減少によるCO₂削減
 - ・観光客の回転効率
 - ・特産品販売ターミナル設置による集客効果



- 発生する利益**
- 外国人観光客の増加による経済的利益
 - 三重の南北問題を解決する社会的利益
 - 自家用車減少のCO₂削減による環境的利益

- 数学的視点による分析**
- 感度分析**
・今のニーズを知ることができる
 - 最適化問題**
・目的化を最適化する
 - 漸化式・行列**
・今をもとに未来を予想するための数式



全国高校生フォーラム2019


松本 和浩 山邊 晃也
下村 美優 東浦 深月

1

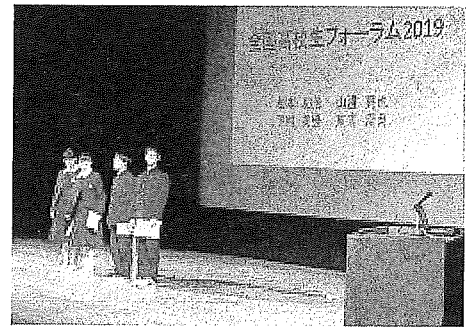
全国高校生フォーラムとは

- ・文科省事業指定校から代表生徒が参加する
- ・グローバルな社会問題の解決
- ・解決策の提案を英語で発信

※今年度のフォーラムには1200名が参加



2



取り組み

- ・生徒交流会
- ・ポスターセッション

3

生徒交流会

テーマごとに議論

→ 持続可能な産業と開発

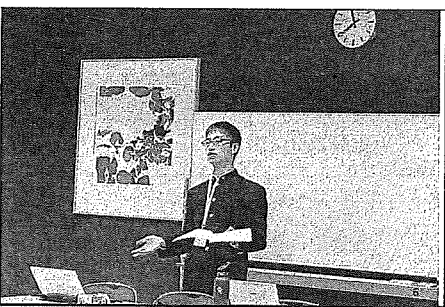
4

四人一組のグループ

初対面の人と英語でディスカッション

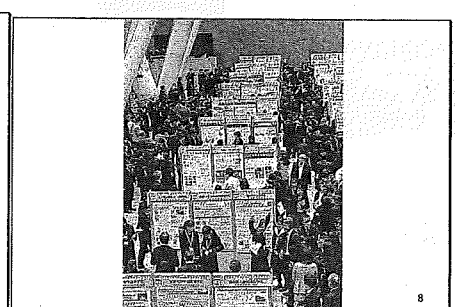
グループ内で結論を出し、代表者が発表

5



ポスターセッション

7



9

このフォーラムで得たこと

- ・地元産業への関心が深まった
- ・新たなSDGsの知識の習得
- ・新しい考え方の発見

↓

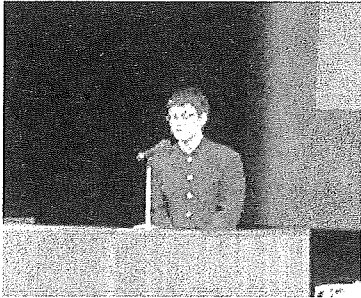
学んだことを地域に発信

10

ご清聴ありがとうございました

11

(e) 校内英語スピーチコンテスト



Time is you.

3-4 Haru Matsumoto

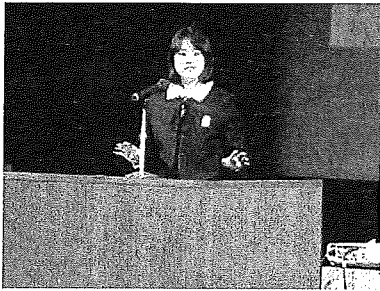
Do you know this word? "Time is money." This word is a metaphor, and this word expresses the importance of time. However, I'd like to express more correctly. So, it is "Time is you."

What does "Time is you." mean? It means the way you use time changes you. We have lived for about 18 years. We have already spent as long as 18 years! Have you used your 18 years effectively? Haven't you wasted your time? Some people say the time for sleep and rest is a kind of waste. However, is it important because you need to have a rest before you start something new. The time wasted is the time you do nothing.

In your life, you are given so many chances to choose your course. However, whichever course you may choose, you need much time for experience. In addition, if you want to get more skills in your hobby, you also need much time. So, we always do not have enough time. Knowledge and experience are acquired by a long effort. A long effort is better than a short big effort. If you make an effort in your daily free time, you will become stronger.

We need time when we want to accomplish something. In conclusion, I'd like to tell you, "It is important to use your daily free time effectively." Daily free time will make you recognize your great potential. The small changes you make every day will make you progress.

Thank you for listening.



What defines you?

3-5 Mizuki Moriwaki

Good afternoon, ladies and gentlemen. I'm really excited to be here because I want to share my opinion with you. But, I'm a little bit nervous right now because Mr. Yoshida is right here. He is my strict tennis coach (laughter). Now, everyone, I don't know if you know me, but I'm Mizuki. If you're interested in making friends with me, follow me on Instagram or twitter.

Today, I'm going to give you a speech about social problem. The world we live in has a lot of problems, such as global warming, declining birthrate, aging population, and facial acne. Today, I want to focus on racial discrimination.

Recently, Japanese people who are multiracial like Osaka Naomi and Hachimura Rui have been representing Japan in sporting events. However, they are facing the problem of racial discrimination. I've heard people saying about Osaka Naomi, "She is not a Japanese tennis player." Certainly, her father is from America so she is half Japanese and half American.

When you hear the term racial discrimination, what kind of matter do you think of? The first thing that comes to my mind is about slavery amongst black people. For years they have been discriminated against and we can all agree that forcing black people into slavery is racial discrimination. But did you know saying to Osaka Naomi, "You are not Japanese." also deserves to be considered racial discrimination? I think many people racially discriminate others unconsciously.

So now, we should try to learn more about this and try to avoid judging people on the color of their skin. But I have an opinion about this. That is, they are not going to let the people who say, "You are not Japanese." define them. So if you ever feel victim to something like this, don't let it get to you because it's your positive attitude, your goals, and your accomplishment that define you. It's not your outer appearances, not your background.

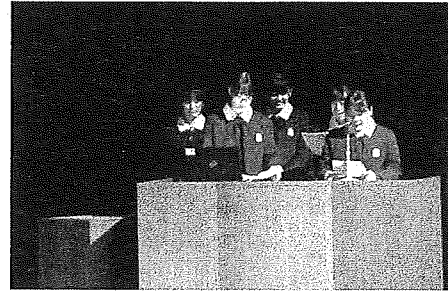
Now I want to finish by asking you.

What defines you?

Thank you for listening.

(f) みえグローバル学生大使活動

2-5 今井風和 寺田穂乃 中井望月 西村友陽 橋本愛音



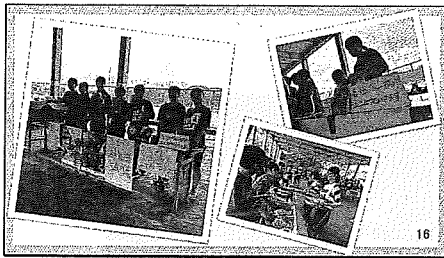
<p>みえグローバル学生大使の活動について “Yamasho ESS Club”</p>	<p>「みえグローバル学生大使」とは？</p> <p>国際交流</p> <p>国際貢献</p> <p>国際的な活動</p> <p>三重県のPR</p>	<p>今年度の活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SNS (Instagram) を利用した三重県の紹介 2. 小学校外国語活動ボランティア 3. モンバルクカレッジとの交流行事 4. Bake Sale 5. 通訳ボランティア 6. 中国 清華大学の学生との交流行事
---	--	--

<p>SNS(Instagram)を利用した三重県の紹介 2019年5月14日～</p>	<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重の食べ物や歴史、観光地、イベント、方言等について、情報を発信する。 ・月に3～4回、英語で掲載する。 	<p>Please follow us! @yamasho.glocal</p> <p>yamasho.glocal</p> <p>Yamasho ESS Club We post information in English about the Mie prefecture. Follow us to hear about the events, food, sightseeing, history and etc. of all kind.</p>
---	---	--

<p>小学校外国語活動ボランティア 2019年7月4日 浜郷小学校</p>	<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の英語表現を使っでの言語活動 ・外国のことについてクイズ形式で紹介 	<p>またESS部と一緒に、みなさんも是非参加してください！！</p>
--	--	-------------------------------------

<p>オーストラリアモンバルクカレッジとの交流 2019年9月28日</p>	<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本文化体験のサポート(華道部) 	<p>・ウェルカムイベントの企画と実施</p>
---	--	-------------------------

<p>BAKE SALE 2019年10月10・11日 文化祭にて</p>	<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駄菓子セット1つ200円で販売。 ・売り上げ分(1つにつき50円)をユニセフへ募金 	<p>募金額 6,167円</p>
--	--	--------------------------



通訳ボランティア

2019年12月24日
外国クルーズ船「Diamond Princess」
鳥羽マリンターミナルへ寄港

鳥羽マリンターミナル寄港

グループ毎に案内

- ・鳥羽水族館
- ・ミキモト真珠島
- ・伊勢神宮 etc



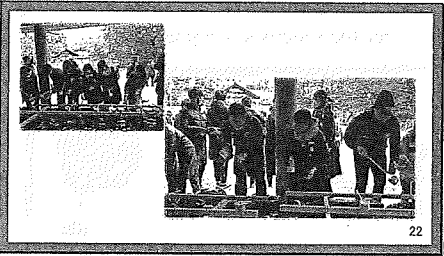
中国 清華大学との交流行事

2020年1月15日
中国～清華大学のサッカー部の学生の方々との交流
神宮参拝やおはらい町への案内

初めの挨拶

グループに分かれ、英語で自己紹介
各グループの希望の順序に合わせて移動。

例) 神宮参拝→おはらい町
おはらい町→神宮参拝



交流行事を通して

・両国とも英語を第一言語としていないが、意思の疎通を図ろうとお互いに高め合うことができた。

・外国の方とコミュニケーションをとる楽しさを改めて感じる事ができた

・中国語を覚えてもらい、また新しい文化に興味を持つ良いきっかけとなった

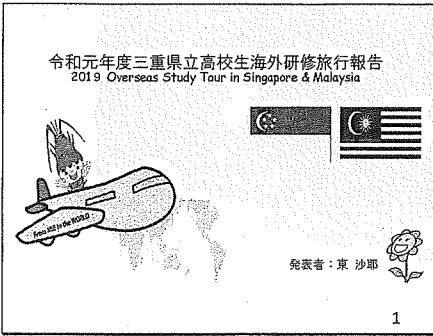
THANK YOU FOR LISTENING.

“Yamasho ESS Club”

(g) 高校生海外研修 (シンガポール)

2-5 東沙耶

令和元年度三重県立高校生海外研修旅行報告
2019 Overseas Study Tour in Singapore & Malaysia



発表者：東沙耶

1



令和元年度三重県立高校生海外研修旅行報告
2019 Overseas Study Tour in Singapore & Malaysia

日程：7月22日(月)～7月26日(金)
(4泊5日)

行き先：シンガポール、マレーシア

参加生徒：10名(男子2名、女子8名)
(名張青峰、桑名、桑名工業、四日市、川越、津商業、木本、松阪、宇治山田、宇治山田商業)

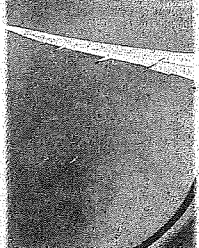
2

旅行日程

- 1日目：7月22日
出国
- 2日目：7月23日
異文化体験(マレーシア)
- 3日目：7月24日
シンガポールの大学生との交流
- 4日目：7月25日
企業体験(日本旅行・京セラ)
マライオン公園、ナイトサファリ
- 5日目：7月26日
帰国

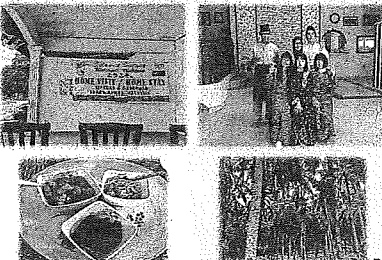
3

チャンギ空港


4

マレーシア シナラン村



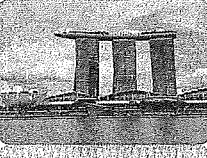
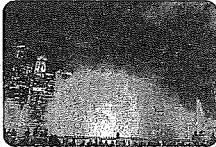
5

フーザース&シスターズプログラム



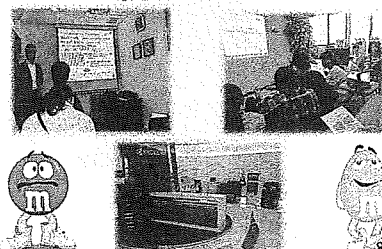
6

マリーナベイサンズ ナイトショー


7

企業研修：日本旅行 京セラ



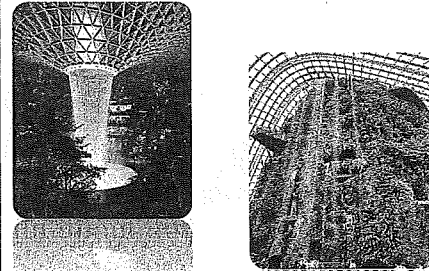
8

マライオン公園 ガーテンスバイザベイ



9

Broaden your horizons!



10

(h) ひろしまジュニア国際フォーラム

3-5 下村美優



第4回 ひろしまジュニア国際フォーラム

Hiroshima Junior International Forum 2019

宇治山田商業高校 3年5組 下村美優

目的
核兵器のない「平和な世界」の実現に向けたメッセージを広く世界に向け発信すること

核廃絶 平和構築

体験

- 平和記念資料館視察
- 慰霊碑参拝
- 被爆体験証言聴講
- 平和構築・核廃絶について学ぶ
- グループディスカッション
- 広島宣言 作成
- 交流会・県内視察

『原爆の子の像』

グループディスカッション & プレゼンテーション

グループディスカッション & プレゼンテーション

平和構築への課題

- 発展途上国と先進国の格差
- 教育システムの不備
- 差別や偏見
- 信用の欠落
- 不平等

私たちにできること

- 言語や文化にとらわれず 周りを“受け入れる”心を持つ
- 世界に関心を持ち知識を得る 批判的な考え(critical mind)も必要
- フェアトレード商品の購入 →チャリティーへの貢献
- 国際交流・ボランティア活動への参加
- 知識・情報の発信

広島宣言—8月23日—

第4回ひろしまジュニア国際フォーラム

<https://youtu.be/4Xs3HECYIZA>

行動力・積極性

グローバル未来塾

GSHS 広島

~Future Leaders' Program for Global Peace~

What is peace for you?
—あなたにとって平和とは—

ご清聴ありがとうございました

The 4th Hiroshima Junior International Forum

(i) 学校防災ボランティア

3-5 畑実李 村田陽菜



東北防災ボランティア
 令和元年4月5日(曜日)～8月6日(曜日)
 宮城県 東松島市 石巻市
 福島県 双葉郡富岡町

- ・ あおい地区
あおい鯉のぼりプロジェクト 伊藤健人さん
講話 仮設住宅から復興へ あおい地区会会長 小野竹一さん
- ・ 旧大川小学校
視察 語り部 只野英昭さん
- ・ 石巻西高校
視察&講話 避難所運営の実際 東北大学特任教授 斎藤幸男さん
- ・ 福島県富岡町
福島第一原発事故の帰還困難区域へ
語り人 富岡町3.11を語る会

あおい集会所 in 東松島市あおい地区
 ・ あおい鯉のぼりプロジェクト
 ・ 新しい街づくり

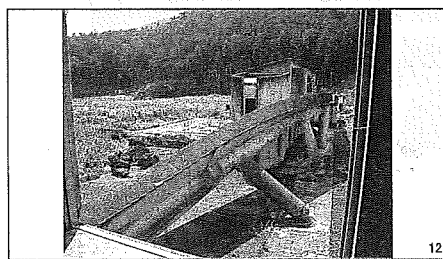
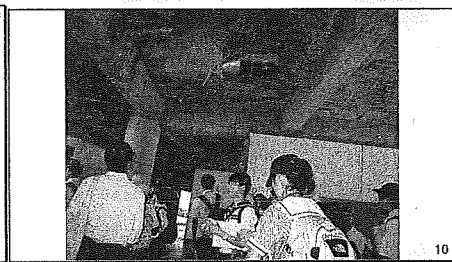
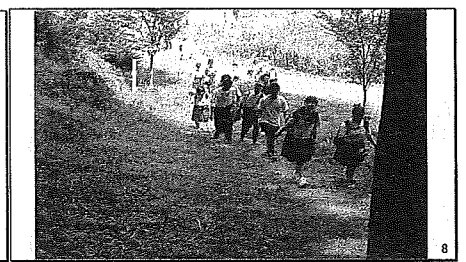
旧大川小学校～小さな命の意味を考える～

- 14:06 避難発生 避難3 3分間
- 14:49 校庭避難
- 14:52 大津波警報
- 15:00 学校裏側で遊ぼうという声
- 15:25 市の広報車が富岡避難所を呼びかけた
- 15:32 富士川が逆流
- 15:36 移動開始 山で待たなく三角地帯に津波到達
- 15:37 北上川が被災した学校に津波到達

陸を上った津波が特別道
 校庭で避難

北上川流域の学校の津波被害の状況

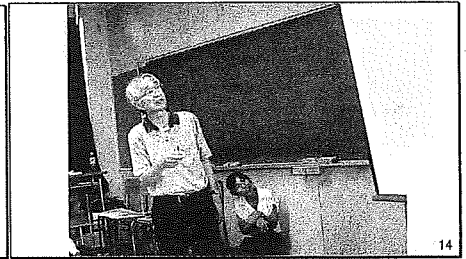
- 北上中学校(108人)
死者・行方不明者13人
体育委員で体育館に避難
- 北沢小学校(95人)
死者・行方不明者3人
炊事から校舎上へ避難
- 大川小学校(108人)
死者・行方不明者7人
校庭から山のたもとの小高い「三角地帯」に避難
- 大川中学校(53人)
死者・行方不明者3人
避難所が津波のため浸水
体育館に避難



石巻西高校 避難所運営ワークショップ

当時の様子

- ・ 生徒は自宅学習中 部活等で生徒150人登校
- ・ 突然防災無線から大津波警報 指定避難所ではなかったが避難者を受け入れ
- ・ ライフラインは遮断
- ・ 帰宅した生徒もいたが残った生徒は運営を手伝った



- 石巻西高校 マニュアルのない避難所 運営クイズ!**
- ①避難所の運営をするとき、私はどのような服装をしたと思いますか?
ズボンなどの目立つ服
 - ②二次災害への対策としてトイレの問題についてどのような対策をしますか?
感染症予防のためにきれいに男女を分ける
 - ③支援物資がたくさん届きました。どのように対応したらいいと思いますか?
大事なものは入り口に記録をとる(お礼の手紙を送るため)
 - ④犬を連れてきた人が 家族同然だから犬も一緒に入れないかと聞いてきた どうしますか?
生徒たちが自ら世話を申し出たことで避難者たちも受け入れてくれた



絶対に風化させない、ささてはいけない
 ～3.11を語り継ぐ～

第10回高校生国際交流事業報告 ～ミャンマー～


三重県立宇治山田商業高等学校
大山貴立 小松美紅 山邊晃也

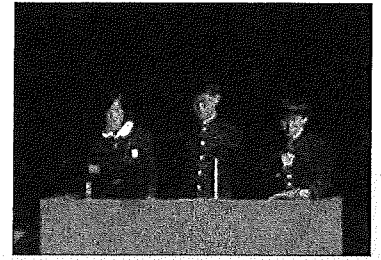
高校生国際交流事業とは

全商協会が主催している大会で団体優勝
↓
海外で交流!

部門

- ・ 珠算 兵庫県立西宮高等学校
- ・ 電卓 愛知県立愛知商業高等学校
- ・ 簿記 岐阜県立岐阜商業高等学校
- ・ ワープロ 樟南高等学校
- ・ 情報処理 三重県立宇治山田商業高等学校





事前研修

いざミャンマーへ

Sky Star Hotel

乗った時に部屋のカードキーをください。

ストラテジーファースト大学

ビンゴゲームのお題！
条件に合う人を探します

Merry Time Foods Myanmar

シュエダゴン・パゴダ

月曜日生まれなので
虎を祀りました！

JETRO事務所・ヤンゴン

チャウタツジーパゴダ

寝釈迦仏は高さ
17m、長さ265m!!

KBZ銀行ラーニング・アカデミー

西宮高等学校の二年生
そろばん10段の実力を披露!!

スーパーマーケット

ミャンマープラザ
アウンサンマーケット
ジャンクションスクエア

そして、帰国

アウンサンスーナーさんの家の玄関
上の肖像画はスーナーさんの父親

最後に...

ご清聴ありがとうございました

(7) 効果の測定

① 高校魅力化評価システム

三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)の評価ツール「高校魅力化評価システム」を用いて、学校地域における生徒の教育環境や生徒の成長を見える化し、授業・指導の改善や、地域との協働のあり方について検討した。

本校の診断結果は以下の通りである。

対象生徒：1年生 調査実施日：令和元年9月4日(水)・5日(木)

「高校魅力化評価システム_v2.0」診断結果シェアシート

★総括表

学校名 三浦県立宇治山田高等学校 学年 2019年度 学年 1年生 1年生 199名 2年生 198名 3年生 195名 合計 592名

【シェアシートの基本的信息】このシェアシートでは、以下の5側面、4領域、3軸により、学校と地域との学びの連携を取り、今後のカリキュラム設計等に活かすことを願っています。

1. 生徒の学習意欲の向上 2. 地域の学習意欲の向上 3. 生徒の自己実現力向上 4. 生徒の自己責任感向上 5. 生徒の自己管理能力向上

3. 生徒の自己実現力向上 4. 生徒の自己責任感向上 5. 生徒の自己管理能力向上

1. 生徒の学習活動の機会

	全校		1年生 (2019入学生)		2年生 (2018入学生)		3年生 (2017入学生)	
	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)
主体的に学ぶ機会								
自主的に調べ学習を行う 学校の内外問わず人に話を聞かせる	-	-	35.0%	2,628	-	-	-	-
グループで教材の活用や調べ学習を行う 活動、学習内容について生徒同士で話し合う 活動、学習内容について大人（教員や他の大人）と話し合う	-	-	51.5%	2,151	-	-	-	-
27.8%	-	-	2,051	-	-	-	-	-
75.0%	-	-	3,011	-	-	-	-	-
87.4%	-	-	3,221	-	-	-	-	-
92.9%	-	-	3,381	-	-	-	-	-
46.5%	-	-	2,431	-	-	-	-	-
63.8%	-	-	2,791	-	-	-	-	-
52.0%	-	-	2,601	-	-	-	-	-
79.8%	-	-	3,061	-	-	-	-	-
64.6%	-	-	2,861	-	-	-	-	-
58.6%	-	-	2,631	-	-	-	-	-
37.0%	-	-	2,751	-	-	-	-	-
39.4%	-	-	2,701	-	-	-	-	-
32.8%	-	-	2,131	-	-	-	-	-
38.9%	-	-	2,311	-	-	-	-	-
指名係に学ぶ機会								
自分の考えを伝えたり質問をよめる 話し合った内容をまとめる 活動、学習のよさを発表する 生徒同士で活動、学習のよさを発表する	-	-	-	-	-	-	-	-
地域の他校や府外について学ぶ 地域の歴史や文化について学ぶ 日本の歴史や文化について学ぶ 日本や世界の歴史の解決方法について学ぶ	-	-	-	-	-	-	-	-

2. 地域の学習環境

評価項目	生徒の認識 (A)				大人の認識 (B)				大人の自己評価 (C)				生徒と大人の認識の差 (A-B)			
	割合 (%)	平均値	標準偏差	中央値	割合 (%)	平均値	標準偏差	中央値	割合 (%)	平均値	標準偏差	中央値	差 (pt)	標準偏差	中央値	
地域の環境を安心・安全な環境と認識している	79.8%	4.64	1.09	3.09	76.5%	4.63	1.07	3.07	76.0%	4.63	1.07	3.07	-0.01	0.02	3.07	
失敗してもいい安全・安心な環境がある	94.4%	6.37	3.10	3.10	62.5%	6.37	3.10	3.10	70.0%	6.37	3.10	3.10	-1.73	0.27	3.10	
助け合える人として、応接する雰囲気がある	80.8%	4.47	3.18	3.18	80.0%	4.47	3.18	3.18	87.5%	4.47	3.18	3.18	-0.71	0.21	3.18	
自習や学習習慣を持って取り組んでいる人がいる	55.6%	2.05	2.67	2.05	67.5%	2.05	2.67	2.05	37.5%	2.05	2.67	2.05	-1.02	0.62	2.05	
地域に、誇れている・憧れている大人がいる	60.6%	2.33	2.70	2.70	87.5%	2.33	2.70	2.70	90.0%	2.33	2.70	2.33	-0.37	0.37	2.33	
人の顔に笑顔が溢れている	89.9%	5.82	3.36	3.36	87.5%	5.82	3.36	3.36	87.5%	5.82	3.36	3.36	-0.12	0.12	3.36	
自分がかかっている悩みや不安、悩みを話し合っている	76.8%	5.21	2.99	2.99	50.0%	5.21	2.99	2.99	72.7%	5.21	2.99	2.99	-2.28	0.28	2.99	
地域を学ぶ機会がある	79.3%	3.53	3.13	3.13	57.5%	3.53	3.13	3.13	81.8%	3.53	3.13	3.13	-1.60	0.40	3.13	
人との関わりや学びの機会がある	85.9%	6.57	3.26	3.26	70.0%	6.57	3.26	3.26	63.6%	6.57	3.26	3.26	-0.69	0.69	3.26	
自分と関わる立場や役割を持つ人との関わりがある	70.2%	3.21	2.89	2.89	72.5%	3.21	2.89	2.89	72.7%	3.21	2.89	2.89	-0.08	0.08	2.89	
自分に関心・関わりがある	80.3%	3.88	3.15	3.15	73.8%	3.88	3.15	3.15	75.0%	3.88	3.15	3.15	-0.12	0.12	3.15	
本音や気持ちを伝えられる環境がある	87.9%	8.07	3.26	3.26	47.5%	8.07	3.26	3.26	66.7%	8.07	3.26	3.26	-0.19	0.19	3.26	
習字や書道などの活動を通して大人と関わる機会がある	78.8%	1.21	3.15	3.15	80.0%	1.21	3.15	3.15	62.5%	1.21	3.15	3.15	-1.94	0.94	3.15	
習字や書道などの活動を通して大人と関わる機会がある	87.9%	6.94	3.29	3.29	87.5%	6.94	3.29	3.29	90.9%	6.94	3.29	3.29	-0.35	0.35	3.29	
習字や書道などの活動を通して大人と関わる機会がある	66.7%	-1.45	2.91	2.91	80.0%	-1.45	2.91	2.91	78.8%	-1.45	2.91	2.91	-1.46	0.46	2.91	
お互いに助け合える機会がある	63.0%	0.03	2.77	2.77	76.8%	0.03	2.77	2.77	68.2%	0.03	2.77	2.77	-0.74	0.74	2.77	
地域で学ぶ機会がある	88.4%	12.60	3.27	3.27	82.5%	12.60	3.27	3.27	90.9%	12.60	3.27	3.27	-2.40	0.40	3.27	
地域から大人と関わり合っている機会がある	70.7%	3.38	2.90	2.90	85.0%	3.38	2.90	2.90	87.9%	3.38	2.90	2.90	-0.52	0.52	2.90	
地域を学ぶ機会を通して大人と関わり合っている機会がある	49.0%	-8.99	2.50	2.50	62.5%	-8.99	2.50	2.50	66.7%	-8.99	2.50	2.50	0.51	0.51	2.50	
地域の人や地域と関わり合っている機会がある	43.9%	-6.90	2.41	2.41	77.5%	-6.90	2.41	2.41	78.8%	-6.90	2.41	2.41	-1.01	0.11	2.41	
地域の人や地域と関わり合っている機会がある																

3. 生徒の自己能力認識

生徒	全校										2016年度				2017年度			
	割合(%)	平均値	標準偏差	最大値	最小値	平均値	標準偏差	最大値	最小値	平均値	標準偏差	最大値	最小値	平均値	標準偏差	最大値	最小値	
																		2016年度
【自己探求力(自己探求)】	54.5%	2.77	1.49	2.77	0.00	2.77	0.00	2.77	0.00	2.77	0.00	2.77	0.00	2.77	0.00	2.77	0.00	2.77
自分についてよく分かっている	56.1%	2.60	-1.03	2.60	-2.77	2.60	-2.77	2.60	-2.77	2.60	-2.77	2.60	-2.77	2.60	-2.77	2.60	-2.77	2.60
私は、自分自身に自信している	43.9%	2.36	-1.79	2.36	-2.77	2.36	-2.77	2.36	-2.77	2.36	-2.77	2.36	-2.77	2.36	-2.77	2.36	-2.77	2.36
【問題解決力】	55.7%	2.78	1.25	2.78	0.00	2.78	0.00	2.78	0.00	2.78	0.00	2.78	0.00	2.78	0.00	2.78	0.00	2.78
現状分析、目的や課題を明らかにすることができる	65.7%	2.78	1.25	2.78	0.00	2.78	0.00	2.78	0.00	2.78	0.00	2.78	0.00	2.78	0.00	2.78	0.00	2.78
【行動力】	57.8%	2.65	-0.08	2.65	-2.77	2.65	-2.77	2.65	-2.77	2.65	-2.77	2.65	-2.77	2.65	-2.77	2.65	-2.77	2.65
目標を設定し、計画を立て行動することができる	57.1%	2.63	-0.09	2.63	-2.77	2.63	-2.77	2.63	-2.77	2.63	-2.77	2.63	-2.77	2.63	-2.77	2.63	-2.77	2.63
自分自身で計画を立て行動することができる	58.6%	2.66	-0.06	2.66	-2.77	2.66	-2.77	2.66	-2.77	2.66	-2.77	2.66	-2.77	2.66	-2.77	2.66	-2.77	2.66
【批判的思考】	78.3%	3.04	5.83	3.04	0.00	3.04	0.00	3.04	0.00	3.04	0.00	3.04	0.00	3.04	0.00	3.04	0.00	3.04
考えや行動が公平かどうかを判断することができる	81.3%	3.08	5.18	3.08	0.00	3.08	0.00	3.08	0.00	3.08	0.00	3.08	0.00	3.08	0.00	3.08	0.00	3.08
【読解力】	75.3%	3.01	6.48	3.01	0.00	3.01	0.00	3.01	0.00	3.01	0.00	3.01	0.00	3.01	0.00	3.01	0.00	3.01
読者の立場から文章の意味を理解することができる	78.9%	3.08	4.79	3.08	0.00	3.08	0.00	3.08	0.00	3.08	0.00	3.08	0.00	3.08	0.00	3.08	0.00	3.08
【算数力】	96.5%	3.35	8.72	3.35	0.00	3.35	0.00	3.35	0.00	3.35	0.00	3.35	0.00	3.35	0.00	3.35	0.00	3.35
自分には算数の問題や問題を解くことができる	96.5%	3.35	8.72	3.35	0.00	3.35	0.00	3.35	0.00	3.35	0.00	3.35	0.00	3.35	0.00	3.35	0.00	3.35
【図形力】	92.4%	3.34	7.02	3.34	0.00	3.34	0.00	3.34	0.00	3.34	0.00	3.34	0.00	3.34	0.00	3.34	0.00	3.34
相手の意見と丁寧に話し合える	92.4%	3.34	7.02	3.34	0.00	3.34	0.00	3.34	0.00	3.34	0.00	3.34	0.00	3.34	0.00	3.34	0.00	3.34
【読解力】	59.1%	2.73	1.32	2.73	0.00	2.73	0.00	2.73	0.00	2.73	0.00	2.73	0.00	2.73	0.00	2.73	0.00	2.73
自分の考えを上手に相手に伝えることができる	65.7%	2.86	1.59	2.86	0.00	2.86	0.00	2.86	0.00	2.86	0.00	2.86	0.00	2.86	0.00	2.86	0.00	2.86
友達の前で自分の意見を発表することができる	52.5%	2.61	1.04	2.61	0.00	2.61	0.00	2.61	0.00	2.61	0.00	2.61	0.00	2.61	0.00	2.61	0.00	2.61
【表現力】	67.7%	2.87	2.11	2.87	0.00	2.87	0.00	2.87	0.00	2.87	0.00	2.87	0.00	2.87	0.00	2.87	0.00	2.87
自分の考え、自分の力を表現できる	67.7%	2.87	2.11	2.87	0.00	2.87	0.00	2.87	0.00	2.87	0.00	2.87	0.00	2.87	0.00	2.87	0.00	2.87
【読解力】	55.6%	2.62	-3.97	2.62	-2.77	2.62	-2.77	2.62	-2.77	2.62	-2.77	2.62	-2.77	2.62	-2.77	2.62	-2.77	2.62
【学びの態度】	55.6%	2.66	-5.66	2.66	-2.77	2.66	-2.77	2.66	-2.77	2.66	-2.77	2.66	-2.77	2.66	-2.77	2.66	-2.77	2.66
学習で、自分が学びたいことが見つかる	55.1%	2.65	-5.78	2.65	-2.77	2.65	-2.77	2.65	-2.77	2.65	-2.77	2.65	-2.77	2.65	-2.77	2.65	-2.77	2.65
地理や歴史や科学に興味を持っている	31.8%	2.13	-15.47	2.13	-2.77	2.13	-2.77	2.13	-2.77	2.13	-2.77	2.13	-2.77	2.13	-2.77	2.13	-2.77	2.13
学習を通じて、自分自身に成長している	79.8%	3.20	4.26	3.20	0.00	3.20	0.00	3.20	0.00	3.20	0.00	3.20	0.00	3.20	0.00	3.20	0.00	3.20
【情報活用能力】	61.6%	2.71	-4.13	2.71	-2.77	2.71	-2.77	2.71	-2.77	2.71	-2.77	2.71	-2.77	2.71	-2.77	2.71	-2.77	2.71
情報を、適切に活用して課題を解決できる	67.2%	2.79	-5.02	2.79	-2.77	2.79	-2.77	2.79	-2.77	2.79	-2.77	2.79	-2.77	2.79	-2.77	2.79	-2.77	2.79
勉強しらの成果を積極的に活用している	56.1%	2.63	-3.24	2.63	-2.77	2.63	-2.77	2.63	-2.77	2.63	-2.77	2.63	-2.77	2.63	-2.77	2.63	-2.77	2.63
【情報伝達力】	35.4%	2.25	-5.53	2.25	-2.77	2.25	-2.77	2.25	-2.77	2.25	-2.77	2.25	-2.77	2.25	-2.77	2.25	-2.77	2.25
相手の言葉や態度から相手の気持ちを読み取る	68.7%	2.87	-0.54	2.87	-2.77	2.87	-2.77	2.87	-2.77	2.87	-2.77	2.87	-2.77	2.87	-2.77	2.87	-2.77	2.87
【読解力】	68.7%	2.87	-0.54	2.87	-2.77	2.87	-2.77	2.87	-2.77	2.87	-2.77	2.87	-2.77	2.87	-2.77	2.87	-2.77	2.87
自分の意見や考えを表現することができる	58.0%	2.68	-0.80	2.68	-2.77	2.68	-2.77	2.68	-2.77	2.68	-2.77	2.68	-2.77	2.68	-2.77	2.68	-2.77	2.68
【社会性】	52.2%	2.53	-1.71	2.53	-2.77	2.53	-2.77	2.53	-2.77	2.53	-2.77	2.53	-2.77	2.53	-2.77	2.53	-2.77	2.53
自分の意見や考えを表現することができる	28.8%	2.13	-11.47	2.13	-2.77	2.13	-2.77	2.13	-2.77	2.13	-2.77	2.13	-2.77	2.13	-2.77	2.13	-2.77	2.13
地理や歴史や科学に興味を持っている	54.5%	2.59	-2.12	2.59	-2.77	2.59	-2.77	2.59	-2.77	2.59	-2.77	2.59	-2.77	2.59	-2.77	2.59	-2.77	2.59
学習を通じて、自分自身に成長している	73.2%	2.86	8.47	2.86	0.00	2.86	0.00	2.86	0.00	2.86	0.00	2.86	0.00	2.86	0.00	2.86	0.00	2.86
【社会性】	60.3%	2.75	-1.09	2.75	-2.77	2.75	-2.77	2.75	-2.77	2.75	-2.77	2.75	-2.77	2.75	-2.77	2.75	-2.77	2.75
自分の意見や考えを表現することができる	31.3%	2.18	-10.86	2.18	-2.77	2.18	-2.77	2.18	-2.77	2.18	-2.77	2.18	-2.77	2.18	-2.77	2.18	-2.77	2.18
地理や歴史や科学に興味を持っている	71.7%	2.91	6.20	2.91	0.00	2.91	0.00	2.91	0.00	2.91	0.00	2.91	0.00	2.91	0.00	2.91	0.00	2.91
【自己探求力】	77.8%	3.15	1.39	3.15	0.00	3.15	0.00	3.15	0.00	3.15	0.00	3.15	0.00	3.15	0.00	3.15	0.00	3.15
自分自身についてよく分かっている	56.7%	2.65	-1.04	2.65	-2.77	2.65	-2.77	2.65	-2.77	2.65	-2.77	2.65	-2.77	2.65	-2.77	2.65	-2.77	2.65
私は、自分自身に自信を持っている	61.6%	2.73	0.72	2.73	0.00	2.73	0.00	2.73	0.00	2.73	0.00	2.73	0.00	2.73	0.00	2.73	0.00	2.73
【読解力】	69.7%	2.97	2.73	2.97	0.00	2.97	0.00	2.97	0.00	2.97	0.00	2.97	0.00	2.97	0.00	2.97	0.00	2.97
自分の意見や考えを表現することができる	38.9%	2.25	-6.56	2.25	-2.77	2.25	-2.77	2.25	-2.77	2.25	-2.77	2.25	-2.77	2.25	-2.77	2.25	-2.77	2.25
【情報活用能力】	62.6%	2.79	0.65	2.79	0.00	2.79	0.00	2.79	0.00	2.79	0.00	2.79	0.00	2.79	0.00	2.79	0.00	2.79
情報を、適切に活用して課題を解決できる	51.5%	2.56	-2.12	2.56	-2.77	2.56	-2.77	2.56	-2.77	2.56	-2.77	2.56	-2.77	2.56	-2.77	2.56	-2.77	2.56
【読解力】	73.7%	3.02	3.42	3.02	0.00	3.02	0.00	3.02	0.00	3.02	0.00	3.02	0.00	3.02	0.00	3.02	0.00	3.02
自分の意見や考えを表現することができる	73.7%	3.02	3.42	3.02	0.00	3.02	0.00	3.02	0.00	3.02	0.00	3.02	0.00	3.02	0.00	3.02	0.00	3.02

4. 生徒の行動実績

	全校			1年生 (2019入学生)			2年生 (2018入学生)			3年生 (2017入学生)		
	割合(%)	数(人)	平均値	割合(%)	数(人)	平均値	割合(%)	数(人)	平均値	割合(%)	数(人)	平均値
学校生活に励む行動	-	-	-	53.6%	271	2.71	-	-	-	-	-	-
授業で学びが深まること、自分から質問したり、わかる人に聞く。	-	-	-	80.3%	414	3.14	-	-	-	-	-	-
授業で興味・関心を持った分野について、自主的に調べ物を行った。	-	-	-	38.9%	197	2.29	-	-	-	-	-	-
授業中に質問する行動	-	-	-	70.7%	354	2.91	-	-	-	-	-	-
自分の考えについて、様々な人に意見を述べたり質問する。	-	-	-	66.2%	327	2.80	-	-	-	-	-	-
友人と切磋琢磨し、意見やアドバイスを求める。	-	-	-	75.3%	380	3.02	-	-	-	-	-	-
授業生活に励む行動	-	-	-	50.8%	257	2.57	-	-	-	-	-	-
授業で学びが深まること、自分から質問したり、わかる人に聞く。	-	-	-	52.5%	266	2.57	-	-	-	-	-	-
授業で興味・関心を持った分野について、自主的に調べ物を行った。	-	-	-	49.0%	245	2.46	-	-	-	-	-	-
授業中に質問する行動	-	-	-	53.0%	265	2.54	-	-	-	-	-	-
自分の考えについて、様々な人に意見を述べたり質問する。	-	-	-	52.5%	265	2.59	-	-	-	-	-	-
友人と切磋琢磨し、意見やアドバイスを求める。	-	-	-	27.8%	139	1.92	-	-	-	-	-	-
学校生活に励む行動	-	-	-	75.8%	380	3.10	-	-	-	-	-	-
授業で学びが深まること、自分から質問したり、わかる人に聞く。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
授業で興味・関心を持った分野について、自主的に調べ物を行った。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
授業中に質問する行動	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
自分の考えについて、様々な人に意見を述べたり質問する。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
友人と切磋琢磨し、意見やアドバイスを求める。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学校生活に励む行動	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
授業で学びが深まること、自分から質問したり、わかる人に聞く。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
授業で興味・関心を持った分野について、自主的に調べ物を行った。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
授業中に質問する行動	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
自分の考えについて、様々な人に意見を述べたり質問する。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
友人と切磋琢磨し、意見やアドバイスを求める。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

5. 満足度

	全校			1年生 (2019入学生)			2年生 (2018入学生)			3年生 (2017入学生)		
	割合(%)	数(人)	平均値	割合(%)	数(人)	平均値	割合(%)	数(人)	平均値	割合(%)	数(人)	平均値
今のままの学校に対する満足度	72.2%	356	10.36	72.2%	356	6.40	-	-	-	-	-	-
この学校に入ってきた良かったと思う	88.4%	427	6.44	88.4%	427	3.37	-	-	-	-	-	-

② Ai GROW 分析結果

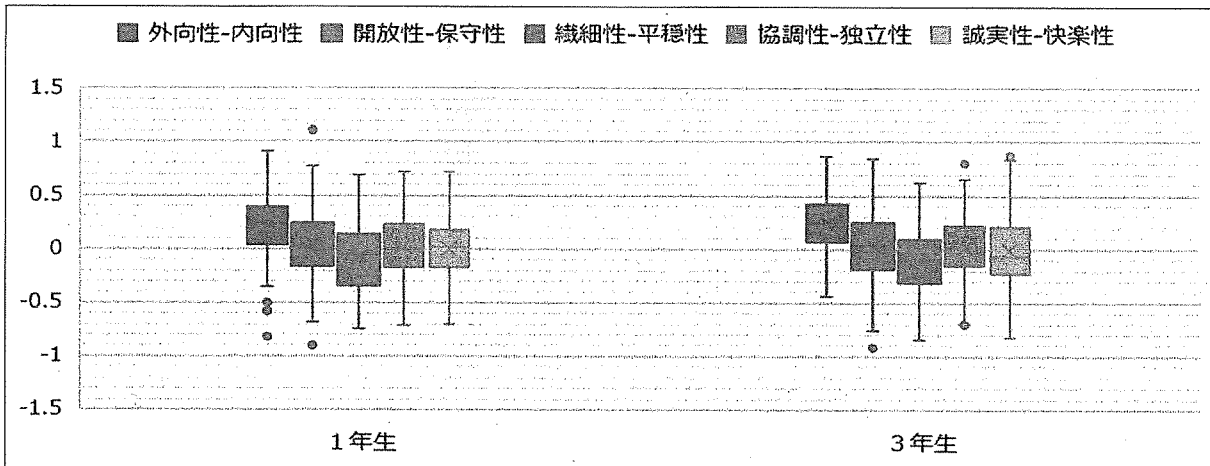
Ai GROWは、360度コンピテンシー評価と AI（人工知能）の活用によって、個人の資質と能力および各教育活動の教育効果を可視化・定量化する評価ツールである。

今年度は1年生および3年生を対象に調査を実施した。次年度以降は現1年生を対象に調査を継続実施し、生徒の資質・能力の伸びを把握し、事業取組による各種プログラムの効果を検証する。

(a) 調査設計

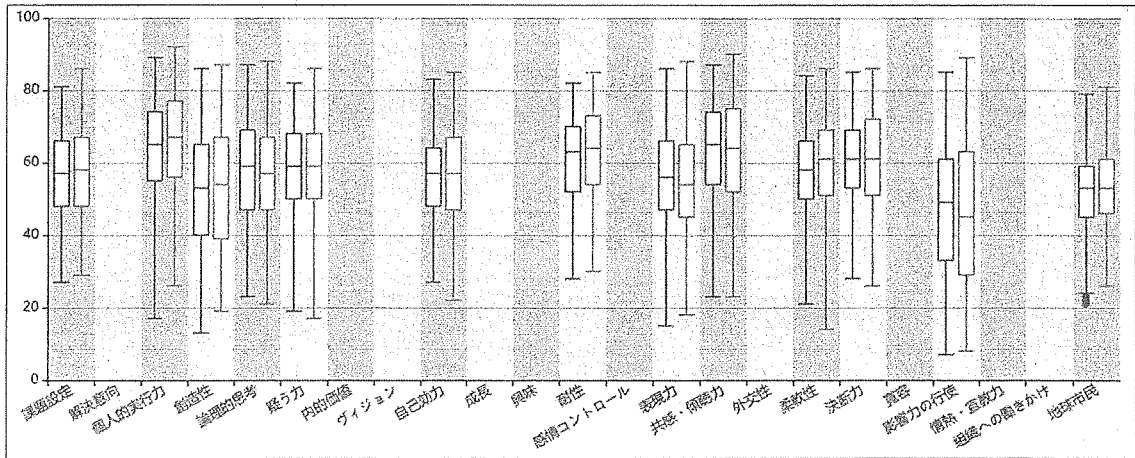
項目	内容
調査目的	「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の効果検証
調査対象	三重県立宇治山田商業高等学校 1年生 200名、3年生 174名 ※「未来の教室」事業に参加する25名については本報告書作成時点で事後受検を行っていないため、本分析の対象から除外した。
調査期間	事前受検：令和元年7月8日（月） 事後受検：令和元年12月13日（金）
調査項目	コンピテンシー：以下の13項目 認知系：課題設定、論理的思考、疑う力、創造性 自己系：個人的実行力、自己効力、耐性、決断力 他者系：表現力、共感・傾聴力、柔軟性、影響力の行使 コミュニティ系：地球市民
計測方法	Institution for a Global Society 株式会社が開発した「Ai GROW」を用いた潜在的な気質診断とコンピテンシー評価（360度評価）のスコアを基に調査 気質診断：iATを用いた Big5（内向性⇔外向性、保守性⇔開放性、繊細性⇔平穏性、独立性⇔協調性、誠実性⇔快楽性）診断

(b) 質診断結果



五大因子で見ると約75%の生徒が「外向性」に触れており、外に新しい刺激を求め積極的に行動できる活動的な生徒が多くいることが分かる。また、外れ値を示す生徒はあるものの、他校との比較において全体的に振れ幅が小さく、高校1年と高校3年どちらの学年もある程度、気質の傾向の近い生徒で構成されていると言える。

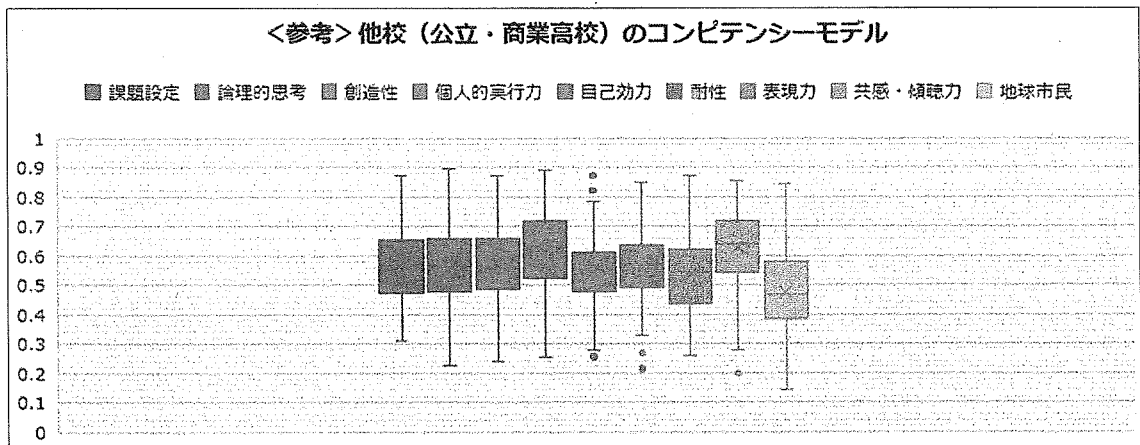
(c) コンピテンシー計測結果



(各項目の左側が高校1年生、右側が高校3年生)

全体的に振れ幅は大きいものの、本事業のキー・コンピテンシーの一つである「個人的実行力」の中央値が高い。一方で「創造性」「表現力」、特に「影響力の行使」に課題が認められる。「創造力」は本事業のキー・コンピテンシーの一つであり、また、同じくキー・コンピテンシーの「協働性」は、「Ai GROW」では「自己効力」と「影響力の行使」2つのコンピテンシーの組み合わせで定量化することから、「創造性」と「影響力の行使」の成長に注力したプログラムや指導が必要だと考える。

また、以下の別の商業高校（公立）との比較においては、「耐性」「地球市民」に優位性が認められる。これら他校との比較で優位性が認められるコンピテンシーに着目し、「Ai GROW」の生徒カルテで下位層の生徒を特定するとともに「底上げ」に注力した指導を行うことも有効と言える。



(「疑う力」「決断力」「柔軟性」「影響力の行使」の測定はなし)

(d) コンピテンシーの成長 (事前・事後での変化)

d-1 認知系コンピテンシー

【合計】

	読解力(事前)			読解力(事後)			読解力(変化)			作文力(事前)			作文力(事後)			作文力(変化)		
	平均値	中央値	変化	平均値	中央値	変化	平均値	中央値	変化	平均値	中央値	変化	平均値	中央値	変化			
合計	0.567	0.569	0.000	0.553	0.571	0.008	0.574	0.579	0.005	0.509	0.532	0.022	0.509	0.532	0.022			
男子	0.567	0.569	0.000	0.553	0.571	0.008	0.574	0.579	0.005	0.509	0.532	0.022	0.509	0.532	0.022			
女子	0.567	0.569	0.000	0.553	0.571	0.008	0.574	0.579	0.005	0.509	0.532	0.022	0.509	0.532	0.022			
1年1組	0.567	0.569	0.000	0.553	0.571	0.008	0.574	0.579	0.005	0.509	0.532	0.022	0.509	0.532	0.022			
1年2組	0.567	0.569	0.000	0.553	0.571	0.008	0.574	0.579	0.005	0.509	0.532	0.022	0.509	0.532	0.022			
1年3組	0.567	0.569	0.000	0.553	0.571	0.008	0.574	0.579	0.005	0.509	0.532	0.022	0.509	0.532	0.022			
1年4組	0.567	0.569	0.000	0.553	0.571	0.008	0.574	0.579	0.005	0.509	0.532	0.022	0.509	0.532	0.022			
1年5組	0.567	0.569	0.000	0.553	0.571	0.008	0.574	0.579	0.005	0.509	0.532	0.022	0.509	0.532	0.022			
2年1組	0.567	0.569	0.000	0.553	0.571	0.008	0.574	0.579	0.005	0.509	0.532	0.022	0.509	0.532	0.022			
2年2組	0.567	0.569	0.000	0.553	0.571	0.008	0.574	0.579	0.005	0.509	0.532	0.022	0.509	0.532	0.022			
2年3組	0.567	0.569	0.000	0.553	0.571	0.008	0.574	0.579	0.005	0.509	0.532	0.022	0.509	0.532	0.022			
2年4組	0.567	0.569	0.000	0.553	0.571	0.008	0.574	0.579	0.005	0.509	0.532	0.022	0.509	0.532	0.022			
2年5組	0.567	0.569	0.000	0.553	0.571	0.008	0.574	0.579	0.005	0.509	0.532	0.022	0.509	0.532	0.022			

【学年・クラス別】

	読解力(事前)			読解力(事後)			読解力(変化)			作文力(事前)			作文力(事後)			作文力(変化)		
	平均値	中央値	変化	平均値	中央値	変化	平均値	中央値	変化	平均値	中央値	変化	平均値	中央値	変化			
1年1組	0.555	0.521	-0.034	0.530	0.549	0.018	0.552	0.560	-0.008	0.485	0.522	0.046	0.485	0.522	0.046			
男子	0.555	0.521	-0.034	0.530	0.549	0.018	0.552	0.560	-0.008	0.485	0.522	0.046	0.485	0.522	0.046			
女子	0.555	0.521	-0.034	0.530	0.549	0.018	0.552	0.560	-0.008	0.485	0.522	0.046	0.485	0.522	0.046			
1年2組	0.555	0.521	-0.034	0.530	0.549	0.018	0.552	0.560	-0.008	0.485	0.522	0.046	0.485	0.522	0.046			
1年3組	0.555	0.521	-0.034	0.530	0.549	0.018	0.552	0.560	-0.008	0.485	0.522	0.046	0.485	0.522	0.046			
1年4組	0.555	0.521	-0.034	0.530	0.549	0.018	0.552	0.560	-0.008	0.485	0.522	0.046	0.485	0.522	0.046			
1年5組	0.555	0.521	-0.034	0.530	0.549	0.018	0.552	0.560	-0.008	0.485	0.522	0.046	0.485	0.522	0.046			
2年1組	0.555	0.521	-0.034	0.530	0.549	0.018	0.552	0.560	-0.008	0.485	0.522	0.046	0.485	0.522	0.046			
2年2組	0.555	0.521	-0.034	0.530	0.549	0.018	0.552	0.560	-0.008	0.485	0.522	0.046	0.485	0.522	0.046			
2年3組	0.555	0.521	-0.034	0.530	0.549	0.018	0.552	0.560	-0.008	0.485	0.522	0.046	0.485	0.522	0.046			
2年4組	0.555	0.521	-0.034	0.530	0.549	0.018	0.552	0.560	-0.008	0.485	0.522	0.046	0.485	0.522	0.046			
2年5組	0.555	0.521	-0.034	0.530	0.549	0.018	0.552	0.560	-0.008	0.485	0.522	0.046	0.485	0.522	0.046			

<他校※との平均値と中央値での比較>

「課題設定」「論理的思考」については平均値、中央値ともに全国平均と同程度。「疑う力」は平均値、中央値ともに他校を上回っている。一方で「創造性」は全国平均を下回っていたが、事後の受検で成長が認められ、平均値、中央値ともに全国平均を上回る事となった。

※全国の「Ai GROW」導入校の生徒から5,000名の中高生を無作為に抽出

d-2 自己系コンピテンシー

【合計】

学年	クラス	個人の実行力(平均)			自己効力(平均)			耐性(平均)			決断力(平均)		
		平均	中央値	変化	平均	中央値	変化	平均	中央値	変化	平均	中央値	変化
合計	平均値	0.639	0.629	-0.009	0.553	0.563	0.010	0.601	0.600	-0.001	0.590	0.585	-0.004
	豊校	374	374	0	374	374	0	374	374	0	374	374	0
	標準偏差	0.141	0.132	-0.009	0.124	0.120	-0.004	0.114	0.113	-0.001	0.133	0.119	-0.014
	最大値	0.249	0.221	-0.028	0.205	0.254	0.047	0.285	0.277	-0.008	0.239	0.220	-0.019
	中央値	0.561	0.558	-0.014	0.530	0.552	0.022	0.559	0.522	-0.037	0.535	0.535	0.000

【学年・クラス別】

学年	クラス	個人の実行力(平均)			自己効力(平均)			耐性(平均)			決断力(平均)		
		平均	中央値	変化	平均	中央値	変化	平均	中央値	変化	平均	中央値	変化
1年1期	平均値	0.644	0.612	-0.032	0.547	0.563	0.016	0.592	0.599	0.007	0.574	0.585	-0.011
	豊校	40	40	0	40	40	0	40	40	0	40	40	0
	標準偏差	0.130	0.119	-0.011	0.105	0.100	-0.005	0.122	0.101	-0.021	0.116	0.112	-0.004
	最大値	0.373	0.314	-0.059	0.325	0.377	0.052	0.370	0.358	-0.012	0.303	0.273	-0.031
	中央値	0.542	0.570	0.028	0.545	0.598	0.053	0.598	0.767	-0.011	0.514	0.580	-0.024

<他校※との平均値と中央値での比較>

「自己効力」については平均値、中央値ともに全国平均と同程度。「個人的実行力」「耐性」「決断力」については事後の受検でスコアを落ちたものの、平均値、中央値ともに他校を上回っている。

※全国の「Ai GROW」導入校の生徒から5,000名の中高生を無作為に抽出

d-3 他者系コンピテンシー

【合計】

学年	クラス	決断力(平均)			実行力(平均)			自己効力(平均)			耐性(平均)		
		平均	中央値	変化	平均	中央値	変化	平均	中央値	変化	平均	中央値	変化
合計	平均値	0.537	0.553	0.016	0.613	0.605	-0.008	0.576	0.580	0.004	0.460	0.488	0.027
	豊校	374	374	0	374	374	0	374	374	0	374	374	0
	標準偏差	0.138	0.130	-0.008	0.142	0.130	-0.012	0.118	0.116	-0.002	0.105	0.122	-0.017
	最大値	0.206	0.211	0.005	0.155	0.246	0.093	0.214	0.153	-0.062	0.071	0.100	0.029
	中央値	0.539	0.550	0.021	0.572	0.616	-0.025	0.562	0.576	-0.005	0.473	0.504	0.031

【学年・クラス別】

学年	クラス	表現力 (事前)			共感・傾聴力 (事前)			柔軟性 (事前)			影響力の行使 (事前)		
		平均値	中央値	変化	平均値	中央値	変化	平均値	中央値	変化	平均値	中央値	変化
1年1組	平均値	0.548	0.521	0.003	0.636	0.611	-0.024	0.552	0.572	0.021	0.476	0.479	0.003
	人数	40	40	0	40	40	0	40	40	0	40	40	0
	標準偏差	0.114	0.137	0.023	0.119	0.117	-0.003	0.104	0.102	-0.002	0.148	0.148	0.000
	最小値	0.243	0.275	0.032	0.347	0.283	-0.064	0.352	0.332	0.021	0.195	0.152	-0.043
	最大値	0.756	0.790	0.024	0.832	0.833	0.001	0.770	0.803	0.033	0.763	0.806	0.043
平均値	0.522	0.553	0.031	0.665	0.627	-0.038	0.527	0.566	0.039	0.493	0.476	-0.018	
1年2組	平均値	0.569	0.564	-0.005	0.619	0.634	0.015	0.583	0.591	0.008	0.479	0.485	0.006
	人数	40	40	0	40	40	0	40	40	0	40	40	0
	標準偏差	0.136	0.124	-0.012	0.134	0.114	-0.020	0.118	0.102	-0.016	0.181	0.196	0.015
	最小値	0.239	0.265	-0.034	0.310	0.245	-0.065	0.278	0.250	-0.028	0.133	0.147	0.014
	最大値	0.805	0.769	-0.035	0.819	0.798	-0.020	0.796	0.786	-0.010	0.802	0.792	-0.010
平均値	0.563	0.578	0.015	0.646	0.658	0.012	0.538	0.577	0.039	0.475	0.543	0.068	
1年3組	平均値	0.566	0.573	0.007	0.610	0.596	-0.005	0.611	0.605	-0.005	0.509	0.515	0.015
	人数	40	40	0	40	40	0	40	40	0	40	40	0
	標準偏差	0.130	0.105	-0.025	0.136	0.118	-0.019	0.092	0.113	0.020	0.182	0.159	-0.023
	最小値	0.206	0.231	0.025	0.257	0.207	-0.050	0.419	0.291	-0.129	0.104	0.192	0.088
	最大値	0.756	0.712	-0.044	0.822	0.814	-0.008	0.787	0.755	-0.032	0.749	0.822	0.073
平均値	0.584	0.600	0.016	0.635	0.618	-0.017	0.588	0.605	0.018	0.515	0.527	0.012	
1年4組	平均値	0.504	0.525	0.021	0.578	0.583	0.005	0.544	0.526	-0.018	0.440	0.458	0.018
	人数	40	40	0	40	40	0	40	40	0	40	40	0
	標準偏差	0.146	0.136	-0.010	0.143	0.135	-0.008	0.113	0.111	-0.002	0.174	0.172	-0.002
	最小値	0.224	0.220	-0.004	0.222	0.203	-0.020	0.331	0.232	-0.099	0.133	0.119	-0.013
	最大値	0.819	0.824	0.005	0.839	0.802	-0.037	0.732	0.768	0.035	0.830	0.784	-0.046
平均値	0.523	0.545	0.024	0.638	0.578	-0.060	0.546	0.528	-0.018	0.468	0.454	-0.014	
1年5組	平均値	0.582	0.555	-0.027	0.610	0.590	-0.019	0.555	0.557	0.002	0.502	0.510	0.008
	人数	40	40	0	40	40	0	40	40	0	40	40	0
	標準偏差	0.122	0.121	-0.001	0.150	0.134	-0.014	0.131	0.109	-0.023	0.177	0.169	-0.008
	最小値	0.253	0.246	-0.007	0.343	0.310	-0.033	0.289	0.242	-0.047	0.096	0.109	0.013
	最大値	0.813	0.795	-0.018	0.840	0.783	-0.057	0.850	0.783	-0.067	0.824	0.820	-0.004
平均値	0.577	0.550	-0.026	0.645	0.607	-0.038	0.564	0.541	-0.023	0.552	0.530	-0.022	

<他校※との平均値と中央値での比較>

「柔軟性」「影響力の行使」については平均値、中央値ともに全国平均をやや下回るものの同程度。「表現力」は事後の受検でスコアの向上は認められたが、全国平均からは下回っている。一方で、「共感・傾聴力」についてはスコアがダウンしたものの、平均値、中央値ともに全国平均を大きく上回っている。

※全国の「Ai GROW」導入校の生徒から5,000名の中高生を無作為に抽出

d-4 コミュニティ系コンピテンシー

【合計】

項目	地球市民 (事前)			地球市民 (事後)		
	平均値	中央値	変化	平均値	中央値	変化
平均値	0.523	0.536	0.012			
人数	374	374	0			
標準偏差	0.108	0.108	0.000			
最小値	0.164	0.246	0.082			
最大値	0.767	0.821	0.054			
中央値	0.517	0.535	0.018			

【学年・クラス別】

		地球市民 (平均)		
		地球市民 (事前)	地球市民 (事後)	変化
1年1組	平均値	0.500	0.510	0.010
	偏差	40	40	0
	標準偏差	0.111	0.120	0.009
	最小値	0.254	0.250	-0.004
	最大値	0.680	0.762	0.074
	中央値	0.483	0.492	0.009
1年2組	平均値	0.490	0.520	0.022
	偏差	40	40	0
	標準偏差	0.117	0.101	-0.015
	最小値	0.164	0.310	0.154
	最大値	0.698	0.727	0.029
	中央値	0.513	0.528	0.015
1年3組	平均値	0.546	0.564	0.016
	偏差	40	40	0
	標準偏差	0.125	0.092	-0.033
	最小値	0.233	0.298	0.065
	最大値	0.758	0.740	-0.019
	中央値	0.559	0.578	0.019
1年4組	平均値	0.499	0.514	0.015
	偏差	40	40	0
	標準偏差	0.098	0.090	0.001
	最小値	0.252	0.268	0.017
	最大値	0.730	0.734	0.004
	中央値	0.501	0.512	0.012
1年5組	平均値	0.534	0.529	-0.005
	偏差	40	40	0
	標準偏差	0.116	0.119	0.003
	最小値	0.271	0.284	0.012
	最大値	0.767	0.759	-0.008
	中央値	0.536	0.517	-0.021

		地球市民 (平均)		
		地球市民 (事前)	地球市民 (事後)	変化
3年1組	平均値	0.518	0.562	0.044
	偏差	37	37	0
	標準偏差	0.104	0.097	-0.007
	最小値	0.260	0.315	0.055
	最大値	0.726	0.794	0.068
	中央値	0.511	0.555	0.044
3年2組	平均値	0.559	0.536	-0.023
	偏差	38	38	0
	標準偏差	0.097	0.114	0.017
	最小値	0.301	0.286	-0.015
	最大値	0.747	0.776	0.029
	中央値	0.579	0.551	-0.029
3年3組	平均値	0.535	0.536	0.001
	偏差	34	34	0
	標準偏差	0.099	0.109	0.010
	最小値	0.325	0.304	-0.022
	最大値	0.707	0.821	0.114
	中央値	0.536	0.502	-0.034
3年4組	平均値	0.515	0.525	0.010
	偏差	36	36	0
	標準偏差	0.109	0.121	0.012
	最小値	0.328	0.267	-0.062
	最大値	0.764	0.784	0.020
	中央値	0.499	0.517	0.018
3年5組	平均値	0.530	0.572	0.042
	偏差	29	29	0
	標準偏差	0.091	0.102	0.011
	最小値	0.391	0.246	-0.145
	最大値	0.687	0.774	0.087
	中央値	0.534	0.583	0.049

<他校*との平均値と中央値での比較>

「地球市民」は事後のスコアで大きな成長が認められ、平均値、中央値ともに全国平均を大きく上回ることとなった。

全13コンピテンシーの中でも「個人的実行力」「創造性」については、事後の受検結果で下位層が底上げされていることも認められた。特に前述の通り「創造性」については平均値と中央値ともに事後の受検でスコアが向上していることから、「創造性」の成長に注力した指導が功を奏している可能性がある。

※全国の「Ai GROW」導入校の生徒から5,000名の中高生を無作為に抽出

(e) コンピテンシーの成長まとめ

本事業の有用性を明らかにするため、以下のコンピテンシーにおいて「Ai GROW」の事前・事後の測定スコアを基にt検定を実施した。

分野	コンピテンシー	事前	事後	変化	有意差	t検定
認知系	課題設定 ※	0.567	0.568	0.000	なし	0.484
	論理的思考 ※	0.563	0.571	0.008	なし	0.115
	疑う力	0.574	0.579	0.005	なし	0.205
	創造性 ※	0.509	0.542	0.032	あり	0.000
自己系	個人的実行力 ※	0.638	0.629	-0.008	なし	0.117
	自己効力 ※	0.553	0.563	0.010	ややあり	0.055
	耐性	0.601	0.600	-0.001	なし	0.457
	決断力	0.590	0.586	-0.004	なし	0.251
他者系	表現力	0.537	0.553	0.016	あり	0.008
	共感・傾聴力	0.613	0.605	-0.008	なし	0.119
	柔軟性	0.576	0.580	0.004	なし	0.257
	影響力の行使 ※	0.460	0.488	0.027	あり	0.000
コミュニティ系	地球市民 ※	0.523	0.536	0.012	あり	0.024

(※ 本事業のキー・コンピテンシー。「協働性」は「自己効力」と「影響力の行使」の組み合わせで定量化)

(イ) 観光都市を描くプログラム

質問・意見

- ・みえグローバル学生大使は三重県雇用経済部国際戦略課が担当している。学生大使には、様々な高校や個人が登録している。県に観光案内などの依頼があった際、学生大使の高校や個人に県から声をかけて参加者を募り、依頼者に英語で案内をしてもらう。三重県に關係する学生であれば学生大使の申請可。三重大学の留学生が200～300人くらい団体に登録している。
- ・別紙資料に書いてある「グリーンツーリズムモデルの開発」はどのようにする予定か
→まだ取り組んでいない。今後の課題。
- ・コンテストに出すだけでなく、地元を知ってもらおう取組をしてほしい。コンソーシアムやその関連から出てきた課題に取り組んでみてはどうか。
→昨年度に伊勢市長から依頼を受けてPR動画を作成し、市長や担当者に見てもらった。
- ・伊勢神宮は、海外の人に説明するのが難しいところ。遷宮で20年ごとに新しくするが、海外の人には「神＝古いモノ」というイメージがあり、伝えるのが難しい。

(3) 効果の測定とカリキュラムマネジメントについて (守屋より説明)

7月GROW受験結果報告。(IGS 矢部より報告)

- ・気質は、1・3年生とも似ている。山商生は他校と比べて外向性が高い。(品川女子学院並み)
- ・認知系は伸ばしやすい力。1・3年生とも似ている。3年生は力の高低幅が広い。
- ・自己系(決断力・耐性)は、3年生のほうが伸びている。部活動等による成果か。
- ・他者系(影響力の行使)は低い。調整力を伸ばすのは難しい。
- ・山商生は主体性を伸ばしやすい。課題は協働性。

5 その他

感想・意見

- ・教員間で温度差がないかが気になる。ほかの教員も上手くまきこんでいく必要がある。
日頃インターンシップの大学生を見ているが、社会人との感覚の違いが気になる。山商は課題研究で企業と関わりをもって取り組んでいるが、1回ではなくもっと地元企業と密に関わっていったらどうか。

第2回運営指導委員会

日時：令和2年3月2日(月)13時～15時 場所：宇治山田商業高等学校校長室

参加者(敬称略)

学校法人享栄学園鈴鹿大学准教授	高見 恵一	株式会社ア－リー・バード代表取締役	三田 泰久
IGS株式会社教育事業部マネージャー	矢部 一成	三重県雇用経済部国際戦略課長	生川 哲也
三重県教育委員会事務局高校教育課長	諸岡 伸	三重県教育委員会事務局高校教育課指導主事	辻井 伸文
三重県教育委員会事務局高校教育課指導主事	山本 エリ		
宇治山田商業高等学校校長	廣島 朗	宇治山田商業高等学校事務長	溝口 克志
宇治山田商業高等学校教頭	奥田 隆行	宇治山田商業高等学校教諭(事業担当者)	守屋 宏美

協議事項

- (1) 2019年度 研究開発実施状況について
- (2) 2020年度 研究開発実施計画について

(9) グローカル人材育成コンソーシアムみえ報告

① 第1回グローバル人材育成コンソーシアムみえ

日時：令和元年10月2日(水)15時30分～17時

場所：宇治山田商業高等学校校長室

委員：伊勢市産業観光部長 須崎 充博 伊勢農業協同組合営農部長 河井 英利
UL Japan人事総務部長代理 福村 伝史 海女小屋はちまんかまど代表取締役 野村 一弘
皇學館大学文学部コミュニケーション学科教授 豊住 誠 三重県教育委員会事務局高校教育課長 諸岡 伸
三重県教育委員会事務局高校教育課指導主事 山本 エリ 三重県教育委員会事務局高校教育課指導主事 辻井 伸文
宇治山田商業高等学校長 廣島 朗 教頭 奥田 隆行
教諭 守屋宏美 藤本英彦 田根誠 児玉靖明 福井竜一郎 田中秀和

協議事項

(1) 事業概要と評価について説明 (守屋)

(2) 今後の取組に関する現状と課題 (各担当より)

(3) 意見交換

- ・どのような関わりによってどのような力が育つかを測ることは難しいのではないかと。
→GROWで生徒の力を測定し、三菱UFJの評価システムで事業を評価する。どの時期に何をすればどのように伸びるかについては今後検証していく。
- ・科目「コミュニケーション英語」と「グローバルコミュニケーション」の内容について、どのようなバランスで考えているか。
→コミュニケーション英語は4技能、グローバルコミュニケーションは発信力。新学習指導要領の科目「論理・表現」にSDGsの観点を取り入れた科目と考えている。
- ・観光分野の実践機会を得るのが難しい。エコツーリズムのプランを組むことはできそうだが、実践するにはどうすればよいか、アイデアがほしい。
- ・皇學館大学の中国人留学生と英語で交流してはどうか。
- ・県外大学への進学者に卒業後伊勢に戻ってきてほしい。山商から皇學館大学に進学し、地元就職する等の制度があってもよいのかも。
- ・神宮の観光案内ガイドと一緒に付き添う活動をしてはどうか。
伊勢市観光協会はボランティア、商工会議所は検定お伊勢さん合格者が仕事として活動をしている。観光案内所に行くと活動のことがわかる。
皇學館大学で伊勢に関する講座がある。聴講してからそのような活動をしてはどうか。
- ・大学で県外に行って初めて伊勢の良さを知る学生が多い。地元について学ぶ取組をした学年の生徒だけが良さを知っている、というのではなく、ずっと続けてほしい。
- ・伊勢志摩サミットの時、タクシー会社を対象に(株)UL Japanで英語講座を実施した。伊勢市として、そのような機会はないのか。観光協会・商工会議所・市役所で連携してはどうか。
- ・ワンペーパーの作成、伊勢に関する壁新聞をグローバルコミュニケーションの授業で作ってみてはどうか。
- ・伊勢志摩サミットの時、JAでは農作物をどのようにアピールできるかを考えたが、続かなかった。JAには外国人研修生もいる。海外の人に喜んでもらえる一次産業は何かについて一緒に考えてはどうか。

② 第2回グローバル人材育成コンソーシアムみえ

日時：令和元年10月31日(木)15時30分～17時

場所：宇治山田商業高等学校校長室

委員：伊勢市産業観光部長	須崎 充博	伊勢農業協同組合営農部長	河井 英利
UL Japan人事総務部長代理	福村 伝史	海女小屋はちまなかまど代表取締役	野村 一弘
皇學館大学文学部コミュニケーション学科教授	豊住 誠	三重県教育委員会事務局高校教育課長	諸岡 伸
三重県教育委員会事務局高校教育課指導主事	山本 エリ	三重県教育委員会事務局高校教育課指導主事	辻井 伸文
宇治山田商業高等学校長	廣島 朗	教頭 奥田 隆行	
教諭	守屋宏美 藤本英彦 田根誠 児玉靖明 福井竜一郎 田中秀和		

報告事項

- (1)「第1回グローバル人材育成コンソーシアムみえ」より
- (2)全国サミットについて(10月24日 国立オリンピック記念青少年総合センター)

協議事項

- (1)2020年度 課題研究テーマについて

今年度の課題研究テーマ一覧をもとに、意見交換を行った。

- ・すべての講座を「地域観光」ととらえてもよいのではないか。
- ・県外のコンサルタントと話をすると、神宮を取り上げるとよい、と言われる。神宮で考えるのか、神宮以外で考えるのか。
- ・海女の魅力を伝えた。「観光業を」と考えていたわけではないが、結果、観光への貢献となった。掘り下げることが「観光」につながる。
- ・「土産」を考える商品開発を。
- ・インターンではなく生徒が企業に提案し、具現化できるものは商品化している。企業に形にしてもらう。
- ・企業にとってもメリットがある取組になるとよい。
- ・卒業生は自営業なのか。→自営業はほとんどいない。
- ・伊勢の歴史や文化を学ぶ講座が必要ではないか。難しいことでなくとも、写真を見せるだけでもよい。

③ 第3回グローバル人材育成コンソーシアムみえ

日時：令和2年1月31日(金)15時50分～17時

場所：シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 特別室

委員：伊勢市産業観光部長	須崎 充博	伊勢農業協同組合営農部長	河井 英利
UL Japan人事総務部長代理	福村 伝史	海女小屋はちまなかまど代表取締役	野村 一弘
皇學館大学文学部コミュニケーション学科教授	豊住 誠	三重県教育委員会事務局高校教育課長	諸岡 伸
三重県教育委員会事務局高校教育課指導主事	山本 エリ	三重県教育委員会事務局高校教育課指導主事	辻井 伸文
宇治山田商業高等学校長	廣島 朗	教頭 奥田 隆行	
教諭	守屋宏美 藤本英彦 田根誠 児玉靖明 福井竜一郎 田中秀和		

協議事項

- (1) 2019年度 研究開発実施状況について
- (2) 2020年度 研究開発実施計画について
- (3) 意見交換
 - ・素晴らしい事業発表報告会であった。発表会の場をケーブルテレビ等によりもっと市民に公開してもよかったのではないか。
 - ・今後も、現地調査へ行く前に、事前学習に伊勢市産業観光部の活用をしてはどうか。
 - ・外国人に一次産業、食文化を知ってもらいたい。JAとして協力できることがあればしたい。
 - ・活動の幅が広いと感じた。
 - ・発表会では、目的、主旨を理解してきちんと伝えることができていた。
 - ・企業に向けての、アレンジしたプレゼンができていた。
 - ・次年度、皇學館大学にて中国人留学生との交流を実施したい。
 - ・次年度も引き続きこのコンソーシアムにおける研究開発体制をお願いしたい。

2019年度指定
地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）
研究報告書・第1年次

令和2年3月発行

発行者 三重県立宇治山田商業高等学校
〒516-0018 三重県伊勢市黒瀬町 1193
TEL 0596-22-1101 FAX 0596-22-4624
HP <http://www.mie-c.ed.jp/cujiya/>